



報 會 師 劑 藥 沖 繩

No.296. 2019(平成31年) 1・2月号



沖 繩 県 薬 劑 師 会

薬剤師行動規範

昭和43年8月26日 薬剤師倫理規定制定

平成9年10月24日 薬剤師倫理規定改定

平成30年1月17日 薬剤師行動規範制定

薬剤師は、国民の信託により、憲法及び法令に基づき、医療の担い手として、人権の中で最も基本的な生命及び生存に関する権利を守る責務を担っている。この責務の根底には生命への畏敬に基づく倫理が存在し、さらに、医薬品の創製から、供給、適正な使用及びその使用状況の経過観察に至るまでの業務に関わる、確固たる薬（やく）の倫理が求められる。

薬剤師が人々の信頼に応え、保健・医療の向上及び福祉の増進を通じて社会に対する責任を全うするために、薬剤師と国民、医療・介護関係者及び社会との関係を明示し、ここに薬剤師行動規範を制定する。

1. 任務

薬剤師は、個人の生命、尊厳及び権利を尊重し、医薬品の供給その他薬事衛生業務を適切につかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって人々の健康な生活を確保するものとする。

2. 最善努力義務

薬剤師は、常に自らを律し、良心と他者及び社会への愛情をもって保健・医療の向上及び福祉の増進に努め、人々の利益のため職能の最善を尽くす。

3. 法令等の遵守

薬剤師は、薬剤師法その他関連法令等を正しく理解するとともに、これらを遵守して職務を遂行する。

4. 品位及び信用の維持と向上

薬剤師は、常に品位と信用を維持し、更に高めるように努め、その職務遂行にあたって、これを損なう行為及び信義にもとる行為をしない。

5. 守秘義務

薬剤師は、職務上知り得た患者等の情報を適正に管理し、正当な理由なく漏洩し、又は利用してはならない。

6. 患者の自己決定権の尊重

薬剤師は、患者の尊厳と自主性に敬意を払うことによって、その知る権利及び自己決定の権利を尊重して、これを支援する。

7. 差別の排除

薬剤師は、人種、ジェンダー、職業、地位、思想・信条及び宗教等によって個人を差別せず、職能倫理と科学的根拠に基づき公正に対応する。

8. 生涯研鑽

薬剤師は、生涯にわたり知識と技能の水準を維持及び向上するよう研鑽するとともに、先人の業績に敬意を払い、また後進の育成に努める。

9. 学術発展への寄与

薬剤師は、研究や職能の実践を通じて、専門的知識、技術及び社会知の創生と進歩に尽くし、薬学の発展に寄与する。

10. 職能の基準の継続的な実践と向上

薬剤師は、薬剤師が果たすべき業務の職能基準を科学的原則や社会制度に基づいて定め、実践、管理、教育及び研究等を通じてその向上を図る。

11. 多職種間の連携と協働

薬剤師は、広範にわたる業務を担う薬剤師間の相互協調に努めるとともに、他の医療・介護関係者等と連携、協働して社会に貢献する。

12. 医薬品の品質、有効性及び安全性等の確保

薬剤師は、医薬品の創製から、供給、適正な使用及びその使用状況の経過観察に至るまで常に医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に努め、また医薬品が適正に使用されるよう、患者等に正確かつ十分な情報提供及び指導を行う。

13. 医療及び介護提供体制への貢献

薬剤師は、予防、医療及び介護の各局面において、薬剤師の職能を十分に発揮し、地域や社会が求める医療及び介護提供体制の適正な推進に貢献する。

14. 国民の主体的な健康管理への支援

薬剤師は、国民が自分自身の健康に責任を持ち、個人の意思又は判断のもとに健康を維持、管理するセルフケアを積極的に支援する。

15. 医療資源の公正な配分

薬剤師は、利用可能な医療資源に限りがあることや公正性の原則を常に考慮し、個人及び社会に最良の医療を提供する。

・表紙

「キューガーデン 入口にある薬局」 photo by 成川 玲子 (レオナ薬局)

撮影地：イギリス

キューガーデン (Kew Gardens) は、イギリスの首都ロンドン南西部のキューにある王立植物園

とよ ひら ほう うん
題字：豊平峰雲

目次

薬剤師行動規範

| | | |
|---------------|--|-----------------|
| 年頭挨拶 | 新年のご挨拶…………… | 亀谷 浩昌 (3) |
| | 新年ご挨拶…………… | 山本 信夫 (4) |
| | 新年のあいさつ…………… | 砂川 靖 (6) |
| | 決戦の年を迎えて！…………… | 本田 あきこ (8) |
| | 年頭にあって…………… | 藤井 もとゆき (9) |
| | 年頭のご挨拶…………… | 松本 純 (10) |
| | 年頭のご挨拶…………… | とかしき なおみ (11) |
| | 新年のごあいさつ…………… | 西銘 恒三郎 (12) |
| | 年頭ご挨拶…………… | 國場 幸之助 (14) |
| | 年頭のご挨拶…………… | 宮崎 政久 (16) |
| 祝賀会 | 平成30年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催…………… | 大城 喜仁 (18) |
| | ・・・受賞者プロフィール…………… | (20) |
| | ・・・祝賀会スナップ写真…………… | (25) |
| 広報 | アリカワコウヘイ氏にインタビュー～“マシューくん”お薬手帳発行記念～ | 大城 喜仁 (28) |
| 医薬分業 | 健康サポート薬局を見学させていただいて…………… | 笠原 大吾 (31) |
| 日薬大会 | 第51回日本薬剤師会学術大会参加報告…………… | 春日 崇彰 (34) |
| 啓発活動 | 平成30年度グッジョブスクールinなは参加報告…………… | 勝連 貴子 (38) |
| 女性薬部会 | 2019年度 薬剤師継続学習通信教育講座募集にあたり…………… | 村田 美智子 (39) |
| 投稿 | 下剤の処方実態調査から見た“かかりつけ薬剤師”の役割…………… | 大屋 三登 (40) |
| 卸部会 | 平成30年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会報告…………… | 吉富 弓江 (46) |
| | 平成30年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム報告…………… | 吉富 弓江 (48) |
| D I | 薬事情報おきなわNo. 253…………… | 薬事情報センター (51) |
| 県民の皆様へ | あまくま薬立つ情報…………… | (63) |
| 薬草学 | 身近な薬草を知ろう 第38回 島カボチャ：ナンクワー：島南瓜…………… | 狩俣 イソ (64) |
| 薬連だより | 本田あきこ全国キャラバン IN 沖縄…………… | 山城 英人 (66) |
| | 国会レポート ～平成31年度政府予算案～…………… | 藤井 もとゆき (67) |
| | 本田あきこ オレンジ日記 ～薬学生とのふれあい～…………… | 本田 あきこ (68) |
| 理事会 | 平成30年度第7回理事会議事概要…………… | (69) |
| 会務報告 | 平成30年12月・平成31年1月分…………… | (81) |
| | 沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成30年12月・平成31年1月分）…………… | (85) |
| 訃報 | 佐久間長昭先生、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。…………… | (84) |
| 一包一話 | 人生って・・・…………… | 橋の下 (86) |
| 会員作品 | 誌上ギャラリー（裏表紙）について・・・平成30年 誌上ギャラリー大賞&優秀賞決定！…………… | (88) |
| 編集後記 | …………… | (88) |
| お知らせ | 会報原稿募集のご案内…………… | (50) |
| | 県薬が会員に販売している印刷物等…………… | (80) |
| | 会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について…………… | (84) |



新年のご挨拶

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
会長 亀谷浩昌



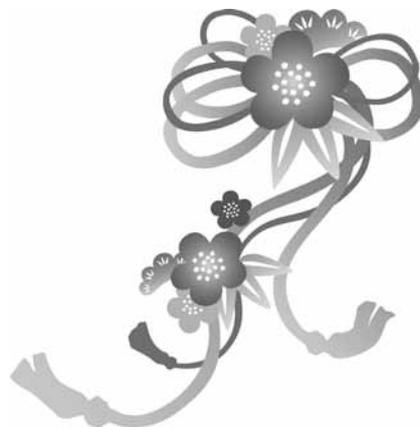
平成31年の新春を心よりお慶び申し上げます。旧年中は会員の皆様には沖縄県薬剤師会の活動に多大なご協力を頂き、衷心より感謝申し上げます。

さて、今年5月には、新天皇が即位され新しい年号が始まり、新しい歴史がスタートします。本会の皆様には猪突猛進ではなく思慮深く着実な歩みを期待致します。

元日を迎えて本会も新しい年の活動を始めますが、本会には組織としてまだまだ解決すべき問題が多々あります。知恵を出し合って解決し、永く活動を続けられる組織に変えて行きたいと思えます。また、外に目を向けると日本薬剤師会会員として、薬剤師全体の将来に大きく関わる大きなイベントがもう目前に迫っています。私達は様々な課題の優先順

位を明確にしながら、力を集中して一つひとつ乗り越えて行かねばなりません。多くの人からなる組織では当然意見の相違などによる問題は種々起こりますが、本道をしっかり見据え、全体としては未来につながる行動をしなければなりません。どうぞ組織を強くするために力を貸してください。同時に、会員の皆様には個々人のフィールドでしっかり責任を果たし、国民・県民の健康増進に薬剤師の力を発揮していただきたいと思えます。

私達はいつまでもバッシングを受け続けるわけにはいきません。改めるべきところは改め、誤解に基づくような言われなき非難に対しては適切に反論しながら、今年を反転・攻勢の年にするよう共に頑張っていきましょう。





新年ご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会長 山本 信夫



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より日本薬剤師会の諸事業に格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。また、昨年6月、新執行部が発足いたしました。薬剤師の役割と薬局の機能の原点に立ち戻り、医薬品等の適正な供給体制構築に向けて会務を進めてまいり所存ですので、あらためましてよろしくお願ひ申し上げます。

少子高齢化が加速する中、2025年に向けて進められてきた社会保障制度改革に続き、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えて国民皆保険制度の維持・継承と全世代型社会保障の構築を目指した取組が始まろうとしています。こうした中で薬剤師と薬局には、「かかりつけ」としての機能と役割を充実・強化し、各地域で構築される「地域包括ケアシステム」の一翼を担い、その役割を果たしていくことが強く求められています。

「経済財政運営と改革の基本方針2018」では、患者本位の医薬分業を実現し、地域の薬局が効果的・効率的に役割を果たすことができるよう調剤報酬のあり方を引き続き検討すること、セルフメディケーションを進めていく中で、地域住民の身近な存在として、健康の維持・増進に関する相談や一般用医薬品等を供給し、助言を行う機能を持った健康サポート薬局の取組を促進することが示されました。薬剤師・薬局には、薬剤の調製などの対物中心の業務から、患者、住民とのかかわ

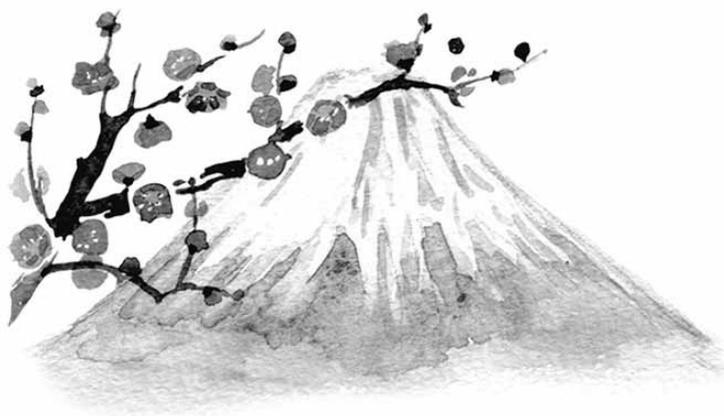
りの高い対人中心の業務に転換し、必要かつ適切なサービスを提供するとともに医薬品・衛生材料等の供給拠点として機能することで、地域におけるチーム医療の一員として地域医療提供体制に貢献することが求められているということです。

改正から5年目を迎えた医薬品医療機器等法は、薬剤師・薬局の基本的なあり方の見直しを検討され、医薬品の服用期間を通じた服薬状況の把握や指導を行い、必要に応じて医師等に情報提供するよう努め薬物療法の最適化に寄与することが薬剤師の職能であり、薬局の基本的機能であること、また、在宅医療への対応や関係機関等との情報連携に主体的な役割を担う薬局と高い専門性に基づく薬学的管理や特殊な調剤に対応できる薬局が有する機能、そしてその機能が患者・住民から容易に判断できる表示等について議論されました。一人の薬剤師が一つの薬局を開設する原則に立っていた現行の法体系では規制できないほど薬局・薬剤師を取り巻く環境は大きく変化してきました。今後法改正に向けた動きが始まります。薬剤師・薬局が我が国に導入されて130年が経過し、その間一貫して変わることのなかった法の基本的な原則について、現状を踏まえ時代の変化に即した適切な規制を含む大改革が行われようとしています。本年は、国民・患者のニーズに的確に対応できる薬剤師・薬局の姿を描く上で重要な年になると考えます。これからの100年、200年を見通した的確な議論を進めなくてはなりません。

一方、保険薬局の指定に係る留意事項通知に伴うルール適用により、大学病院等による同一敷地内への薬局誘致が続いています。こうした動きは医薬分業の趣旨に反し、かつ、「患者のための薬局ビジョン」に示されたかかりつけ薬剤師・薬局の推進に逆行するものであり、留意事項通知が厳格に適用されることを引き続き強く求めています。また、本年10月に引き上げ予定の消費税については、診療報酬等に上乘せされている仕入れ税額相当分を上回る仕入消費税額の還付が可能な措置を講ずることについて、医療関係団体とともに要望していきます。

社会保障制度改革が進む一方で、医療の高度化・複雑化などによる医療費の適正化が課題となっています。皆様におかれましては、薬物療法を効率的・効果的に提供し、地域包括ケアシステムの中で地域住民の生活を支援する地域社会のリソースとして、国民の健康寿命の延伸に貢献するかかりつけ薬剤師・薬局の推進に力を尽くしていただきますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、今後とも本会事業にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。





新年のあいさつ

沖縄県保健医療部
部長 砂川 靖



平成31年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃から本県の薬務行政の推進に格別の御支援と御協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

近年、国民の健康に対する意識の高まり、諸外国に例をみないスピードで進行している高齢化、医療技術の高度化等、医薬行政を取り巻く環境が大きく変化しております。

政府においては、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目処に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的の下で、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を進めており、薬剤師・薬局は、服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導に加え、24時間対応・在宅対応や、医療機関等との連携等、薬物療法の専門家として、その機能を発揮していくことが期待されております。

さらに、今後の薬局のあるべき姿として、厚生労働省が策定した「患者のための薬局ビジョン」により、かかりつけ薬剤師・薬局の基本的機能が示され、各都道府県においては、薬剤師・薬局のかかりつけ機能の強化に向けたモデル事業に取り組んでおり、県では沖縄県薬剤師会の皆様と連携をとりながら「電子版お薬手帳導入助成事業」を進めているところであります。

「電子版お薬手帳導入助成事業」では、県民がスマートフォンアプリを活用することにより、利用者やその家族等のお薬情報を一元

的・継続的な把握が可能となること、処方箋送信機能を利用することにより薬局での待ち時間短縮等の効果が期待されます。皆様には本事業への御協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、厚生労働省においては医薬品医療機器等法の施行後5年を目途とした法改正等の検討が行われているところであります。検討テーマの1つに「薬局・薬剤師のあり方」があり、薬局の機能分化や調剤後の服薬状況のフォローと医師等への情報提供について法令上明記するか等について審議が行われているところであります。今後の社会変化や国民からの多様なニーズに対応するため、薬局や薬剤師を取り巻く環境、求められる役割等はめまぐるしく変化していくものと思われれます。薬剤師の皆様にはこれまで以上に重要な役割を担っていくものと期待しております。

薬物乱用防止対策につきましては、本県の薬物事犯による検挙人員は増加傾向にあり、予断を許さない状況が続いております。特に昨今は、若年層の大麻乱用が大幅に増加しており、青少年への薬物乱用の拡がり懸念されております。沖縄県においても、例外ではなく、青少年への薬物乱用防止対策の充実強化が求められています。

県では、引き続き、薬物乱用防止対策に努めてまいりますので、皆様におかれましても、薬の専門家である薬剤師として、医薬品の適正使用と併せて、今後とも、薬物乱用防止対策に一層の御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

皆様には、県民の意識や生活スタイル、医療の要請が絶えず変化していることを踏まえつつ、自らも時代に即して、県民が期待する社会的使命を果たされますよう、今後とも、地域住民あるいは医療関係者から信頼され、保健医療に貢献できる薬剤師を目指し、不断の研鑽に努めていただきたいと思います。

医薬品の安定供給や適正使用の推進等を通

じ、県民の健康増進に御尽力を賜りますとともに、薬務行政の円滑な推進につきましては、今後とも変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、新春の門出にあたり、沖縄県薬剤師会の限りない御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。





決戦の年を迎えて！

日本薬剤師連盟
副会長 本田 あきこ



あけましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかに素晴らしい新年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は1月より全国の支部訪問活動を開始し、昨年末までに36都道府県を訪問することが出来ました。訪問先の皆様には大変お世話になり、改めまして御礼を申し上げます。事前の訪問計画の策定、活動中のお心配りなど、皆様が一生懸命応援して下さる姿に励まされながら、私もその応援に応えられるよう、精いっぱい活動を続けさせていただきました。また、同行していただく県薬連の皆様や訪問先の方々が、Something Orange！とオレンジ色の何かを身に付けて下さり、皆様と一体感を覚えながらの活動でした。

昨年を振り返りますと、2月に地元熊本において「本田あきこと語る会」を開催し、薬剤師会のみならず各方面から多数の皆様にご

参加いただきました。また、初夏のころから西日本を中心に、集中豪雨、地震、台風などの大災害に襲われました。そのような中、7月には、日本の災害対策等について安倍総理と対談する機会を得ることが出来ました。そして会員の皆様のご支援のおかげで、無事自民党の第一次公認をいただくことが叶い、自由民主党熊本県参議院比例区第十六支部を設立することができました。

さて、本年はいよいよ決戦の時を迎えます。平成29年3月の定時評議員会において組織内統一候補に決定していただいて以来、さまざまな活動を通じて賜りました支援者の皆様の温かいお気持ちを胸に、薬剤師の更なる結束を目指し、悲願達成のため力一杯頑張ることをお誓い申し上げ、新年の挨拶といたします。

今年は亥年、私は年女。直往邁進で頑張ります！

- 1 本田あきこのホームページを開設しました。
右のQRコードから閲覧してください →



- 2 Facebookページ「本田あきこの部屋」を公開しました。
右のQRコードから閲覧してください →



- 3 本田あきこメールマガジンを開始しました。
右のQRコードから登録をお願いいたします →





年頭にあたって

自由民主党組織運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井もとゆき



明けましておめでとうございます。薬剤師会の会員の皆様には、お健やかに輝かしい新たな年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、自民党の総裁選挙が行われ、再選された安倍首相は内閣改造と自民党役員人事を行い、第4次安倍改造内閣がスタートしました。私は、組織運動本部本部長代理及び総務会総務の任務を継続して担うとともに、参議院厚生労働委員会にも引き続き所属することとなりました。今後とも、委員会質疑や党務を通じて、医療・介護等の社会保障の充実と医薬品等の医療関連産業の発展に努めて参りたいと思います。

さて、昨年4月には診療報酬、介護報酬の同時改定が行われ、診療報酬本体及び介護報酬は、いずれもプラス改定となりました。調剤報酬では、「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師包括管理料」の点数引き上げや「地域支援体制加算」、「服用薬剤調整支援料」等の新設など、薬局における対人業務や在宅業務などの地域医療への貢献をより高く評価するものとなりました。

他方、薬価については1.65%の引き下げとなりました。さらに、いわゆる大型駅前薬局の評価の適正化、いわゆる同一敷地内薬局の調剤基本料を引き下げるなど、「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けて、すべての薬局が「かかりつけ薬剤師、薬局」としての機能を発揮していくことへの大きな期待を示すと同時に、病院敷地内への保険薬局の設置や誘致の動きに警鐘を鳴らすものとなりました。

そもそも薬局は、特定の医療機関のためにあるのではなく、国民の誰もが利用できるようになっているのが、本来のあるべき姿と思います。しかしながら、病院敷地内への薬局設置や誘致の動きは収まるどころか、利便性を謳い文句に、さらに広がる様相を見せています。この問題に関しては、昨年の参議院厚生労働委員会でも取り上げ、調剤報酬の改定のみによって、この解決を図ることには限界があること。いわゆる大型駅前薬局とか、セルフメディケーションの拠点となる地域の薬局等、様々な機能をもつ薬局を一律に評価するのではなく、その機能に応じて評価することを提案しました。併せて、一昨年の偽造医薬品流通や調剤報酬の不正請求等の事案を踏まえた、薬局のガバナンスの強化や薬局開設者の厳格化等も要請しました。

厚生労働省は、昨年の厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会において、①革新的な医薬品・医療機器への迅速なアクセスの確保・安全対策の充実、②医薬品・医療機器等の適切な製造・流通・販売を確保する仕組みの充実、③薬局・薬剤師のあり方・医薬品の安全な入手、の3テーマについて検討を行い、その議論を踏まえ、薬機法、薬剤師法の見直しを進めています。

制度改正が行われたとしても、薬剤師・薬局の地域医療での役割は、社会の高齢化、医療の高度化に伴い、一層高まるものと思います。

薬剤師の先生方の益々の活躍をご期待申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>



年頭のご挨拶

自由民主党国会対策委員会委員長代理
衆議院議員 松本 純



明けましておめでとうございます。また、旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

現在、自民党国会対策委員会委員長代理として、丁寧な審議を通じて、円滑な議事運営を図り、立法府としての職責を全うすべく力を尽くしているところです。

さて、医療技術の進歩・高度化など、医療を取り巻く環境が変化している中で、医薬分業は量から質の時代へと移り、薬剤師として求められる役割が変化しています。一方で、薬局における業務については、政府の会議の中でも様々な意見が出されていますが、国民から信頼される薬剤師としての取組が求められています。

世界にも例のない少子高齢化が進むなか、国としては社会保障制度を維持していくためにも、医療・介護・生活支援等を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」を構築することが喫緊の課題となっています。

在宅を含め、患者の療養の場が多様化する中で、有効で安全な薬物療法を切れ目なく継続的に患者が受けられるようにすることが必要であり、そのためには、患者から選ばれた「かかりつけ薬剤師」として、医療機関等と連携し、医療・介護の一翼を担い、大いに活躍いただくことを期待しております。今後は特に病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が重要となると考えており、入退院時における患者の服薬状況等の情報共有のほか、外来では、がんの薬物療法をはじめとして専門性が高い薬物療法に薬局薬剤師が関わる機会が増加している中では、オール薬剤師として連携しな

がら地域の患者を支えていくことが求められます。

また、高齢化が進み、国民の健康意識が高まる中で、健康寿命の延伸のために、病気を予防するための健康づくりも重要であり、「健康サポート薬局」の取組を通じて、健康に関する相談に幅広く対応し、適切な専門職種等につなぐこと等の取組が大切です。

現在、厚生労働省では、医薬品医療機器等法の前回の改正が施行されてから5年後の見直しに向けて、制度改正の検討が進められており、その中の検討課題として、薬剤師・薬局のことが取り上げられています。私は、自由民主党政務調査会厚生労働部会薬事に関する小委員会委員長として、小委員会の審議を通じて、関係の皆様からご意見・ご要望などを承り国民・患者さんのために薬剤師職能を発揮して頂けるよう全力を尽くしているところです。皆様方には、薬剤師が担うべき職能や今後の薬局のあるべき姿について、将来の社会の中で必要とされる姿を見据えて、この機にあらためて考えていただくことが必要です。

そして、経済再生には、政治の安定が不可欠で、経済を引き上げることやその経済成長の上で社会保障制度が堅持されなければならないことを胸に本年も全力で頑張っ参ります。

亀谷浩昌会長はじめ一般社団法人沖縄県薬剤師会及び沖縄県薬剤師連盟の役員並びに会員の皆様方にとりましてさらに良い年でありますようご祈念申し上げます新年のご挨拶と致します。



年頭のご挨拶

衆議院議員

とかしき なおみ



明けましておめでとうございます。亀谷浩昌会長をはじめ薬剤師の先生方におかれましては健やかに新年をお迎えになりましたこと、心よりお慶び申し上げます。

さて、私は先生方の力強いご支援のおかげで2017年に4期目の当選をさせていただきました。厚生労働副大臣・環境副大臣を経験させて頂き、現在は自民党 環境部会長を拝命しております。

先日、そのような私の経歴を知る先輩議員から「厚労副大臣と環境副大臣、どちらにやり甲斐を感じた？」と質問をされ、次のように答えました。「甲乙付け難い程、どちらの副大臣もやりがいを感じました。仕事をして分かったのは、2つのポストには異なる能力が求められる事です。端的に言えば『厚労は調整力』『環境は外交力』です。

厚生労働の仕事は、目指す方向が共有出来ていても立ち位置によってはどうしても利益相反が起こるので、絶対的に調整能力が必要となります。環境問題は1国だけ取組んでもあまり意味はなく、地球規模の視点が必要です。世界の中で日本のポジションをどこに取るのか、常に考えながら作戦を組み立てて諸外国と対峙する。環境では、俯瞰で、そして長い時間軸で物事を見る力を養われた気がします。「面白い話だね。全く特性の異なる2省で仕事をして、政治家として深みを増す機会になって良かったね。」と言って頂きました。

私は環境副大臣に就任した時に必ず実現しようとして心で決めたことがありました。それは

「厚労と環境を繋ぐ仕事」をすることです。その一例が「働き方改革の評価軸に、『CO2削減』を加える」ことでした。労働生産性を上げることを目標にした働き方改革で『時間』を評価軸に活用するのは当然の話です。しかし働き方改革に新鮮で時代に合った別の物差しはないか。そこで着目したのが、環境に取り組んでいる企業が社会から高い評価を受け、労働生産性も高めている点です。「通勤を公共交通にする」「在宅勤務でテレワークにする」「残業を減らす」「オフィスでエネルギー消費を減らす」など企業が普段取り組んでいるCO2削減を簡単に数値化できるツールを作成しました。環境問題は、心ある企業だけが取り組むのではなく、少しでも多くの企業に取り組んで頂ける様に環境整備することが重要と考えたのです。企業に『CO2削減』の評価軸を積極的に活用頂き、働き方改革と温暖化対策を同時に取組んでもらえるよう、この評価軸の活用を促すよう努力して参ります。私の環境副大臣としての仕事は昨年10月で終わりましたが、今後「厚労と環境を繋ぐ仕事」を私の政治家としてのライフワークにしていきたいと思います。それこそが、国民の皆様へ貴重な体験をさせて頂いたことへの、恩返しにつながると確信しています。

これからは自身の責務である厚労行政にはこれまで通り薬剤師の国会議員として取り組みながら、自民党環境部会長としてこれまでに以上に全力で職務に邁進していくことをお約束いたします。



新年のごあいさつ

自由民主党副幹事長
衆議院議員 西銘 恒三郎



新年おめでとうございます。昨年は、ひとかたならぬ御協力を賜りありがとうございました。

沖縄県薬剤師会の皆様とともに、平成31年の輝かしい新春を迎えますことをお慶び申し上げます。併せて、地域住民に身近な医薬品の専門家として、日夜、調剤、服薬指導等を通じ、沖縄県民の健康維持・増進にご尽力いただき深く敬意を表します。

ご承知のとおり、我が国では少子高齢化が進展しており、2040年頃には65歳以上の高齢者の人口はピークを迎えます。一方、現役世代の人口は急速に減少すると予測されています。昨年10月、安倍総理は、我が国の少子高齢化を「国難」と呼ぶべき最大の課題として、全ての世代が安心できる社会保障制度への改革に向けた決意を示されています。将来を見据え、社会構造の変化に的確に対応した持続可能な社会保障制度を速やかに確立していくことが重要と考えます。

また、日本人の平均寿命は、男女とも世界最高水準に達しており、2017年は、男性で81.09歳、女性で87.26歳といずれも過去最高を更新しました。医療技術の進歩等によって、平均寿命は今後も伸びていくと考えられており、まさに人生100年時代を迎えることとなります。人生100年時代では、健康で過ごせる期間をいかに長く保つかが重要となります。健康長寿社会を目指し、全ての人が元気に活躍し続けられる社会を実現することが期待されており、国においては、健康寿命の延伸に向けた取組みを更に進めていくこととし

ています。沖縄県でも2040年までの平均寿命日本一復活を目指し、官民一体となって県民の健康づくり運動に取り組んでおります。この目標の実現に向け、私としても、しっかりと取り組んでまいります。

また、薬物療法を支え、地域の医療・介護・予防の一翼を担っておられる薬剤師の皆様には、多剤・重複投薬の防止、残薬解消、医療機関等との連携への取組みを通じて、患者本位の医薬分業を実現し、地域において薬局が効果的・効率的にその役割を果たしていただくことが重要と考えます。2018年度の調剤報酬改定でも、かかりつけ薬剤師や地域医療に貢献する薬局の評価、薬局における対人業務の評価の充実が図られたところであり、今後もより専門性を発揮していただくことを大いに期待しています。

現在、政府では、薬剤師・薬局のあり方等について、医薬品医療機器等法の改正に向けた検討が進められています。また本年は、10月に予定されている消費税率の引上げに伴う臨時的な診療報酬・薬価改定が行われる見通しです。薬剤師の皆様を取り巻く状況にも様々な変化が生じるとは思いますが、私としては、引き続き、国政活動を通じて、皆様が安心して活躍していただくことのできる環境整備に励んでまいります。

沖縄県は人口10万人当たりの薬剤師数が全国平均を大幅に下回る現状にあります。地域包括ケアシステムを推進していく上で、薬剤師の果たす役割は重要であり、沖縄県の薬剤師数の確保を図っていくことは喫緊の課題で

す。昨年は沖縄県薬剤師会の皆様、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会の4者連名で、沖縄県の薬剤師不足解消に向け、10万筆を超える署名とともに、沖縄県内の薬学部新設を求める要望書を琉球大学学長に提出されました。亀谷会長をはじめ関係者の皆様の熱意と行動力に敬意を表します。沖縄県内の医療職種の皆様が一致協力して意思

を示されたことは強いメッセージとなり、県民の強い要望の表れとして大きな意義があったと考えます。沖縄県内の薬学部創設の実現及び必要な薬剤師数の確保に向けて、全力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、沖縄県薬剤師会の皆様の本年のご活躍を願って止みません。





年頭ご挨拶

衆議院議員
國場 幸之助



新たな年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃よりご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。国会活動に専念させていただけるのも、会員の皆様をはじめ薬業関係者の皆様のご理解の賜物でございます。

さて、平成31年度医薬関係予算案において、「革新的な医薬品・医療機器等への迅速なアクセス確保、安全対策の充実等」の予算について、前年度より引き上げ、革新的な医薬品・医療機器等の実用化促進のための審査体制の強化や生産技術の品質確保、また、安全対策の充実や信頼性の確保に向けた案が提出されております。

そして、「地域包括ケアシステムにおける薬剤師・薬局の機能強化」のための予算も、前年度からさらに拡充する方向で進んでおります。内容としては、医薬品医療機器等法（薬機法）の見直しの中で、薬局の果たすべき役割を整理し、地域包括ケアシステムにおいて、患者に対する最適な薬物療法の提供を支援できるような医薬分業及びかかりつけ薬剤師・薬局を推進することとされており、このため、薬剤師・薬局が地域において果たすべき役割や薬局間・医療機関等との連携体制を構築するためのモデル事業を実施、また、先進・優良事例を収集して事例集等を作成し、地方自治体等と情報共有することにより、かかりつけ薬剤師・薬局を推進するものとなっ

ています。その他、一般用医薬品の販売に従事する登録販売者のレベル向上に向けた育成事業や、医薬品の個人輸入等に対する対策なども展開されていく計画が盛り込まれております。

薬機法の改正に向け、厚生労働省がまとめた報告書では、薬剤師・薬局の役割が改めて明記され、服薬期間を通じた患者の様子把握や、市販薬や健康食品なども含めた一元的・継続的な管理と医師との情報共有も役割とされ、また、患者がどの医療機関を受診しても身近な所の薬局を利用するという方式にシフトして参ります。

薬局は、いわゆる門前薬局から地域に根ざした薬局として機能を果たすことになり、薬剤師の皆様には、より幅広い知識と対応が求められるようになって参ります。これまででも、お薬手帳を活用し、処方内容はもとより、副作用やアレルギー、既往症の記録などを管理することで、ひとりひとりにより適した対応を進めていただいていること存じますが、丁寧な医薬品使用や食事等の指導、一般用医薬品の選択及び使用等の相談も含め、利用者へのきめ細かい対応による健康管理のアドバイザーとして、かかりつけ薬剤師・薬局の理想的なモデル確立が進められて参ります。皆様におかれましては、健康管理に関する身近な相談相手として、県民、国民の健康増進のため、より一層のご活躍をご期待申し上げます。

薬業を取り巻く環境も変革期を迎え、機能強化の推進展開がなされていくこととなりますが、そのためには優秀な人材確保、育成が不可欠であり、県内医療を支える上で極めて重要な課題となっております。皆様がかねてより県内の国公立大学に薬学部の創設を求める活動を進められておりますように、全国平均に比べて圧倒的に薬剤師の数が少ないという現状を改善していかなければなりません。

県民・国民の命と安全安心を担う医療政策については、今後も精力的に取り組んで参る

所存でございます。県内事情をしっかりと把握し、より良い医療環境の実現と、薬剤師の皆様の地位向上のためにも、現場でご活躍されている皆様方と連携し、国政へとつなげる役割と果たして参りたいと考えておりますので、引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成最後の新春となりました。結びに、沖縄県薬剤師会ならびに薬剤師の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。





年頭のご挨拶

衆議院議員

宮崎 政久



あけましておめでとうございます。

亀谷会長をはじめとする沖縄県薬剤師会の皆様、ご関係のすべての皆様にはお健やかに新たな年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

平素は、皆様から格別なるご指導、ご支援を賜り衷心より御礼を申し上げます。旧年中は、貴会ならびに会員の皆様からひとかたならぬご支援ご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

この度11月22日に国政に復帰することが出来ました。皆様のご支援の賜物です。あらためて初心に戻り、沖縄のために一生懸命に働く所存です。

現在、沖縄関連税制改正や次年度予算編成に向けて、沖縄のため日本のため、職務に取り組んでおります。

改めまして、沖縄県薬剤師会の会員の皆様におかれましては、日頃より私たちの健康を維持するためのお仕事にご尽力頂き、心より感謝申し上げます。

お年寄りから小さなお子さんまで、薬を服用したことの無い方はおそらくまれでしょう。その薬が開発・製造され、病院や薬局を通じて生活者の手に届くまで、すべての段階において薬学の専門家として薬の安全性に責任を負っているのが薬剤師です。また、薬剤師に求められている社会的役割ははるかに広いものです。

医療法という法律では、薬剤師が医師、歯科医師とともに「医療の担い手」とされています。具体的には、調剤や医薬品の供給、在

宅医療への貢献などを通じて、薬剤師は医療人としての存在感を高めつつあります。

薬剤師には、街の薬局を訪ねれば、いつでも会うことができます。薬学は薬という化学物質を扱うため、かつての薬剤師は「街の科学者」と呼ばれましたが、薬剤師は気軽に相談できる身近な「街の医療人」でもあります。さらには、ホームページにおいても皆様へ「おくすりQ&A」「こどもの誤飲・誤食110番」、さらに「医薬分業Q&A」、「かかりつけ薬局検索」システム等、薬と健康に関する様々な最新の情報を提供して頂いておりますので、私たちにとって薬はより身近なものとなっております。

しかしながら、医薬業界を取り巻く環境には厳しいものがあります。消費税が増税となり、薬価改定の問題も含め、薬剤師の皆様の生活安定のため、政治の役割をしっかりと果たさねばならないと考えております。

私も、現場のご意見や皆様のご要望をしっかりと受け止め、薬剤師会の皆様のご意思に沿うよう全力を尽くして職務にあたる所存です。

今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、沖縄県薬剤師会の益々のご発展と、亀谷会長はじめとする役員の皆様、そして会員の皆様の一層のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

新年賀謹

昨年はい運営にご理解ご協力を賜わりお礼申し上げます。
皆様のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

法社一
人団般

沖縄県薬剤師会

| | | |
|--------|-------|------|
| 相談役 | 新垣正次 | 神村武之 |
| 監事 | 友利弘一 | 神谷朝雄 |
| 会長 | 亀谷浩昌 | |
| 副会長 | 江夏京子 | 前濱朋子 |
| 常務理事 | 外間惟夫 | |
| | 山里勇 | 笠原大吾 |
| | 村田美智子 | 西川裕 |
| | 川満直紀 | |
| 理事 | 成川賢一 | 佐藤雅美 |
| | 渡具知一枝 | 新垣秀幸 |
| | 下地仁 | 幸地良信 |
| | 我喜屋美香 | 荒井千春 |
| | 吉富弓江 | 吉田洋史 |
| | 上原卓朗 | |
| | 仲真良重 | |
| 会管薬局 | 與世平千夏 | |
| 会管薬局 | 城間盛光 | |
| 医療センター | 吉田典子 | |
| 薬事情報 | 小泉宝之 | |
| 試験検査 | | |
| 他職員一同 | | |

沖縄県薬剤師連盟
 沖縄県藤井もとゆき薬剤師後援会
 沖縄県本田あきこ後援会
 会長 亀谷浩昌
 幹事長 吉田久子
 他幹事一同



りゅうぎゅう いのしし
琉球猪

平成30年度

薬事功労受賞者

平成31年1月20日（日）午後6時より、ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城 守礼の間において、沖縄県薬業連合会主催の平成30年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会（以下、祝賀会）が、本会の我喜屋美香理事の司会進行のもと開催された。

祝賀会には多数の関係者および招待者が出席され、180余名の盛大な宴となった。薬事功労表彰の栄に浴されたのは、旭日小綬章を受章された神村武之氏をはじめとする22名の先生方である。

米村一成沖縄県薬業連合会理事による開会の挨拶の後、主催者の亀谷浩昌沖縄県薬業連合会会長が、受賞者のこれまでの労をねぎらうと共に今回の栄誉を祝福。その挨拶の中で、「県内の薬品卸業協会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会そして薬剤師会からなる薬業連合会は、本年も医薬品の安定供給及び適正・安全な使用等、薬品全般を通じて県民医療に貢献してまいります。本日は会員諸氏の薬事関連の受賞を祝い、加えて会員及び医療に関係する皆様の親睦を深めて頂きたいと思っております。さて、今年天皇陛下が4月30日に退位され、皇太子さまが翌5月1日に即位されます。伴って元号も変わりますので、薬業界一同気分を新たに、明るい良い年にしたいものです。改元に伴い、五月のゴールデンウィークは10連休となりますが、県民の健康を支える我々医療関連職には喜んでいるだけでは済まされません。保険薬局は診療側としっかり相談しあって県民に不便を掛けないようにしたいと思います。医薬品卸の皆様にはお薬や医療材料の安定供給をお願いいたします。登録販売者協会・医薬品配置協会の皆さんにはセルフメディケーションの最前列で頑張ってくださいと思います。われわれ薬業連合会は一致協力して沖縄県の長寿日本一の復

活も目指しつつ、国が推進している地域医療の充実、一次予防の推進に協力していきます。当然のことですが、薬業界だけでは十分な力を発揮できませんので、医療諸団体及び行政や政治家の先生方のお力添えをお願い致します。」と述べられ、薬業連合会関係各位のご支援、ご協力、そして政治力も必要であり、一丸となって諸課題、諸事業を積極的に取り組んでいきたいとの内容であった。

玉城デニー沖縄県知事の祝辞が砂川靖沖縄県保健医療部長により代読され、続いて安里哲好沖縄県医師会長の来賓挨拶を宮里達也沖縄県医師会副会長が代読された。

ご臨席いただいている来賓の方々の紹介の後、受賞者が花束を受け取りながら舞台に登壇し並ばれた。盛大な拍手のあと、司会より受賞者一人一人が紹介された。受賞者を代表して神村武之氏より、「今回も多く方々が各々の分野で受賞することができました。日々の活動と功績が認められ、栄えある賞を頂くことができました。これは常日頃より皆様の協力を頂き活動してきたことが、今般の受賞に繋がりました。嬉しく思い、衷心より感謝申し上げます。私の旭日小綬章は個人の努力、力量で貰えるような章ではありません。先輩方々から指導を得ながら皆様と共に薬剤師のため、薬剤師会のために活動した証であり、私が代表して頂いた章でありまして、感謝の気持ちで一杯です。厚くお礼を申し上げます。今後も続いて後輩薬剤師が受章されますよう、微力では有りますが協力させていただきます。素地な挨拶でございますが、本日は誠に有り難うございます。」と、謝辞と共に今後の抱負も語られた。

その後、記念撮影が行われた。会場から一斉にフラッシュが焚かれ、一層華やかになった。

合同祝賀会開催

祝賀式典

会期：平成31年1月20日(日)

会場：ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城 守礼の間
司会 沖縄県薬剤師会理事
我喜屋 美香

1. 幕開け ～受賞者登壇～
2. 開会のことば 沖縄県薬業連合会理事
米村 一成
3. 主催者あいさつ 沖縄県薬業連合会会長
亀谷 浩昌
4. 受賞者紹介
5. 来賓あいさつ 沖縄県知事 玉城 デニー
沖縄県医師会会長 安里 哲好
6. 花束贈呈
7. 受賞者代表挨拶 神村 武之
8. 乾杯 沖縄県歯科医師会会長
真境名 勉

懇談

1. 余興
2. 閉会のことば 沖縄県薬業連合会理事
前里 忍

◆◆◆受賞者◆◆◆

- 【旭 日 小 綬 章】
神村 武之
【薬事功労者厚生労働大臣表彰】
上原正徳 小湾勝敏
【公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰】
神里 まり子
【学校保健功労者文部科学大臣表彰】
神谷 正秀
【日本薬剤師会有功賞】
長嶺 文子 金城 孝有 宮里 咲子
【九州山口薬剤師会会長賞】
山里 勇
【沖縄県薬事功労者知事表彰】
伊佐 常隆
【沖縄県公衆衛生大会知事表彰】
小渡 宏二
【沖縄県薬剤師会長表彰】
荻堂 盛浩 吉田 和子
知念 正人 福地 健治 吉富 弓江
【沖縄県学校保健功労者表彰】
真栄城 玄一 垣花 チエミ 山城 専
【沖縄県公衆衛生大会会長表彰】
内間 俊和 比嘉 はつみ 平良 恭子

沖縄県歯科医師会の真境名勉会長の乾杯のご発声にて懇談に入った。盛り上がる歓談のひとつとき、お祝いに駆けつけた方々が受賞者と握手を交わす姿や写真撮影を行なう姿も多く見られ、会場は和やかな雰囲気包まれた。会場には受賞者の賞状と記念品が展示され、大勢の方が鑑賞された。

会も半ば、司会より多数の祝電が入っていることが告げられ、その中で西銘恒三郎衆議院議員の祝電が読み上げられた。続けてご臨席いただいている宮崎政久衆議院議員から挨拶を賜った。

賑わいをみせる中、余興に入った。多くの音楽コンテストで受賞経歴を持ち、様々なコンサートやコンクール、ライブ、イベントなどで演奏活動を行っている沖縄県立芸術大学の上地趣氏(チェロ)と上田勇貴氏(キーボー

ド)によるクラシック・ポピュラー演奏で幕が上がった。「愛の挨拶:エルガー」ではじまり、「糸:中島みゆき」「白鳥:サン・サーンス」「情熱大陸:葉加瀬太郎」を披露、その素晴らしい演奏からアンコールがかかり、「エンターテイナー:スコット・ジョプリン」で会場を沸かせた。続いて、新春の宴を華やかに彩る鮮やかな色の衣装を纏ったフラサークル“ホヌ”が登場。「ハノハノオマウイ」「ヒイラヴェ」「ヘウイ」と、和やかなハワイアンソングにのって華麗なダンスを披露した。司会から亀谷会長のお嬢様も登場されていることが告げられ、さらに祝宴を沸かせた。

華やかな歓談の一時も過ぎ、前里忍沖縄県薬業連合会理事の挨拶で幕となった。

(文：沖縄県薬剤師会事務局 大城 喜仁)

祝賀会



(後列) 左より、福地健治氏、吉富弓江氏、比嘉はつみ氏、伊佐常隆氏、垣花チエミ氏、荻堂盛浩氏、知念正人氏
(前列) 左より、宮里咲子氏、金城孝有氏、小湾勝敏氏、神村武之氏、上原正徳氏、神里まり子氏、山里勇氏

受賞者プロフィール

〔旭日小綬章〕

かみ むら たけ し
神 村 武 之

沖縄県薬剤師会において理事10年、副会長6年、会長10年と、26年に亘りその要職を歴任し、医薬分業の発展、確立に努めるとともに、事業を次々に企画実行し、本会の組織強化と発展に尽力した。さらに、平成21年に新沖縄県薬剤師会館建設と共に、県内初の休日・夜間薬局の開設を実現させた。

また、薬事行政等においても多くの公的委員等を歴任し、その一つに、長年に亘り沖縄県国民健康保険診療報酬審査員として現在に至るまで毎月多数の診療報酬請求書を精査し、社会保険医療行政の財政適正化に寄与すると共に、薬局側の診療報酬請求業務の資質向上に努めた。

〔公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰〕

かみ ざと こ
神 里 まり子

昭和63年にかみざと薬局を開局。平成2年から学校薬剤師として委嘱され、学校保健、学校環境衛生に関する指導助言を行い、学校環境衛生の向上に貢献している。平成6年より沖縄県立美里工業高等学校調理科の講師を務め、食品衛生・公衆衛生の面でも幅広く活躍した。また、公衆衛生に関する資格を有し、北谷給食センター消毒業務、沖縄市学校給食センター消毒業務等、公衆衛生業務に貢献した。

受賞者プロフィール

〔薬事功労者厚生労働大臣表彰〕

うえ はら まさ のり
上 原 正 徳

昭和39年に沖縄県薬剤師会の理事（学校薬剤師担当）に就任。沖縄県における学校薬剤師活動の普及啓発のために、全島の養護教諭を集めて講演会を開催するなど、精力的な活動を展開し、現在の学校薬剤師活動の基礎を築いた。

昭和49年に沖縄県立名護病院（現在の沖縄県立北部病院）に薬局長として勤務。病院薬剤師の立場から県内の医薬分業の推進に尽力し、平成7年に沖縄県立北部病院において県立病院で初めての院外処方せんが発行された。

こ わん かつ とし
小 湾 勝 敏

平成6年に沖縄県立南部病院薬局長に就任。医薬分業の必要性を唱え、南部地区薬剤師会と連携して地域薬局との会議を重ねられ尽力し、平成9年に沖縄県立南部病院から院外処方せんが発行され、南部地域における医薬分業が推進された。

平成17年に南部地区薬剤師会会長に就任し、病院薬剤師としての経験を活かして、薬薬連携の向上に尽力した。

〔学校保健功労者文部科学大臣表彰〕

かみ や まさ ひで
神 谷 正 秀

昭和42年に神谷薬局を開局。昭和58年に学校薬剤師として委嘱され、複数の小中高等学校を担当し、専門的な立場から適切な指導助言を行い、学校環境衛生の改善と向上に貢献した。児童生徒を対象に「薬物乱用防止教室」「健康講話」等も積極的に行い、児童生徒の健康増進に貢献した。また、学校薬剤師の支部長を複数地域において務め、会員の資質向上に寄与した。

〔九州山口薬剤師会会長賞〕

やま ざと いさむ
山 里 勇

沖縄県内の大手医薬品卸売販売業に長年に亘り従事し、医薬品の品質管理・安定供給に尽力している。

沖縄県薬剤師会においては、昭和55年から5年間、卸部会担当理事として会務に貢献した。平成17年から再び理事に就任し、財務担当理事として会の発展に尽力している。新沖縄県薬剤師会会館建設にあたっては、会館建設特別委員会委員長として種々の困難な問題を乗り越えて完工させ、組織の発展に貢献した。

受賞者プロフィール

〔沖縄県薬事功労者知事表彰〕

い さ つね たか
伊 佐 常 隆

昭和51年に宮盛薬局を開局。平成16年に中部地区薬剤師会嘉手納支部長として医薬分業推進等のために尽力し、平成28年には、中部地区薬剤師会会長に就任し、組織強化に尽力している。

沖縄県薬剤師会においては、平成27年に地域保健開局委員会委員に委嘱され、地域に根差した薬局運営について自身の経験を活かし会の運営に貢献した。

また、昭和53年に学校薬剤師に委嘱され、現在も学校保健活動の向上に貢献している。

〔沖縄県公衆衛生大会知事表彰〕

お ど こう じ
小 渡 宏 二

昭和43年に小渡薬局を開局。昭和47年に学校薬剤師に委嘱され、学校環境衛生の定期検査結果に基づき公衆衛生的見地から指導助言を行い、学校保健の充実と発展に貢献している。

また、平成元年から複数の県立高校の調理科非常勤講師として生徒らに調理過程における食品衛生学・公衆衛生学の講義を行い、公衆衛生の普及に貢献している。

〔日本薬剤師会有功賞〕

なが みね ふみ こ
長 嶺 文 子

昭和58年に学校薬剤師に委嘱され、現在に至るまで長年務め、学校環境衛生検査や学校保健委員会を通して学校側に専門的な立場から適切に指導助言を行い、学校環境衛生の充実と発展に貢献している。

きん じょう こう ゆう
金 城 孝 有

昭和36年に金城薬局を開局。医薬品の安定供給と地域住民の健康保健福祉に尽力した。また、平成元年から学校薬剤師を務め、専門性を生かして学校側に適切に指導助言をするなど、学校保健の向上に貢献した。

みや ごと てる こ
宮 里 暁 子

平成13年に学校薬剤師に委嘱され、専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にし、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言等を行い、学校保健活動の向上に貢献している。

受賞者プロフィール

〔沖縄県薬剤師会長表彰〕

おぎ どう もり ひろ
荻 堂 盛 浩

北部地域に根差した薬局運営の傍ら、平成7年の沖縄県立北部病院の院外処方せん発行に尽力し、北部地域における医薬分業の発展に貢献した。学校薬剤師としても今帰仁村内の学校を担当し、学校保健の充実と発展に尽力した。

また、沖縄県薬剤師会においては、長年に亘り代議員を務め、会の発展に貢献した。

よし だ かず こ
吉 田 和 子

長年にわたり薬局を経営し、身近な「かかりつけ薬局」として医薬品の安定供給と地域住民の健康をサポートしている。

那覇地区薬剤師会においては、平成11年から理事を務め、事業の円滑な運営発展に尽力した。

ち ねん まさ と
知 念 正 人

薬局経営の傍ら、南部地区薬剤師会の役員を務め、会員の資質向上に尽力した。

沖縄県薬剤師会においては、不動産庫・備蓄ネットワーク委員会の委員長として、不動産庫・備蓄ネットワークシステムの立ち上げに貢献した。

ふく ち けん じ
福 地 健 治

うるま支部支部長ならびに中部地区薬剤師会理事として薬剤師職能向上のために薬薬連携の中心的役割を担い尽力している。

沖縄県薬剤師会においては、薬学生実務実習受入委員会と地域保健委員会に所属し、会の発展に貢献している。

よし とみ ゆみ え
吉 富 弓 江

卸勤務薬剤師として医薬品の品質管理・安定供給に務めるとともに、卸部会薬剤師の育成や指導等、薬剤師業務の発展向上に寄与している。

沖縄県薬剤師会においては、医療安全対策、薬事情報センターの担当理事として会の発展に尽力している。

受賞者プロフィール

〔沖縄県学校保健功労者表彰〕

ま えしろ げん いち
真栄城 玄 一

昭和63年に学校薬剤師に委嘱され、複数の幼小学校を受け持ち、現在は沖縄県立鏡が丘特別支援学校浦添分校を担当している。専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭と連携を密にし、学校環境衛生の改善や学校保健活動の向上に貢献している。

かきの はな
垣 花 チエミ

平成5年に学校薬剤師に委嘱され、専門的な立場から学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、特に日常検査が大切であることを適切に指導助言し、学校保健活動の向上と発展に寄与している。

やま しろ あつし
山 城 専

平成7年に学校薬剤師に委嘱され、石垣島で複数校を担当している。専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭と連携し、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供等を行い、学校保健活動の向上に貢献している。

〔沖縄県公衆衛生大会長表彰〕

うち ま しゅん わ
内 間 俊 和

昭和45年に伊江島に内間薬局を開局。昭和63年に島内の複数校の学校薬剤師に委嘱され、学校保健委員会を通して学校環境衛生、特に日常点検の重要性を説き、公衆衛生的見地から指導助言を行い、学校保健の発展に寄与した。

ひ が
比 嘉 はつみ

平成16年に学校薬剤師に委嘱され、学校環境衛生、特に日常点検の重要性を説き、公衆衛生的見地から指導助言を行い、学校保健の発展に寄与した。また、薬の正しい使い方や薬物乱用防止に関する講話等を行い、生徒らの健康増進に貢献している。

たい ら きょう こ
平 良 恭 子

平成18年に薬局えぱ一わ一な～を開局。平成17年に学校薬剤師に委嘱され、学校環境衛生の指導助言とともに、薬の正しい使い方や薬物乱用防止に関する講話等を行い、公衆衛生的見地から生徒らの健康増進に貢献している。

また、沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会の副部長として組織の強化と部会員の資質の向上に尽力している。

祝賀会スナップ写真



開会のことば
米村 一成氏



主催者あいさつ
亀谷 浩昌会長



来賓あいさつ
砂川 靖氏



来賓あいさつ
宮崎 政久氏



来賓あいさつ
宮里 達也氏



乾杯の音頭
真境名 勉氏



閉会のことば
前里 忍氏



司会
我喜屋 美香氏



受賞者代表謝辞をする 神村武之氏



北部地区薬剤師会関係者



南部地区薬剤師会関係者

祝賀会スナップ写真



那覇地区薬剤師会関係者



中部地区薬剤師会関係者



学校薬剤師部会関係者

祝賀会スナップ写真



病院薬剤師部会関係者



卸勤務薬剤師部会関係者



沖縄県立芸術大学の上地趣氏（チェロ）と上田勇貴氏（キーボード）の
プロフェッショナルな演奏に魅了された。



華やかな衣装を纏ったフラサークル“ホヌ”が和やかなハワイアンソングにのせてダンスを披露

広報

アリカワ コウヘイ氏にインタビュー “マシューくん” お薬手帳発行記念

沖縄が誇る世界的著名な若きアーティスト“アリカワコウヘイ氏”が、ご自身の代表的作品“マシューくん”をアレンジし、当会発行のお薬手帳に掲載することが決定した。

当会とコラボレーションした白衣を着た“マシューくん”が完成したとの一報を受け、去る9月28日にアリカワ氏が主催する展覧会「15周年記念会場“HAPPY FANTASIA”」に、亀谷会長とインタビュアーを務める事務局の長嶺勇作と3名で訪ねた。大型台風が接近する大荒れの天候の中、それでも多くの観覧客が訪れていた。その中で一際目立つ風貌のアリカワ氏が、観覧客一人一人に丁寧に対応されていたのが印象に残っている。私達が“マシュー君”お薬手帳の掲げられているコーナーに差し掛かった時、アリカワ氏がインタビューに応じてくれた。

ALL FOR HAPPY

～すべては幸福のためにあるのだ～

実の父親からの虐待、夜逃げ、学校での孤立など、幼少の頃から複雑な環境で育った。高校時代、阪神大震災の被災と両親の離婚をきっかけに、沖縄に嫁いでいた姉を頼って母と二人で沖縄県に移住。子供の頃から続いていた野球には、20代になってもその世界に夢を持っていたが、同時期に私生活で、身内の死、知人の多額の借金を背負うなど、幾つもの不運に見舞われ大きな挫折を経験する。自殺も考えた。しかし、先に母親が自殺未遂を起こした。このことが、自ら自殺を考えるのではなく、「頑張っただけ生きてみよう」と奮い立たせた。

自らの生き方を模索する日々の中、「ALL FOR HAPPY ~すべては幸福のためにあるのだ～」という言葉が、突如、僕の脳裏に浮かんだ。複雑な環境で育ち、辛い体験をしても、その痛みを知ったからこそ、幸福の本質に気づくことができた。

(展覧会には、氏のテーマ「HAPPY！」で満ち溢れている。)

自分を試してみたい！

これまでの日々を変えていくために身近な環境から変えてみようと思った。ふと、目に

留まったのは、母親が花壇として使用していた灰色のコンクリートブロック。何気に絵の具で色を塗ったら、色を失っていた僕の心が鮮やかに彩られた。この時の衝撃は今でも忘れていない。色彩のパワーに強く関心を持ち、徐々に絵を描くことへ興味を持った。絵の具からクレパスに変えたら、描き易さ、馴染み易さもあり、素朴で温かみのある、より自分らしさを描くことができた。

お気に入りの作品を知人の花屋「ちゅらバナ」に飾ってもらったところ、花を買いに来るカフェのオーナーから個展の誘いが舞い込んだ。「私はあなたの絵が好き。あなたの絵でお店を飾ってみたい。」と言われた。将来、子どもができたなら自慢になると思い挑戦した。初個展は予想外の好評を得ることができた。絵を描くことで初めて出会った人達が感動してくれる事実が目の前にあった。

「自分を試してみたい！」

子供の頃から野球を続けていたが、絵を描くことは得意ではなく、全く興味もなかった。人生の軸にあった野球から離れ、色彩のパワーを信じて絵画の世界に飛び込むことを決意した。

(型にはまらない自由な描写と色彩感覚・・・その独創的な世界観、アーティスト“アリカワコウヘイ”を創り上げることになっていく。)

アーティスト「アリカワコウヘイ」は 路上の絵描きだった

2002年頃から本格的に絵を描き始めた。当時27歳、早い結果を望み、人が多く集まる北谷町美浜でゴザを敷き広げ、路上に座り、500円で作品を売っていた。

(展覧会には、当時の貴重なクレパス、絵の具、筆、帽子なども展示されていた。)

平日は県の臨時職員として働き、土日の雨の日以外は作品を販売していた。そのような時期が1年間あり、全く売れない日が続くこともあった。斜め向かいに、似顔絵を描き行列のできる絵描きがいた。同じように似顔絵を描くようになったら少しずつ売れるようになり、給与手取額を上まわるようになると、15年前の2003年、県の臨時職を辞めて画家になる決心をし、独立を果たした。

(鮮やかな色彩を基調とした温かみのある作品は、多くの県民に愛され、幅広い年齢層のファンを獲得、今では毎年、沖縄県内で大規模な展覧会が開催されている。)



路上の絵描きだった頃に使用していた
絵の具類も展示されていた

“マシューくん”というキャラクターが 世に生まれた経緯

マシューくんは、2004年にTシャツのデザインで描き始め、2006年には、ほぼ現在のようになった。この間、繰り返し描くことによって5才の頃の自分を投影するようになっていた。幼い頃の辛い思い出を、笑顔のマシューくんを描くことによって塗り替えていく作業をしていた。その時、幸せとは何かを考えるようになり、「HAPPY！」という言葉が出てきた。人生には良いことも悪いこともあり、人それぞれの波がある。悔やまず、幸せになるために前向きに生きて行こうという想いを込めて描いてきた。

マシューくんの頭には王冠がある。「みんなが主役！」「個々が地球の主役！」「人生の主役！」という意味を込めている。

沖縄県に対する想い

北谷町の路上の隅っこで、全く売れない絵描きの青年に、前を通りかかっただけなのに優しく声をかけてくれる、温かく交流をしてくれる、そんな沖縄だからこそ、僕は15年も描き続けることができた。いつか有名になってテレビに出演した時に、「彼の絵を持っているんだよ」「路上で絵を描いている時から知っているんだよ」と言われるように、沖縄県民の血は流れていないが、いろんな意味で沖縄の方の力になれるように、そして僕の作品で貢献できるように、隅っこから頑張りたい。

次ページへ続く⇒



展覧会に展示されていた“マシューくんお薬手帳”の表紙

沖縄県薬剤師会のお薬手帳の表紙への

キャラクター作成依頼を引き受けた経緯

お薬手帳を持つことは当然だと思っていたが、意外と抵抗のある方や持っていない方が多いことに驚いた。僕は常に持っていたので、依頼が来た時には光栄だった。母も薬局にお世話になっており、僕にできることがあればと思って引き受けた。

薬剤師との関わり

薬剤師の知人は多い。理事の佐藤雅美さんは、僕が初めてギャラリーという場所で展覧会をした時から応援してくれている。

健康に気を使っている？

一昨年まで体重が100kg近くもあった。健康診断でこのままだと死んでしまうと言われ、一念発起で半年間ジムに通い15kg落とすことに成功。健康診断でオールAの良好になったのでジム通いは止めたが、健康器具を購入して自宅でトレーニングを続けている。体重が増えないように、食事管理など、妻のおかげで維持している。

“マシューくん” お薬手帳の活用

マシューくんというキャラクターは、患者さんや薬剤師、お医者さんを繋ぐ架け橋になる存在だと思っている。お薬手帳の必要性を伝えるための、沖縄県薬剤師会の良い資材になれたらと思う。永く親しめる、常に持ちたいと思えるようなお薬手帳のデザインにしたいと思っている。

アリカワ氏の展覧会は、ただ絵を見せるだけではなく、会場に芝が敷き詰められ、花が溢れ、オリジナルの立体作品が飾られた、細部までこだわったインスタレーション（空間芸術）の中で絵を展示するスタイルで、観る側の五感をフルに刺激する。

社会との関わりを大切にしているアリカワ氏は、展覧会の際に毎年オリジナルで制作する新作の絵本を来場した子どもたちにプレゼントしている。その根底には、「アーティストとして生まれたからには、アーティストとして世の中で果たすべき役割がある。次世代を担う子どもたちの心に何かを残したい。」という思いがあるからだ。

アリカワ氏のこれからの発展を祈念し、15周年記念会場“HAPPY FANTASIA”を後にした。

(文：沖縄県薬剤師会事務局 大城 喜仁)



“マシューくん” お薬手帳の展示コーナーでインタビュー



アリカワ コウヘイ氏 (右) と記念撮影

15周年を迎えて

画業を生業として15年。路上から始まったアーティストとしての日々は目まぐるしく、あっという間に過ぎていった。きっと、これからもそうなのかもしれない。自分を見失わないように、しっかりと目を開けて、日々を丁寧に生きていきたいと思う。15年の感謝を込めて、「THANK YOU! EVERYTHING! ALL FOR HAPPY ~ すべては幸福のためにあるのだ~」

医薬分業 健康サポート薬局を見学させていただいて

平成28年（2016年）10月1日から都道府県知事等へ「健康サポート薬局」についての届出が開始された。地域包括ケアシステムの中で薬局が取りうる、ある意味で地域住民にとっての理想的な形といえる「健康サポート薬局」であるが、当面の目標数である全国約15,000軒に対しようやく1,000軒を超えたところである（平成30年6月末）。中学校区に1～2薬局という目標数は、沖縄県では224軒であるが、沖縄県第7次地域医療計画では2025年までに100軒の目標数を掲げた。未だ4軒しかない現状だが、届け出が進まない原因はいろいろとある。その中で県の平成30年沖縄県地域医療介護総合確保基金新規事業によって、健康サポート薬局届け出促進に寄与しうる目的で、会営薬局うえはらに“健康サポートモデル薬局”をつくる作業を進めているところである。

今回は、届け出が進まない原因の一つと思われる、“OTC医薬品についての取り扱い”ならびに地域貢献の実施について、県内の現状を把握するために、来る8月31日に県内届け出済みの健康サポート薬局を訪問した。訪問したのは、「そうごう薬局新赤十字前店（那覇市）；管理薬剤師 西川裕氏」、「薬局えば一わいな～（糸満市）；管理薬剤師 平良恭子氏」、「すこやか薬局松島店（那覇市）；管理薬剤師 古堅直也氏」、「あかみち薬局（沖縄市）；管理薬剤師 神元繁守氏」の4軒である。

規模も立地も異なる4軒であるが、こんなに違うものなのかと正直驚いた。健康サポート薬局のイメージが見た目ではわかり難いせいであろう。OTC医薬品に関して言えば、来局者の求めに応じた取扱いをしていると思われた。そのため、品目数は相当に差が生じているが、来局者に不便がないようにしている旨の話は管理薬剤師から共通してきくことができた。モデル薬局の構築の際



健康サポート薬局推進担当理事
笠原 大吾

にも大いに参考になった。写真で比べてみていただきたい。

次に、地域貢献に関しては様々な取り組みがあり、各薬局の特色を出していると感じた。いくつかのイベントについて紹介するが、概ね来局者には好評のようである。また、薬局外で行うイベントの企画や参加もしているようであった。健康サポート薬局のロゴマークも決して目立って掲げられているようには見えなかったが、長い目でみると薬局の評判が上がり、固定客がつくようになることは十分に感じられた。4軒とも県薬剤師会への特別な要望はなかったが、今後薬局が、調剤業務のみならず“健康ステーション”として生き残れるように、県薬剤師会としてはある程度の軒数になった際に大々的に周知することを企画している。

今回は忙しい時間帯にもかかわらず、こちらの要望に沿った取材させていただいたことに深謝すると同時に、4軒の薬局は各地域の薬局をリードしていく魁（さきがけ）となっていくことは間違いないと思われるので、後に続く薬局の手本となることをお願いして稿を終えたい。ありがとうございました。



健康サポート薬局 ロゴマーク

そうごう薬局 新赤十字前店



外観



整然と並ぶOTC医薬品と健康食品類



健康チェック講演のイベント広報



管理薬剤師の西川裕氏 (左)

薬局えぱーわーな～



外観



管理薬剤師の平良恭子氏 (右)



健康機器を使った運動、講演を行う“自由空間”が隣接されている。



薬や健康に関する啓発誌が揃う。

すこやか薬局 松島店



外観



健康チェックコーナー



見た目を配慮したOTC医薬品・健康食品の棚



管理薬剤師の古堅直也氏（中央）

あかみち薬局



外観



管理薬剤師の神元繁守氏（左）



店舗内には多くのOTC医薬品・健康食品・福祉介護用品が整然と並ぶ

日薬大会

第51回日本薬剤師会学術大会参加報告

会期：平成30年9月23（日）～9月24（月）

会場：石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢、ホテル日航金沢、
ホテル金沢、金沢市アートホール、もてなしドーム 他

主催：公益社団法人 日本薬剤師会、公益社団法人 石川県薬剤師会

メインテーマ：「人として、薬剤師として。」



日本医薬品卸勤務薬剤師会 沖縄県支部
株式会社ダイコー沖縄 春田 崇彰

この度、石川県で開催された第51回日本薬剤師会学術大会に参加させていただきましたのでご報告いたします。

特別記念講演「生物と無生物の間」

青山学院大学総合文化政策学部
教授 福岡 伸一

機械論的生命観では、生物を細かいコンピュータの基盤ように小さな部品が並べられていてそれらが互いに役割を担っており、生物を動かしていくという考え方である。分子生物の研究者である教授はGP2遺伝子ノックアウトマウスを作製し、この遺伝子によって作られるGP2タンパク質がどのような役割をしているのかを研究したが、正常のマウスと比べても生涯異常が見られない結果となった。途方に暮れる教授はある言葉を思い出す。「生命は機械ではない、生命は流れ」これは生化学者、ルドルフ・シェーンハイマーの言葉であり、機械論的にみられている生命をもう一度、違う角度から再提起する機会となった。ルドルフ・シェーンハイマーは同位体を用いた実験でネズミに取り込まれた同位体の動きを追跡し、その結果、取り込まれた同位体はすべて排泄されず半分以上が置き換わっていることを証明した。食べ物を食べるということは体が作り替えられるということ、生命は絶え間なく更新されている。1年もたつと物質レベルでは別人となる。生きているということは“動的平衡”にあるということ。大きく劇変しないよう小さく、少しずつ変わり分解と合成の絶え間ない均衡が保たれているということ。受精卵の段階で部品（遺伝子）が無いのであれば無いなりに平衡状態が作り

出される。では細胞が常に入れ替わっているのであればなぜ記憶は保たれているのか？体は細胞レベルで相補性によりジグソーパズルのピースのように互いを認識しながら存在している。パズルのピースの一部が無くなってもそこに入るピースは限られているため、そこに新たに同じピースが取り込まれる。怪我などで大きく相補性が崩れていない限り、相補性が保たれているため全体としては変わらない。このことが我々が我々でいられることの一つの仕組みである。

特別講演2「ここまできた薬によるがん治療」

金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科
教授 矢野 聖二

今や日本人の2人に1人が罹患し、3人に1人が死亡するといわれ、死亡者数第1位となっているがん。がんによる死亡者数は年々増加している。超高齢化社会のなかで今後さらに増えていくと予想されている。中でも特に肺がんはわが国のがん死亡原因第1位となっている。肺がんの最多の原因は喫煙、これは禁煙で予防できる。一方、最近是非喫煙者の肺がんが増加している。また、一般的にレントゲン撮影による早期発見は容易ではなく、原発巣が小さいうちから転移を生じる例が多く、生物学的悪性度が高い。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬も開発され、肺がんに対する抗悪性腫瘍薬はどんどん増えてきている。肺がんの分子標的治療薬の特徴として、効くのは標的病変がある患者10人中6～9人、一旦奏功すれば1～2年間効果

が続くが、耐性により再発するため耐性を克服する新世代薬の開発が進められている。免疫チェック阻害薬の特徴として、効くのは10人中2～3人。一般的にPD-L1高発現者や喫煙者、全身状態の良好な人が効きやすいとされるが、完全に予測することはできない。一旦奏功すれば1～数年効果が続く。副作用は他の抗がん薬よりも軽いとされるが、劇症型糖尿病、間質性肺炎といった重篤な副作用が起こることがあるため注意が必要。免疫チェックポイント阻害薬の効果を増強する併用療法の臨床試験も数多く行われており、期待が集まっている。がん治療は複雑化してきており、今後薬剤師の活躍の場がますます広がる。

分科会9 「老化は病気か～認知症やフレイルの早期発見における薬剤師の役割・フレイル対策からの認知症予防」

国立長寿医療研究センター病院
院長 荒井 秀典

現在日本は世界一の長寿国である。しかし、健康寿命ではどうだろうか。平均寿命と健康寿命の差は男性は約9年、女性は約12年で推移しており、この差を短くすることが重要となってくる。国は10年をめぐりにこの平均寿命と健康寿命の差を3～4年短くすることを目標としている。2025年団塊の世代が後期高齢（75歳以上）の年齢層に入ることにより後期高齢者人口は約2000万人、多死の時代、要介護の認知症患者の急増が予想される。ストレスに対する脆弱性、フレイルの予防介入として、運動習慣、適切な栄養摂取、社会参加、口腔機能の維持、感染予防、疾病の適切な管理、医原性原因の排除（ポリファーマシー、過度な栄養制限）が挙げられる。フレイルは診断されにくいのが要介護のハイリスクとなる。フレイルと認知症は相関性があり、フレイル予防により認知症予防ができる。今後、フレイル予防により健康寿命の延伸に取り組んでいくことが求められる。

「現場で気づく加齢に伴う機能の低下と対応」

ねもと薬局グループ代表 根本 ひろ美
セルフメディケーション推進への取り組みの一環として薬局に検体測定室をつくったが声掛けをしないとなかなか人が集まらないため、気軽に「カフェ」という形で月に1～2回程度相談会を開催することに。その中で患者さんとの会話を通じて信頼関係を深め、継続的に参加してもらうことで、患者から機能の低下や変化など、気づきをいただくことができた。和やかなムードのカフェを通じて社会的コミュニケーションをとることができ、社会的フレイルの解決にもつながる。定期開催することで他職種（介護支援専門員など）から高齢者の食事内容の相談が入るようになり、処方箋がなくとも地域住民のそれぞれの病気や生活、不安に合わせた対応、アドバイスが出来るようになった。自分の患者さんに責任を持ち、地域の医療資源として輝ける薬局、薬剤師を目指していきたい。

「認知症高齢者の“食べる”をサポートする～摂食機能療法と薬剤師の関わり～」

公立能登総合病院 歯科口腔外科
歯科口腔外科部長 長谷 剛志

これから高齢者が増えるに従い、食事による誤嚥、誤飲も増加してくる。いろいろな職種、医療職も介護職もいかに食をサポートしていくか、特に摂食嚥下障害について病態としてだけでなく、「食べる」ということを人として支えていかなければならない。人をどう見ていくか、そこには医者、歯科医師等、専門は限ったものではなく、食支援が必要な患者は必ず服薬支援も必要であるため、その中に薬剤師も介入していくことが求められる。食事に関して色々な評価、スクリーニング、内視鏡、造影剤などがあるが、その人の飲んでる薬を見てみると実に様々な錠剤、カプセルが出されており何を飲んでいるのかすべて把握できないこともある。このようなときに薬剤師が介入していた

だけると心強い。たとえば舌マヒにより唾液分泌がうまくいかず、口腔内が乾燥すると錠剤がそこに留まりやすい。そんな時、錠剤をOD錠に切り替えるなど処方医の先生と薬剤師との間で処方提案があれば口腔内の改善が出来る。患者の食事場면을観察し、患者の様子、状態から薬剤がうまく飲めているかどうか判断し共有することで、多職種連携として協力していくことが出来るのではないかと。「食べる」とは咀嚼、嚥下機能のみではなく、認知機能、心理的背景、療養環境的問題も含めてのものである。それらを考えながら「食べる」を評価していきたい。

「認知症高齢者ご本人の思いを大切にしたい関わり」 東京理科大学薬学部 教授 後藤 恵子

MCI(軽度認知障害)は早期発見すれば治る可能性が高い。その早期発見には薬剤師の活躍が不可欠である。わが国の65歳以上高齢者3097万人のうちMCIの患者数は約400万人(13%)であり認知症患者約462万人(15%)に匹敵する。MCIからの軽度認知症への進展率は5~15%/年、正常状態への回復率は16~41%/年と軽度認知症へ進展する以上に正常状態へ戻るといわれている。いかに早く気づき、認知症へと進展させないようにすることが重要となってくる。薬剤師はOLD(Observation List for early signs of Dementia): 初期認知症徴候観察リストを用い、患者との会話の中でこれらの項目をチェックし、患者状態を観察したり、一度説明したことを患者の言葉で言い返してもらいTeach Backを用いて患者のレスポンスから、認知機能低下の早期発見に努める等の工夫が求められる。患者本人の気持ちとして、患者は認知症であることを知られたくない思い、家族等へ迷惑を掛けたくない思いがある。そのような思いを尊重し、その人らしく生きることの支援をしていくことが大切であり、なんでも話せる関係性を築いていくこと、薬局は認知症のことを相談してもいいという「場」

づくりが必要である。

分科会15 「これからの医薬分業を考える—海外を参考として—」

「カナダにおける薬剤師業務の変遷と現在の取り組みについて」

ファーストロイヤルファーマシー
マネージャー 若子 直也

カナダでは、政府行政に対しては新しいエビデンスを提供し、安全性を担保しながら、いかに薬剤師に新しい職務を与えていくことが価値のあることかということを積極的に訴えることを通して新しい権限を付加され続けている。保険者との関係は、保険者が設定するEBMに基づくフォーミュラリーが設定されると薬局でこれを実際に実行することで薬剤費を抑制するという重要な役割を果たしている。医師、医療機関からは処方箋を発行されるがこれをただ調剤するというわけではなく、フォーミュラリーやエビデンスに基づいて処方提案をしたり処方方を積極的に変えて後から報告するという形で協同している。患者との関係は常に最も近い医療従事者、医療提供者として服薬指導や健康相談を受けて受診勧奨等を行い患者の健康をサポートしている。日本では、今、薬剤師、薬局は変化を迫られている。これからの10年で薬剤師が何をすべき職業なのか、薬剤師の側から国民に対して大きなビジョンを提示していかなければならない。

「平成30年度調剤報酬の観点から」

内閣府食品安全委員会事務局
評価第1課長 中山 智紀

院内の処方に対して院外の処方(調剤技術料)は3倍程度高い。それに対していかに堂々と答えられるかということが薬剤師には求められている。調剤報酬改定の議論が開始されるにあたって、また次の改定と改定が進むにつれてもっと厳しく追及されてくると思われる。それに対して言い返す題材というのを着実に準備しておくことが大事である。それが

なければ、いずれバツサリと報酬が減らされる状況を招きかねない。3倍高いというのも、薬局は独立して経営していかなければならぬため、経営維持のためにそれぐらいかかるというのは収入として適切ではないのか、となるわけであるが、それに対して見合った価値があるということを着実に医療に貢献している実績を積み重ねていき、データとして提示できることが重要であり、一定の実績を示せるよう意識していくことが求められる。

「副作用報告等のこれからのかかりつけ薬剤師への期待」

東京薬科大学薬学部薬事関係法規研究室
教授 益山 光一

日本の医療の課題として高齢化がある。医療費も増えてきている超高齢社会でかかりつけ薬剤師は何をするのか、するべきなのか考えていかなければならない。1つのヒントとして厚生労働省は高齢者医薬品適正使用を推進している。薬剤師は高齢者の薬物療法に対する安全対策の充実が求められる。また、ポリファーマシー、がん患者の増加に伴う複合的な副作用の問題、在宅など、薬剤師がこういったところにいち早く介入し連携していくことが大切である。副作用報告等をしっかりとできるようにするためには、かかりつけ薬剤師として信頼ある関係づくりが不可欠である。カナダや米国でも薬剤師の信頼性は高い。日本でも海外での取り組みの成功事例を意識し、患者との信頼性を醸成したうえで、かかりつけ薬剤師として社会ニーズを把握し、それに応えていくことが基本である。相談をうけられる薬局、薬剤師となるために、何かあったらいつでもどうぞ。では幅が広すぎるため、検査値や残薬といった気になることの具体的事例を提示しながら少し踏み込んで薬剤師に相談できるという体制づくりが必要ではないか。自分の患者や地域住民、さらに医療関係者へ必要なことは何か、それに対して薬剤師ができることは何か、継続して考えそのために薬剤師としてできることの行動を起こし、

その結果、データをエビデンスとして残しておく評価にもつながる。

「英国NHSにおける薬局の新たな役割」

日本大学薬学部薬事管理学的研究室
教授 亀井 美和子

国営医療サービスNHS(National Health Service)の特徴として、イギリスでは古くから皆保険制度をとっている。社会保険方式ではなく税方式で運営され、保健医療サービスの供給が国の責任で行なわれている。また、全国民に対し原則として無料で提供され、予防やリハビリテーションサービスを含む包括的な医療保障となっており、財源が税金ということで予算の範囲内で計画的に提供されなければならないといったことも理念の中に含まれている。国全体でNHSという仕組みがあるが、それを統括するのは保健省であり、実際に運営しているのは地域である。例としてNHSイングランドではさらに地域の組織に分けられ、その一つ一つを運営している組織がCCG(クリニカル・コミッションング・グループ)である。CCGはGPやその他の医療スタッフにより行われ、地域特性に応じた医療計画を立案、効率的かつ統合されたサービスを提供できるように運営、管理され地域医療に貢献している。NHSで提供される薬局サービスとして季節性インフルエンザワクチン接種等の高度サービスが急速に広がっている。この背景として薬局は薬剤使用の適正化、セルフケアサポート、健康的な生活と公衆衛生のサポート、独立した生活のサポートを基盤としたGP(一般医)、病院とともに第三の柱としてNHSを支えるという明確なビジョンが出されている。

今回、初の日本薬剤師会学術大会参加でしたが、多くの会場での分科会はどれも魅力的で熱気を感じました。2日間に渡る大会も盛況に終わり、実りあるものとなりました。参加させていただいた卸勤務薬剤師会に御礼申し上げます。

啓発活動

平成30年度 グッジョブスクール in なは 参加報告

日時：平成30年12月8日（土）12：00～17：00

会場：沖縄産業支援センター 3階

仲本病院
勝連 貴子



標記事業が上記の日程にて開催され、県薬剤師会として「薬剤師体験コーナー」で参加しました。本取り組みは、子供たちが「夢」と「希望」をもって仕事観を育むための「場づくり」を提供することを目的に開催されています。

当日の会場では、「お仕事・物づくり体験」など17のおしごと体験コーナーが用意され、様々な職業・職種が参加。あらかじめインターネットで各体験の内容を確認、時間帯を参加予約し、延べ437名の小学生・保護者が来場されました。

薬剤師体験コーナーにおいては、「薬剤師はどこで働いているのか知っていますか？」の質問に「薬局！」「ドラッグストア！」「病

院！」「プールの水の検査しているのを見たことある！」などの声があがり、他には医薬品の研究開発、在宅医療にも関わっていること、麻薬取締官として働く人もいること等を紹介しました。

その後、2グループ交替制で下記のおしごと体験。

①包化調剤

子供用白衣を着て、模擬処方箋とカラーコーティング粒チョコを用いて一包化調剤。初めて見る分包機に親子は「すごい！こんな仕組みなんだ！」と歓声をあげていました。調剤後には分包紙に用法を、薬袋に氏名、調剤年月日を記入して終了。



カラーコーティング粒チョコを用いて
分包機で一包化調剤



分包紙に用法を、薬袋に氏名と調剤年月日を記入



液剤の配合変化実験



カプセル実験

②液剤の配合変化実験・カプセル実験・吸入薬体験

配合変化実験では、駒込ピペットで緑茶に鉄剤シロップを垂らしてもらい、色の変化を観察。カプセル実験では、指につける水の量を変えてカプセルを触り、内服にはコップ約一杯の水が必要なことを学び、OD錠という水なしで服用できる薬剤も紹介。吸入薬は、デモ器を使った吸入力チェックでピーピーと音



吸入薬体験

を鳴らすことが出来、笑顔で終了。

保護者には、資料をお渡しし、沖縄県に薬学部設立を願う署名活動が行われたことも伝えました。

グッジョブ活動に参加することで、薬剤師の仕事が更に認知され、子ども達の将来の「夢」につながり、そして「実現」されることを心から願います。そのためにも私達は頑張って仕事に取り組んでいきたいと思えます。



啓発薬剤師 左より、伊差川サヤカ氏、勝連貴子氏、新垣梓氏、島袋さゆり氏、上里美矢子氏

女性薬部会

2019年度

薬剤師継続学習通信教育講座募集にあたり

今年度も一般社団法人日本女性薬剤師会（CPC認証プロバイダー：G16）が運営する2019年度薬剤師継続学習通信教育講座受講生を募集するにあたり若干の説明をしたい。

この講座は通年制で展開され、年間8冊のテキスト学習後設問へ回答し年1回のスクーリングを受講することで、15単位（G16）が取得できるシステムになっている。

テキストは毎年新しく執筆、編集され、内容が常に新しい情報となっているのも大きな特色である。1冊につき1つのメインテーマが取り上げられ、医療（薬物を含め医師が担当）、薬学、看護、栄養など、ガイドラインを含めた今日的な周辺情報も提供してくれる密度の濃いテキストになっている。加えて、年度によって異なるが、薬物動態などの基本的知識やセルフメディケーションのような最近の話題も含めて、毎年、生涯教育に欠かせない今日的な内容となっている。

同時に、8冊のテーマに関連した小論文研



女性薬剤師部会
部会長 村田 美智子

修で2単位が取得可能であり、頑張れば両者合わせて通信教育だけで31単位が修得できるシステムになっている。

今回、薬剤師会会報誌とともに募集要項を同封したので、多くの会員の申し込みをお願いしたい。スイッチOTC薬をめぐり薬剤師の力量不足が問われる中、通信教育講座は限られた時間内で資質向上を図る有効な手段である。女性薬剤師会員だけでなく、男性会員の受講も重ねてお願いしたい。

さて、2016年度ではあったが、薬剤師継続学習通信教育講座・小論文研修で完成した大屋三登先生の論文「下剤の実態調査から見た“かかりつけ薬剤師”の役割」を次頁より掲載する。8テーマの一つだった「下剤・便秘」に関連した論文で、論文を仕上げる基本的手順が明確で、大いに参考になると考える。

投稿

下剤の処方実態調査から見た“かかりつけ薬剤師”の役割

薬志堂薬局 首里店¹⁾ 大屋 三登^{1,2)}
一般社団法人 市場みずゝ²⁾ 福永 晃子²⁾
日本女性薬剤師会²⁾ 小縣 悦子^{*2)} 近藤 芳子²⁾

【緒言】

2016年の調剤報酬の改定では、厚生労働省が示した「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けて、これまでの薬を主体とした対物業務から、服薬指導や重複投薬の防止など患者に着目した対人業務を評価する抜本的な見直しが行われ、かかりつけ薬剤師・薬局の機能を高く評価するものとなった。また、薬剤師が地域の健康情報の拠点となり、住民の主體的な健康の維持・増進を支援する「健康サポート薬局」の制度は4月に施行された。

保険薬局における日常業務では、「便秘」に関する質問が多く、便秘の有訴者率は、2013年厚生労働省国民生活基礎調査の概況¹⁾によると、人口の10%以上であり、Shibataらは、日本におけるOTC薬の下剤を購入時、保険薬局薬剤師の関わり合いについて解析をし、購入者は薬剤師による服薬指導を望んでいることを報告している²⁾。今回、地域住民の健康をサポートするために、処方されている「下剤」の保険薬局での実態調査および聞き取り式アンケートを行い、薬剤師がどのように関わるべきかを検討した。

【方法】

1-1. 処方薬の実態

薬歴をもとに、沖縄県那覇市に所在する保険薬局において2016年1～8月に処方された下剤とその処方状況を調査した。

1-2. アンケート

2017年3～5月の期間に、当保険薬局および系列保険薬局に来局し、下剤が処方されている患者のうち、事前に書面を用いて調査の趣旨を説明し同意を得た者を対象として図1

の用紙を用いた聞き取り式アンケートを実施した。

尚、アンケートの回答の受諾または拒否については、ヘルシンキ宣言の主旨に鑑み、何らかの利益・不利益をもたらさないことに加え、本回答により個人が特定されないことおよび別の目的で使用されることが無い旨を伝えた。

1-3. 便秘改善のための食習慣・運動の達成度

便秘改善のために食習慣および運動に関する質問の計6項目がどれだけできているかを、「はい」1点、「いいえ」0点として合計6点満点とし、これを達成度として評価した。

【結果】

1-1. 処方薬の実態調査

調査では62名の患者に、下剤として合計87剤が処方されていた。その内訳は酸化マグネシウムが53%と最も処方頻度が高かったが、センノシド・大黄含有漢方薬・ピコスルファートナトリウム水和物のような刺激性下剤の内服も37%という割合であった(図2)。年齢層別の処方状況をみると、70代以上の高齢者が多く、6ヶ月以上継続している患者は62名中28名で、70代以上は18名であった(図3)。継続服用者には、酸化マグネシウムが主に処方されていた(図4)。継続服用者(28名)の他の併用薬は24名に対して副作用として添付文書中に便秘の記載のある降圧薬や糖尿病治療薬などが処方されていた(図5)。

1-2. アンケート

集計結果を表1に示す。今回の調査では53名の回答を得た。年齢層別にみると、70代以上が約30%を占めていた(表1)。尚、回答者

53名中44名が医師に相談することにより服用を開始しており、病後に服用を開始した患者は14名であった。

下剤の服用状況は、毎日服用26名（49%）、便秘時服用16名（30%）であった。

食習慣および運動についての回答では、「サプリメント・健康食品などで野菜を補う」17%、「運動をしている」28%と低かった（図6）。「便は毎日出なくてはいけないと思いますか」について、回答者の79%が「はい」と回答していた。

1-3. 便秘改善のために食習慣・運動の達成度

6点満点となった患者は53名中1名しかいなかった（図7）。

【考察】

処方薬としては、酸化マグネシウムが下剤の基本として処方されていた。野口らの報告によると、年齢にかかわらず酸化マグネシウムによる高マグネシウム血症は臨床的症状が現れる前に発見し難いので³⁾、継続処方の場合には、初期症状である「吐き気」や「力が入らない」などの症状を単に定期的にチェックするだけでなく、患者自身が早めに気づき相談できるよう薬剤師が指導することも必要であると考えられる。また、刺激性下剤は、腸障害を起こしやすく、長期服用により大腸癌発生の危険因子であり^{4,5)}、注意が必要である。ただし、毎日服用する必要のある患者もいるので、医師から伝えられている服用の理由を、どの程度理解しているのか十分に聴き取り、臨機応変に対応することが求められる。

下剤が処方されている患者は高齢者が多かったが、高齢者は、複数の診療科、医療機関の受診により処方薬が多く、肝・腎機能の低下による薬物動態および薬物への感受性の変化などにより薬物有害事象も起こりやすいことが報告されており⁶⁾、下剤に頼らず食生活の見直しや運動が便秘予防に大事であることを説明し、改善点を一緒に考えていくこと

も重要であると考えられる。

「野菜をよく食べる」を「いいえ」と回答した14名中サプリメントや健康食品を使用しているのは1名のみだった。このことは、サプリメントや健康食品の種類、効能について十分に認知されていない可能性があり、これらを正しく利用できる情報を提供することもかかりつけ薬剤師の役割の一つと考えられた。排便意識については、日本消化器病学会では、便秘は「本来体外に排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定義しており⁷⁾、毎日排便がないといけないと神経質になり過ぎて、下剤を使い過ぎていないか、患者に聴き取る必要のあることが分かった。

今回の調査で便秘について薬剤師に相談したのは0名であった。食習慣や運動、排便についての正しい認識、必要以上の下剤への依存を改善し、有害事象の減少につながるためには、分かりやすいパンフレットを用いて理解してもらうなどの工夫を行い、薬に関することだけでなく、病気や体調のことを含めて気軽に相談出来る環境を作る事も有用であると考えられた。

【結論】

かかりつけ薬剤師は、患者が相談しやすい環境を整備し、医師、病院薬剤師、栄養士などとの連携による適切な患者情報の把握を行い、患者の生活サイクルに沿った改善策や予防対策を提供し、患者自身が健康を考えるような支援をしていく必要がある。

【利益相反】

本研究において開示すべき利益相反はない。

【引用文献】

1) 厚生労働省. 平成25年国民生活基礎調査の概況（2014年7月25日公開）. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-thosa/k-tyosa13/dl/06.pdf> (2017年7月5日アクセス)

2) Shibata K, Matsumoto A, Nakagawa A, Akagawa K, Nakamura A, Yamamoto T et.al. Use of Pharmacist Consultation for Nonprescription Laxatives in Japan: An Online Survey. Biol Pharm Bull 2012; 39(11): 1767-73.

3) 野口義紘, 林勇汰, 吉田阿希, 杉田郁人, 江崎宏樹, 齊藤康介ら. 高齢者における経口便秘治療薬の安全性についての薬剤疫学的検討. Jpn J Drug Infom 2016; 18(3): 179-85.

4) Jacobs EJ and White E. Constipation laxative use, and colon cancer among middle-aged adults. Epidemiology 1998; 9(4): 385-91.

5) Kojima M, Wakai K, Tokudome S, Tamakoshi K, Toyoshima H, Watanabe Y et al. Bowl movement frequency and risk of colorctal cancer in a large cohort study of Japanese men and woman. Br J Cancer 2004; 90(7): 1397-401.

6) Kojima T, Akishita M, Kameyama Y, Yamaguchi K, Yamamoto H, Eto M et al. High risk of adverse drug reactions in elderly patients taking six or more drags Analysis of inpatient database. Geriatr Gerontol Int 2012; 12(4): 761-2.

7) 日本消化器病学会関連研究会 慢性便秘の診断・治療研究会. 慢性便秘症診療ガイドライン2017. 南江堂, 2017.

表1 アンケート結果集計

| ①性別 | | ④-1 便秘を誰に相談したか | | ④-3 服用開始時期 | |
|---------|------|----------------|------|------------|------|
| | (人数) | | (人数) | | (人数) |
| 男性 | 20 | 医師 | 44 | 小・中学生 | 2 |
| 女性 | 33 | 薬剤師 | 0 | 高校生・大学生 | 4 |
| ②年齢 | (人数) | 栄養士 | 0 | 社会人 | 5 |
| | | 看護師 | 1 | 病後 | 14 |
| | | その他 | 2 | 1~3年前 | 4 |
| 10代 | 2 | 回答なし | 6 | 今回が初めて | 11 |
| 20代 | 5 | ④-2 薬の管理 | (人数) | その他 | 5 |
| 30代 | 4 | | | 回答なし | 8 |
| 40代 | 10 | | | ④-4 服用状況 | |
| 50代 | 8 | 自己管理 | 46 | | (人数) |
| 60代 | 8 | 家族が管理 | 2 | 毎日 | 26 |
| 70代以上 | 16 | その他 | 0 | 時々 | 16 |
| ③職業 | (人数) | 回答なし | 5 | その他 | 2 |
| | | | | 回答なし | 9 |
| | | | | | |
| なし | 17 | | | | |
| 会社員・公務員 | 17 | | | | |
| 自営業 | 5 | | | | |
| 主婦 | 6 | | | | |
| 学生 | 3 | | | | |
| その他 | 4 | | | | |
| 回答なし | 1 | | | | |

図1 アンケート用紙

「便秘に関する」アンケート

該当する数字にレ点を付けてください。

- ①性別: 1. 男性 2. 女性
- ②年齢: 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上
- ③職業: 1. なし 2. 会社員・公務員 3. 自営業 4. 主婦 5. 学生
6. その他()

④処方された便秘薬について

- 1)便秘を誰に相談されましたか?
1. 医師 2. 薬剤師 3. 栄養士 4. 看護師
5. その他(例:友人)
- 2)薬の管理は、
1. 自己管理 2. 家族が管理 3. その他()
- 3)服用を始めた時期
1. 小・中学生 2. 高校生・大学生 3. 社会人 4. 病後
5. 1～3年前 6. 初めて 7. その他()
- 4)服用状況
1. 毎日 2. 時々便秘時 3.その他(例:旅行中)

⑤食事について

- 1) 1. 規則正しく摂る 2. 不規則になりがち(理由)
- 2)野菜をよく食べる 1. はい 2. いいえ
- 3)サプリメント・健康食品等で野菜を補う 1. はい 2. いいえ
- 4)乳酸菌を含む食品を摂る 1. はい 2. いいえ
- 5)水分(野菜ジュース、乳飲料なども含む)をこまめに摂る
1. はい 2. いいえ

- ⑥運動をしていますか? 1. はい 2. いいえ
- ⑦「便は毎日出なくてはいけない」と思いますか? 1. はい 2. いいえ

ご協力を有難うございました。

図2 処方された下剤（87剤）の内訳

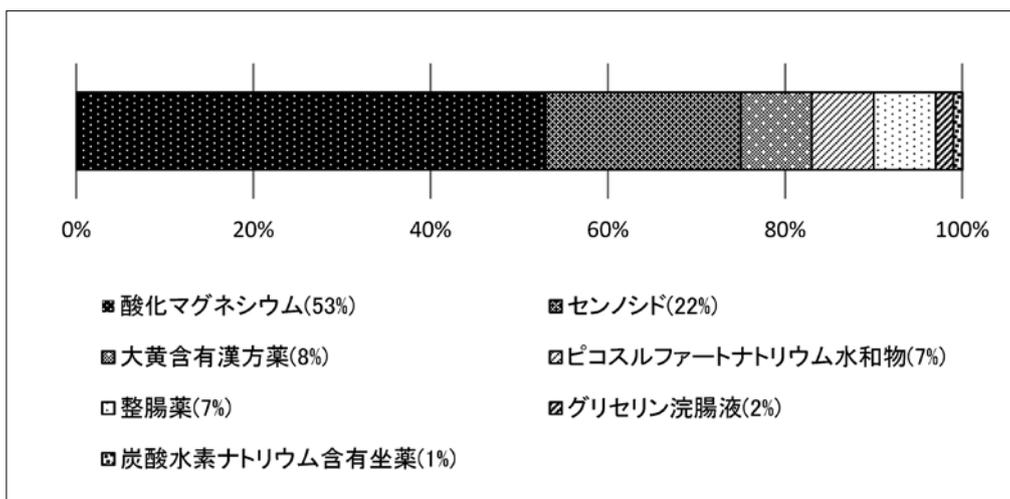


図3 年齢層別頓服・継続服用者数

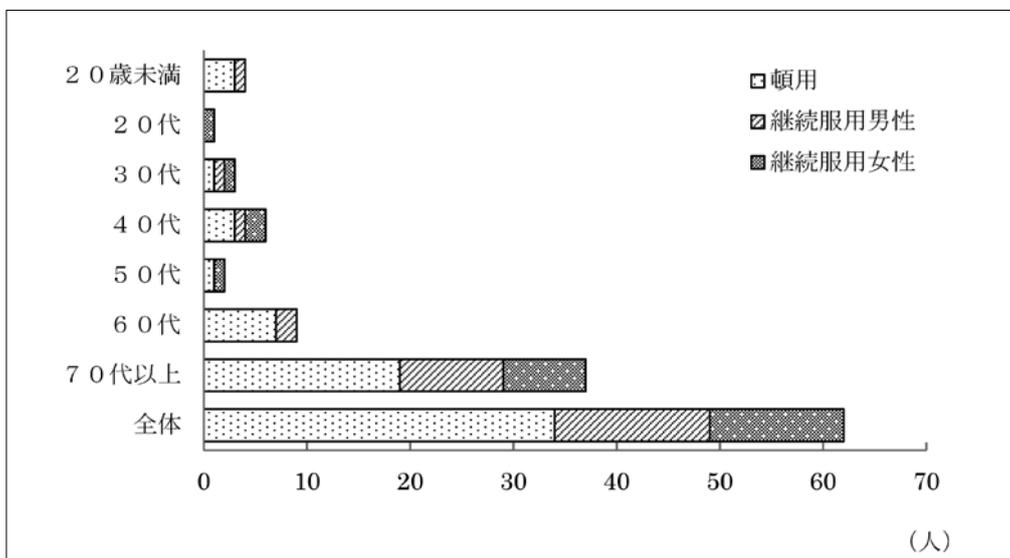


図4 下剤の継続処方内容

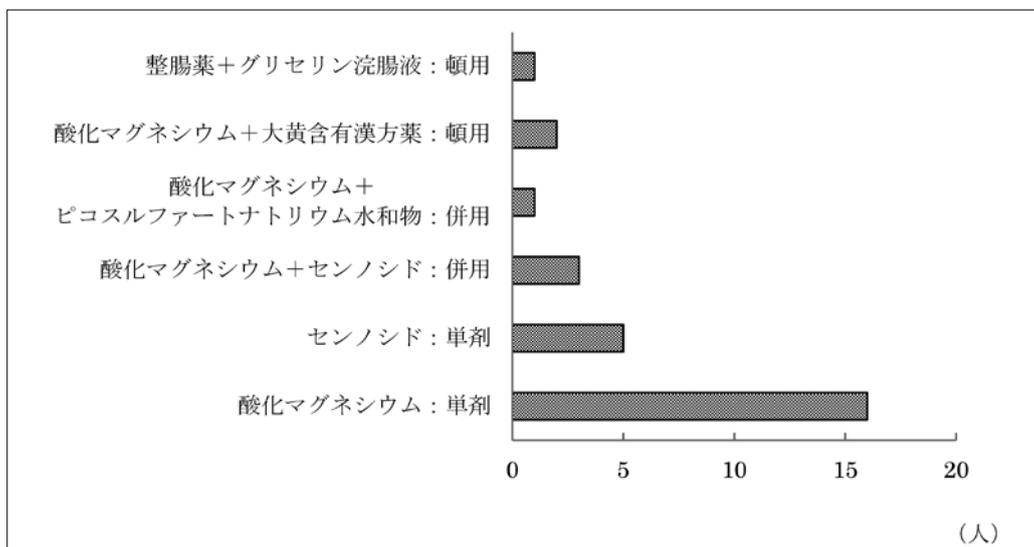


図5 便秘の副作用記載のある主な併用薬のべ服用状況 (n=24)

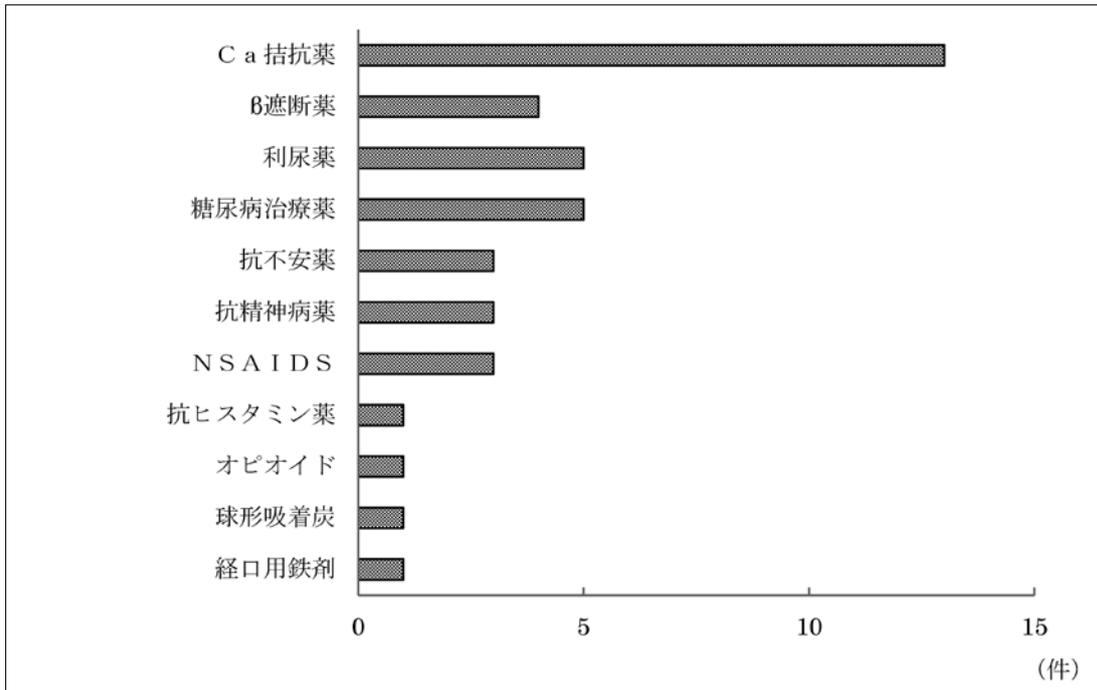


図6 食習慣および運動の状況

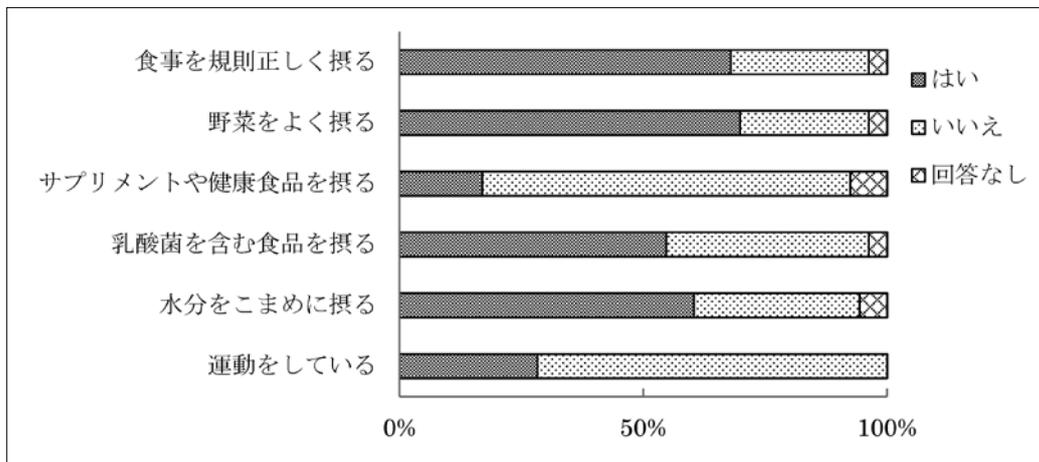
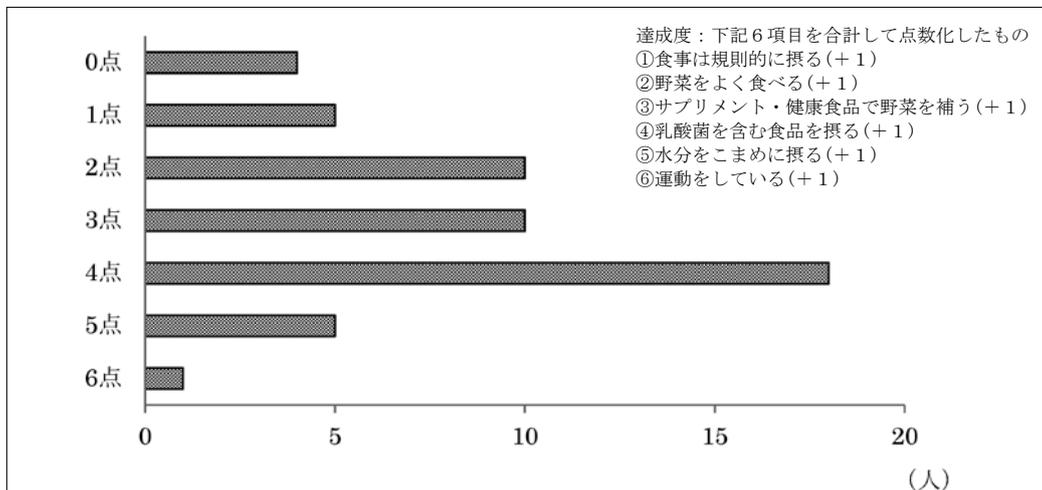


図7 食習慣・運動の達成度



卸部会 平成30年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会報告

日時：平成30年12月13日（木）13:30～17:00

会場：スクワール麹町（東京都）

平成30年12月13日に東京で開催された研修会に参加しましたので、ご報告致します。

日本薬剤師会の森副会長は冒頭の挨拶で、「厚生労働省は、2040年を展望した社会保障・働き方改革本部を設置し、検討を開始している。卸業界においても、JGSPの見直しに係っている。」と述べ、昨年来発出されている各ガイドライン（GL）に対応していくことが重要と話された。

【講演1】「医薬品流通のあり方について

～流改懇の議論を踏まえて～

厚生労働省医政局経済課 首席流通指導官

木村 隆次

平成30年1月23日「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」（流通改善GL）が発出され、4月1日から適用された。これにより、これまで流通改善については流通当事者間の取組として進めていたが、今後は国が主導し、流通改善の取組を加速するため、関係者に遵守を求めていくことになった。

その後、2回の質疑応答集が発出され、平成30年12月7日には4月～9月のまとめとして「流通改善の課題と進捗状況」が発表された。

1. 一次売差マイナスの解消、適切な仕切価・割戻し等の設定

平成30年度上期において、仕切価の水準は上昇、割戻し等の水準は縮小。納入価の水準の上昇により、一次売差マイナスは縮小した。

2. バーコード表示の推進

平成33年（2021年）4月出荷分より、販売包装単位及び元梱包装単位への有効期限・製造番号等の変更情報を含んだ新バーコードの表示を必須化することとしており、流通改善



日本医薬品卸勤務薬剤師会 沖縄県支部
株式会社 琉薬 吉富 弓江

GLにおいて「可能な限り流通量の多い製品から表示を前倒して進める」よう要請している。

3. 早期妥結の推進、単品単価契約の推進、頻繁な価格交渉の改善

- 平成30年9月時点の妥結率は、平成28年9月時点の水準（93.1%）より若干低下したものの、全体で91.7%と9割超の水準が確保された。
- 平成30年度上期において、単品単価取引の割合は、前年度と比較して大幅に上昇・改善した。（200床以上の病院：56.2%→84.4%、20店舗以上の調剤薬局：62.3%→96.5%）
- 平成30年度上期においても、全品総価（一律値引き。一部品目を除外しているケースを含む）での取引の実態があった。（200床以上の病院：6.2%→2.8%、20店舗以上の調剤薬局：2.3%→0.3%）

4. 過大な値引き交渉の是正

平成30年度上期においては、単品単価契約の割合の上昇とともに、納入価の水準は上昇した。（薬価を100とした場合の水準：90.5%→92.5%）

5. 相談対応及び流通改善GLの評価

流通改善GLの適用と同時に医政局経済課に相談窓口を設置した。これまで相談窓口に寄せられた相談件数は21件であった。（仕切価等の交渉に関するもの12件、その他9件）

平成30年度上期の状況を踏まえ、流通改善GLの発出・適用をどう評価するか。現時点で

現行のGLについて見直すべき事項があるかが、今後の論点となる。

【講演2】「日本薬剤師会の現状と課題、医薬品医療機器制度部会での論点を踏まえて」

日本薬剤師会 副会長 乾 英夫

◆医薬品販売制度実態把握調査結果

目的：消費者が薬局や店舗販売業において購入可能な医薬品の販売実態を、一般消費者からの目線で調査することにより、医薬品販売の適正化を図る

内容：一般消費者である調査員が、全国5,017件の薬局・店舗販売業者の店舗を訪問し、医薬品の店舗での販売状況等について調査

調査期間：平成29年11月～12月

主な調査項目：①従事者の区別状況 ②要指導医薬品の販売方法（本人確認、薬剤師による販売） ③一般用医薬品の情報提供、相談対応の状況 等

主な調査結果：

- ・名札による専門家の区別は、全体で79.7%（前年83.2%）、特に薬局で73.9%（83.3）と大幅に悪化
- ・要指導医薬品の購入時の本人確認は82.9%（81.0%）、文書による情報提供は78.0%（75.8%）、第一類医薬品の文書による情報提供は71.5%（68.2%）と若干改善したが、不十分
- ・濫用のおそれのある医薬品の複数購入への対応が適切かについては、61.3%（63.4%）と悪化

この結果を受け日本薬剤師会は、「医薬品販売制度対応に関する自己点検」を実施するよう通知した。

尚、詳細な調査結果は厚労省HPを参照してください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00990.html

◆医薬品医療機器制度部会での議論「改正法の施行後5年を目途とした検討について」

日薬として法改正が必要と考える事項は次の通りである。

①薬局機能の明確化

- ・薬局が備えるべき役割・機能について、法律上、改めて明確化する
- ・その上で、地域住民が薬局を適切に選択できるよう、各薬局が有する機能の表示方法や表示できる機能分類を明確化する

②多店舗展開を行っている薬局におけるガバナンスの確保

- ・薬局開設者・管理者の更なる責任の明確化や罰則等の整備
- ・法律上明確になっていない中間的統括者等の位置付けやその責任等についても整理する（開設法人への罰則規定の明確化等）

③地域医薬品供給体制確保計画（仮称）の整備

- ・地域住民の医薬品へのアクセスを確保するため、地域ごとに「医薬品供給体制確保計画」（仮称）を策定、整備する

④服薬期間中を含めた対人中心業務の必要性の明確化

- ・薬剤の交付時だけでなく、服薬期間中を含めた薬剤師による対人業務の必要性を法律上、明確化する

⑤患者・地域住民が使用した全ての医薬品の服用記録の保存

- ・患者・地域住民の医薬品の服用記録の必要性について、法律上、明確化する

昨年来、医薬品流通に大きな影響を及ぼすGLが立て続けに発出されている。

- ・偽造医薬品流通防止GL
- ・医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきGL
- ・医療用医薬品の販売情報提供活動に関するGL

医薬品卸としては、いずれのGLについても遵守しなければならないが、そのためには各GLを社内だけでなく、薬局・医療機関にも周知し、理解してもらう必要があることを改めて感じました。

卸部会

平成30年度 日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム報告

日時：平成31年2月7日（木）10:30～16:30

会場：日本薬学会 長井記念ホール（東京都）



日本医薬品卸勤務薬剤師会 沖縄県支部
株式会社 琉薬 吉富 弓江

平成31年2月7日に東京で開催されたフォーラムに参加しましたので、ご報告致します。本フォーラムは毎年、東京と大阪の2会場で開催されており、会員発表後にグループディスカッションを行うのが特徴です。東京会場では100名以上が参加しました。

日本医薬品卸勤務薬剤師会の師尾会長は冒頭に、「昨年来、流通改善GL、偽造医薬品流通防止GL、情報提供活動GL、GDP GLと、たてつづけにGLが発出されているが、各社の対応、行政の対応が異なっている。意見を出しているいろいろなやり方を知ることが必要である。また、JGSPの改訂版が近く発出され、説明会の予定もある。JGSPもようやく諸外国に並んだので、管理薬剤師の立場を確立させたい。医薬品卸は、医薬品の安全・安心供給が目標であり、JGSPに則った流通、教育をしていただきたい。」と挨拶した。

【講演】「最近の薬事行政について」

厚労省医薬・生活衛生局総務課 薬事企画官
医薬情報室長 安川 孝志

平成29年1月の偽造医薬品流通発覚後の2年間で、医薬品卸の薬剤師の働きが注目されている。

偽造医薬品流通事案については、行政としても処方箋によるこのような事案が発生するとは思っていなかったため、不安が募る中での対応であったが、起こりうる環境にはなっていた。本事案は、卸が仕入元の確認を怠ったことに端を発しており、管理者は「おかしい」と思わなければならないのに、何をして

いたのか。平成29年10月5日交付の省令改正では、偽造品の入る余地を与えない改正とした。

GDP GLについては、厚労省が広く周知することで、卸売販売業者等における自主的な取組を促していくので、各卸売販売業者においては、本GLに準拠した取組をお願いしたい。

平成25年の薬機法改正時には施行後5年を目途とした見直しが規定されていることから、議論を重ねてきた。その中に「許可等業者・役員の責務の明確化、ガバナンスの強化」があり、許可申請時に「業務を行う役員」の他に「薬事の責任を負う役員」の提出を求めていくことになると思う。3月上旬に法案を提出予定であるが、今回の改正の内容はボリュームが大きいので、段階的に施行していく予定なので、今後の情報収集が必要である。

【会員発表】「地域における卸勤務薬剤師の活動について」

①「岩手県支部における戻り品について ～管理薬剤師へのアンケートを実施して～」

東北ブロック 岩手県支部
岩手県内の医薬品卸6社27営業所の管理薬剤師にアンケートを実施した。主な結果は次の通りである。

- 戻り品の検品に薬剤師が関与しているか：している78% していない22%
- 検品時のチェック項目：汚損・開封・包装変更の有無、使用期限、納入履歴 等
- 開封品を発見したことがあるか：ある78% ない18% 未回答4%

- 中抜け品を発見したことがあるか：ある
70% ない30%
開封・中抜け品については、MSが受け取る際によく確認することが重要である。
- 保冷品の戻り品を受けているか：受けている7% 受けていない7% 条件付きで受けている74% 未回答11%
- 保冷品の戻り品を受け入れる条件とは：メーカー返品できる、保管状態が確認できる、受注・発注ミス 等。保冷品の戻り品については、全ての卸が戻り品の受け入れ不可とすべきと考える。
- 包装変更品の戻り品を受けているか：受けている1% 条件付きで受けている89% 受けていない7%
- 包装変更品の戻り品を受け入れる条件とは：メーカー返品できる、販売先がある、外箱のみの変更である 等
- 残期限がどのくらいであれば受け入れるか：1年以上52% 6ヵ月以上18% 3ヵ月以上4% その他26% その他：商品によって異なる、在庫との期限差による、再販先がある 等

戻り品については、各社で「返品基準」を設けていると思う。その基準をお得意先に理解していただくことが重要である。

②「卸勤務薬剤師が担う、医薬品安定供給 だけではない付加価値とは？」

東京ブロック 東京都支部
東京支部管轄8社の勤務薬剤師に、DI業務と職員に対する教育研修業務についてのアンケートを実施した。主な結果は次の通りである。

- 問い合わせ元はどこか (3282件中)：社内32% 薬局35% 病院5% 診療所23% その他5%
- 苦勞した問い合わせ内容：診療報酬・調剤報酬関係 (明確な回答が難しい)、健康食品・保険適用外等 (参考資料が少な

- い)、薬剤の優劣や後発品評価 等
- DI業務が営業支援に貢献していると感じているか：そう思う24% ややそう思う49% どちらともいえない22% あまりそう思わない5% そう思わない0%
- MS継続研修はどのように行っているか：薬剤師による座学83% 専門部署6% e-ラーニング6% その他5%
- MS以外にも研修を行っているか：はい70% いいえ27% 無回答2%
「はい」の内訳：商品管理、配送、事務 等

安全管理研修、医療機器研修、適正管理研修は定期的に行い、社内ルールでの研修、医薬品全般の基礎知識は必要に応じて行っている場合が多かった。

③「卸勤務薬剤師が国体開催地で取り組んだ、 スポーツファーマシスト業務の実例」

四国ブロック 愛媛県支部
スポーツファーマシストとは、最新のアンチ・ドーピングに関する知識を持つ、日本アンチドーピング機構 (JADA) が認定する薬剤師である。

平成29年開催のえひめ国体に当たり、医療機関・薬局等から卸勤務薬剤師への問い合わせが想定され、アンチドーピングに関する知識の習得が必要であると考えたのが活動のきっかけである。平成27年の卸勤務愛媛県支部総会でスポーツファーマシストの紹介、必要性を説明し、資格取得を促した。その結果、10名ほどの卸勤務薬剤師が資格を取得した。

他職のスポーツファーマシストと協力して、プレ大会・開会式・各競技開催場所にブースを設置、開催期間中は24時間相談に対応した。

国体終了後も卸勤務薬剤師として継続した活動を実施しており、今後も問い合わせ対応や啓発活動、スポーツ協会との連携を図っていく。
次ページへ続く⇒

グループディスカッション

私たちのグループは、③についてディスカッションした。

卸勤務薬剤師が取得できる資格が少ない中、スポーツファーマシストに興味があっても、①基礎講習を東京等で受講しなければならない、②受講や認定・更新に費用がかかる、③取得後の活動の場が少なくスキルの維持に不安がある、④会社の利益につながりにくい

ため上層部の理解が得にくい、などの理由で二の足を踏んでいるのが現状ではないか。

フォーラムは、グループディスカッションがあることで、地域の卸勤務薬剤師と情報交換できる場ともなっている。

今後も多くの地域の様々な規模の卸勤務薬剤師から情報収集して、各種GLに準拠した活動をしていきたいと思えます。

会報原稿募集のご案内

広報委員会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。

☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

薬事情報おきなわ No.253

2019年1・2月号 : Vol.33 No.6

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937



Medical News

●中外製薬、タミフルの問い合わせにAI-21年に全製品適用へ（薬事日報1月17日）

中外製薬は、人工知能（AI）を活用した対話型プログラムで製品に関する問い合わせに回答するチャットボット「MI chat（エムアイチャット）」を導入し、抗インフルエンザ薬「タミフル」を対象に同社ウェブサイト内の医療従事者向け情報ページで運用を開始。2021年には全製品で対応を目指す。

●アレルギーの妊婦、重度うつリスクが1.25倍 国立成育研が調査（毎日新聞1月19日）

鼻炎やぜんそくなどアレルギー疾患を持つ女性は、妊娠中に重度の抑うつ・不安状態となるリスクが1.25倍高まるとの調査結果を、国立成育医療研究センターなどのチームがまとめた。全国の妊婦約10万人が対象の大規模調査で判明。チームは「産婦人科医らがリスクを把握し、きめ細かくサポートする必要がある」と話している。

●「頭良くなる薬」輸入規制 個人でも処方箋必要（共同通信1月22日）

「頭が良くなる」「集中力が高まる」との触れ込みで販売されている医薬品やサプリメントについて、厚生労働省は21日までに、医師の処方箋や指示がなければ、個人輸入を認めない規制を始めた。頭痛や意識障害など健康被害が報告されており、脳の血流を活性化させるなど25種類の成分を含むものが対象。規制対象となる成分は、てんかん薬や抗うつ剤、注意欠陥多動性障害（ADHD）治療薬などに含まれる。「脳の機能を高める」などと宣伝、輸入代行業者を通じて販売されており、「スマートドラッグ」とも呼ばれている。保護者が購入し、子どもに服用させるケースも報告されており、同省は心身の正常な発育を妨げる恐れがあると判断。昨年11月に通知を出し、今月から規制を始めた。

●後発品3品目で溶出曲線外—厚生労働省（薬事日報1月22日）

厚生労働省は18日、昨年9月5日に開催された第21回ジェネリック医薬品品質情報検討会の概要を公表した。抗菌剤・抗ウイルス剤の後発品12品目（有効成分ベース）の溶出試験を行った結果、バラシクロビル錠やアジスロマイシン錠など次の3品目17製剤で先発品の溶出曲線と類似の範囲になかったことが報告された。バラシクロビル

錠2製剤、フルコナゾール錠1製剤に関しては、ロット間で溶出性評価のばらつきが大きいことから、同一の品質を再現できるようメーカーが改善することとした。一方、セフポドキシムプロキセチル錠100mg、アジスロマイシンカプセル100mg、ロキシスロマイシン錠150mgの先発品について、開発時と比べて溶出挙動が大幅に変化している可能性があるため、今後の対応を検討会事務局で検討することとした。

●厚生労働省、新添付文書記載要項でQ&A—バイオ後続品の内容を追加（薬事日報1月23日）

厚生労働省は、4月1日から適用される医療用医薬品の添付文書の新記載要領に関する質疑応答集（Q&A）をまとめた事務連絡を、17日付で都道府県に発出した。今回の事務連絡は従来のQ&Aに対し、新たに2つの質疑応答を追加。バイオ後続品の添付文書について、「薬物動態」「臨床成績」「薬効薬理」の3項目を先行バイオ医薬品の添付文書と同じ記載内容で情報提供することなどを求めた。

●近大、大阪府薬がアンチ・ドーピングで協定—教育・啓発活動等（薬事日報1月25日）

ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックの日本開催に当たり、アンチ・ドーピング教育・研究活動に関する教育・啓発活動の推進や専門家の育成が一層求められている社会状況に対応するために締結に至った。

●インフルエンザの新薬ゾフルーザ、服用で耐性ウイルス確認（毎日新聞1月25日）

インフルエンザの新薬「ゾフルーザ」を服用した患者から、耐性ウイルスが確認された。薬の開発段階ではなく、実際の治療で確認されたのは初めて。国立感染症研究所などの研究者グループが今月、欧州の感染症専門誌「ユーロサーベイランス」で発表。だが、臨床試験では服用した成人の9.7%、小児の23.4%で耐性ウイルスを確認。タミフルなど他の薬に比べ高率で、専門家は使い過ぎによる耐性ウイルス増加を懸念している。

グループは、昨年12月にインフルエンザを発症した横浜市の小学生4人から検出されたウイルスを調べた。ゾフルーザ服用の2人のウイルスは、他の2人（タミフル服用または薬を服用せず）のウイルスに比べて、ゾフルーザに80～120倍の耐性を示した。ウイルスの種類は4人ともA香港型の「H3N2」。

iu 公益財団法人 日本医療機能評価機構



処方内容の未修正による 再処方時の誤り

No.143 2018年10月

薬剤師の疑義照会により薬剤の量などが変更になったが、電子カルテの処方内容を修正しなかったため、その後、処方歴をもとに変更前の薬剤を再び処方した事例が2件報告されています(集計期間:2017年1月1日~2018年8月31日)。この情報は、第50回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

疑義照会により処方の変更になったが、その後、修正されなかった処方歴をもとに変更前の薬剤を再処方した事例が報告されています。

事例1のイメージ

1 保険薬局での調剤時

セルセプトカプセル
1回4カプセルは
多いのではない
でしょうか。

疑義照会に
より変更

| |
|-----------------|
| 院外処方箋 |
| 氏名 ○○○○ |
| 処方 セルセプトカプセル250 |
| 1日2回 1回4カプセル |
| 2 |

正しい量(1回2カプセル)を交付

2 入院後の再処方時

修正していない

処方歴の画面

【院外処方】20XX年X月X日
セルセプトカプセル250 1回4カプセル
1日2回:朝・夕 食後

前回と同じ処方にしよう

誤った量(1回4カプセル)を処方

処方内容の未修正による再処方時の誤り

事例 1

医師は、院外処方時にセルセプトカプセル250 1回2カプセル 1日2回(1日4カプセル)と入力するところ、誤って1回4カプセル 1日2回(1日8カプセル)と入力した。保険薬局の薬剤師から医師へ疑義照会があり、用量を変更して調剤を行ったが、医師は電子カルテの処方内容を修正しなかった。その後、患者が休日に緊急入院した際、処方歴をもとにセルセプトカプセル250 1回4カプセル 1日2回を処方した。入院後に血中濃度を測定した際、数値が高く過剰投与していることが分かった。

事例 2

外来担当の医師Aがピソプロロールフマル酸塩錠12.5mgを処方した。院内の薬剤師が「処方量が多いのではないかと疑義照会したところ、1.25mgに変更になった。その際、医師Aは電子カルテの処方内容を修正しなかった。その後、患者が夜間に救急外来を受診して入院した際、医師Bは処方歴の用量をもとに、ピソプロロールフマル酸塩錠12.5mgを処方した。薬剤師も看護師も気付かず、患者は内服した。

事例が発生した医療機関の取り組み

・疑義照会により薬剤の量などを変更した際は、確実にカルテの処方内容を修正する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。

※この情報の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

http://www.med-safe.jp/

jm 公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業

**医療
安全情報**

No.145 2018年12月

腎機能低下患者への 薬剤の常用量投与

添付文書上、腎機能が低下した患者には投与量を減量することや慎重に投与することが記載されている薬剤を常用量で投与し、患者に影響があった事例が8件報告されています。(集計期間:2014年1月1日～2018年10月31日)。この情報は、第52回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

腎機能が低下した患者には減量や慎重投与が必要な薬剤を常用量で投与し、患者に影響があった事例が報告されています。

| 薬効分類 | 投与した薬剤名 | 件数 |
|---------------------------------------|-----------------------------|----|
| 抗ウイルス化学療法剤 | バルトレックス錠500 | 4 |
| | バラシクロビル錠500mg | |
| 不整脈治療剤 | シベノール錠100mg | 1 |
| | ピルシカイニド塩酸塩カプセル [※] | 1 |
| 広範囲経口抗菌製剤 | クラビット錠500mg | 1 |
| 骨粗鬆症治療剤 (活性型ビタミンD ₃ 製剤) | エディロールカプセル0.75 μ g | 1 |

※規格は不明です。

腎機能低下患者への薬剤の常用量投与

事例 1

医師は、夜間に外来を受診した帯状疱疹の患者にバルトレックス錠を処方することにした。病歴から患者が透析を受けていることは把握していたが、減量する必要があることを認識しておらず、通常の用法・用量のバルトレックス錠500mg 1回2錠 1日3回を処方した。2日後、患者は呂律が緩慢になり幻視を認めたため、入院となった。

事例 2

医師は、患者が透析を受けていることを把握しておらず、クラビット錠500mg 1回1錠 1日1回を継続して処方していた。その後、患者は嘔吐症状が強くなり、汎血球減少を認めた。クラビット錠が原因と疑われ、内服が中止となった。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・医師は、処方する前に患者の腎機能を把握し、患者の腎機能に応じた用量で処方する。
- ・薬剤師は、腎で代謝・排泄される薬剤を調剤する際は、患者の腎機能を確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。 <http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

[質問] ソラナックス0.4を飲んでいるが、ある時からソラナックスの粒が小さくなって、効きが悪くなっている気がする。(女性)

[回答] 発売以降ソラナックスの錠剤の大きさに変更はありません。ただ、2018年9月の出荷分からPTPシートの大きさが少し大きくなりました。そのために錠剤が小さくなったと感じられたのだと思います。

●安全性情報●

[質問] 1か月前イブA錠を飲んだら耳に蕁麻疹が出た。頭痛のためここ数日飲んでみたら、問題なさそうだが、大丈夫ですか？(男性)

[回答] 今回の服用で問題ないとの事であれば、前回の蕁麻疹は薬によるものではないとも考えられます。今後は服用後に異常が現れるようでしたら、服用を中止して医療機関でご相談ください。

[質問] 風邪を引いたので、エスタックイブEXをのみたい。授乳中ですが、問題ないですか。

[回答] 製品中のイブプロフェンという成分の授乳移行はわずかなので、授乳中にも使用される薬剤の1つです。イブプロフェンの血液中の濃度が最高になるのは薬を飲んでから約2時間後になりますので、気になるようでしたら授乳直後に服用されるといいでしょう。

[質問] 妊娠10週。インフルエンザA型でゾフルーザが処方された。1回の服用なのでいいと思っていたが、今になってタミフルがよかったんじゃないかと心配になった。

[回答] 日本産婦人科医会等では妊婦が感染すると自然流産、早産、低出生体重児出産や重症化のリスクがあるため、妊婦が発熱したらすぐに医療機関を受診し、インフルエンザを否定できない場合でもタミフルやイナビル等での治療を優先するよう勧めています。現在までに、リレンザ、またはタミフルの妊婦への投与に関する胎児の有害事象は報告されておりません。ただ、新薬であるゾフルーザについては、動物実験では催奇形性の報告はありませんが、人では症例数が少なく、現在妊娠中で服用している患者は4名(2週、5週、25週、不明)いますが、まだ未出産の状況です。定期的に産科の検診を受けることを勧めます。

[質問] はげの薬プロスカーを飲んでいる男性と子づくりしても大丈夫ですか？(女性)

[回答] プロスカーとプロペシアの成分は同じフィナステリドです。実は、プロスカーは外国で前立腺肥大治療薬として認可されている医薬品(日本では未承認)です。それに対し、プロペシアは日本で男性型脱毛症として認可されている医薬品です。プロペシア服用中の男性の精液中への移行量は極めて微量と報告されていますが、プロスカーを男性型脱毛症に使用した場合の安全性については不明です。また、プロスカーは日本で認可された薬剤ではありませんので、副作用等の被害が出た場合の保証もなく、妊娠を計画中の女性や胎児への影響についても保証はできません。

●サプリメント・健康食品●

[質問] 2～3か月前より膝の関節痛があり、外科で診てもらったら半月板が傷ついていると言われた。ヒアルロン酸のサプリメントが膝にいいと思って飲み始めたら、痛みも治まり、半月板の形も元に戻ったようだ。続けても大丈夫ですか？(男性)

[回答] 体内にも含まれているヒアルロン酸は加齢とともに減少することから、関節炎などに対する効果等が期待されています。体調がいいようであれば、続けても問題ないでしょう。ただし、1日の摂取量を守って服用してください。

●ドーピング●

[質問] 以下の薬やサプリメントは禁止物質ですか？

1. スマイル40EX(ライオン)、
2. ジキナIP(富士薬品)、
3. スマイルコンタクトドライテクト(ライオン)、
4. ハーパライフ24CR7Xドライブ(スポーツ指導者)

[回答] 1と3には禁止物質は含まれておりません。ジキナIPは、禁止物質のメチルエフェドリン塩酸塩とカンゾウ乾燥エキスが含まれており、競技会内のみ禁止となります。急な体調不良の時に困らないよう、医薬品の服用は注意してください。また、4のサプリメントについてですが、海外でラベルに表示しないまま不正に興奮薬やステロイドなどの医薬品成分を添加した製品が多数流通しているため、製造基準や製品管理の品質が不明な製品の使用は避けることが賢明です。

薬事情報センターに寄せられた質問から
はい、薬事情報センターです。



薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

[質問] 不妊治療中の女性が六君子湯とタケキャブ（一般名：ポノプラザンフマル酸塩）を服用している。タケキャブ服用の理由は何？（薬局）

[回答] タケキャブを含めPPIの不妊治療時の処方意図について、適応症以外での使用は確認できなかった。六君子湯を併用されていることから、適応症である胃腸症状の改善が目的と考える。タケキャブの妊婦への投与については、高用量の動物試験で胎児体重及び胎盤重量の低値、外表異常、並びに内臓異常が認められている。妊婦へのPPI投与は有益性投与となっており、胃粘膜保護の目的であれば、非吸収性の粘膜保護薬アルサルミン内用液、マグテクト配合内服液（水酸化アルニミウムゲル）ミルマグ等の制酸薬が代替薬となる。また、PPIの中でもオメプラゾールは、複数のコホート研究で妊婦の使用が催奇形リスクの増加と関連しないことが示されている唯一の薬剤とされている。

参考：「実践 妊娠と薬 第2版」（じほう）、医薬品添付文書他

[質問] クラビット錠（一般名：レボフロキサシン）と併用可能な整腸剤はありますか？ミヤBMはいいが、ピオフェルミンRはあまりよくないと聞いたが、どうなのか。（薬局）

[回答] 抗菌薬服用により、腸内細菌叢のバランスが崩れ、下痢、軟便等の消化器症状が出現することがある。通常これらの症状改善には多剤耐性乳酸菌製剤が併用される。ただ、ピオフェルミンRについては、ナリジクス酸以外のニューキノロン系抗菌薬との併用は適応外であり、メーカーも併用は勧めていない。ニューキノロン系薬剤と耐性乳酸菌製剤の感受性試験において十分な効果は見られなかったとする報告もあり、ニューキノロン系抗菌薬にピオフェルミンR併用は有効であるとは言い難い。別に、ミヤBM（酪酸菌製剤）は、芽胞を形成するため、人為的な耐性を付与せずとも抗菌薬の影響を受けにくく、小児における抗菌薬関連下痢症に対して有効だったとの報告がある。クラビットについては、薬剤自体が下痢の副作用頻度が低いため、単独での使用も問題ないとされている。

参考：ピオフェルミン製薬資料、整腸剤の使い分け（日本医事新報（4706）、2014）

[質問] ビブラマイシン（一般名：ドキシサイクリン）の尋常性痤瘡への用法用量について。（薬局）

[回答] ドキシサイクリン、ミノサイクリン等のテトラサイクリン系抗生剤内服はP. acnesに対する殺菌作用、菌体外酵素の産生抑制、白血球走化因子の抑制、活性酸素の抑制を目的として、特に丘疹・膿疱型の炎症性痤瘡に用いられる。アダパレン・過酸化ベンゾイル配合ゲルやアダパレンゲル単独治療群と抗菌薬併用群との比較では、併用群の方が改善率で有意差が認められており、ガイドラインにおいても抗菌薬との併用療法を推奨している。ドキシサイクリンの投与量については、炎症の強い時期は1日200mgから開始し2～4週投与後、以後症状の軽快に応じて100mg、50mgと漸減していくstep down方式や1日100mg～50mgの少量長期内服の2～3か月継続投与などが用いられる。1日1～2回に分けて処方されているようである。

参考：尋常性痤瘡の治療：日本醫事新報（3576）、1992、痤瘡およびその類症の治療：日本醫事新報（3970）、2000、尋常性痤瘡治療ガイドライン2017

[質問] 学校における児童のけがの消毒に、在庫として残っている消毒剤を使っている。今後消毒剤の購入が難しいので、消毒剤が切れた時にはどうすればいいか。（学校薬剤師）

[回答] 従来、傷は消毒し乾燥させて滅菌ガーゼによる創ドレッシングが行われてきたが、その治療法は肉芽組織や再生上皮を損傷する可能性が高く、かえって創傷治癒を遅延させる。最近では、ほとんどの場合消毒薬は使用せず、まず水道水等で水圧や溶解作用を利用して、創傷表面から化学的刺激性、感染源、異物などを取り除く方法が取られる。擦り傷等の患部が泥などで著しく汚れている場合には、水道の流水下で手早く洗い流し、乾かないようにラップで覆うなどの最低限の処置を行う。その後は家庭で「家庭用創傷パッド」等で処置してもらうか、病院を受診するよう勧める。ただし、学校によっては対応の違いもあるため、学校長、保健婦などと共通の認識で対応してください。

参考：学校保健会HP、創傷一般ガイドライン：日本皮膚科学会ガイドライン

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇医薬ジャーナル 55巻1号
 - *糖尿病とがん
- ◇エキスパートナース 35巻1号
 - *がん終末期ケア ケア&エビデンス
- ◇エキスパートナース 35巻2号
 - *抗菌薬 正しく使う 正しく検査に出す
- ◇月刊薬事 61巻1号
 - *見逃してはいけない!間違いやすい抗てんかん薬処方
- ◇月刊薬事 61巻2号(臨増)
 - *症候/疾患別 臨床検査値 使いこなし完全ガイド
- ◇産科と婦人科 86巻1号
 - *産婦人科医が押さえておくべき法・指針・医療体制
- ◇産科と婦人科 86巻2号
 - *妊娠高血圧症候群_PIHからHDFへ
- ◇総合診療 29巻1号
 - *教えて検索!膨大な医学情報を吟味・整理するスキル
- ◇調剤と情報 25巻1号
 - *薬学的臨床推論のイロハ
- ◇治療 101巻1号
 - *コンサルトの美学
- ◇日経ドラッグインフォメーション 252号
 - *2019 薬剤師を極めよう今年こそスキルアップ
- ◇日経メディカル 614号
 - *医師を狙う悪いヤツらにご用心
- ◇日本医事新報 4938号
 - *喘息とCOPDの合併
- ◇日本医事新報 4939号
 - *唾液腺・眼病変からみたIgG4関連疾患の進歩
- ◇日本医事新報 4940号
 - *膵管内乳頭粘液性腫瘍(PIMN)の診断と経過観察法
- ◇日本医事新報 4942号
 - *精神疾患と神経炎症の関係
- ◇日本医事新報 4943号
 - *これからの経口抗凝固薬(DCAC)処方のポイント
- ◇日本医事新報 4944号
 - *糖尿病性腎臓病(DKC)の概念と治療戦略
- ◇薬局 69巻13号
 - *ジェネリック外用剤 ~患者のニーズにあった製剤を選択するための見方・考え方
- ◇薬局 70巻1号
 - *Evidence Update 2019 ~最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶PPI無効例への次の一手にファモチジンとピレンゼピン
日経ドラッグインフォメーション (255) p. PE021
- ▶腎全摘患者にメチコバルが処方された理由
日経ドラッグインフォメーション (255) p. 033

■新薬■

- ▶審査報告書から見る新薬の裏側 [24] レキサルティ®錠1mg・2mg (プレクスピプラゾール)
月刊薬事61 (1) p. 134

■安全性情報■

- ▶副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (81)

1. 米国の未成年者における医療用医薬品使用の実態
2. 米国の高齢パーキンソン病患者における認知症治療薬の処方実態
3. TNF阻害薬により末梢神経障害のリスクが上昇
4. ヒドロキシクロロキンによる皮疹と自己抗体との関連
5. オタネニンジンはCYPやOATPを介した相互作用を起こさない
6. ドキシサイクリンの皮膚中濃度も食事の影響を受けない。

医薬ジャーナル 55 (1) p.158

- ▶グレープフルーツや喫煙の影響を受ける薬剤
日経ドラッグインフォメーション (255) p. PE033
- ▶リスクマネジメント~院内での薬剤師の活動~ (127)
医薬品包装デザインが医療安全に与える効果~製剤見本を用いた過誤防止効果の検討と製品化に向けた取り組み~
医薬ジャーナル 55 (1) p.139

■薬剤師業務■

- ▶ジェネリック外用剤の「使用感」に着目した薬剤選択
薬局69 (13) p. 134
- ▶ジェネリック外用剤への不安と薬剤師の役割
薬局69 (13) p. 149

■産科・婦人科■

- ▶妊婦とくすりの基礎知識…妊娠中の高血圧
日経ドラッグインフォメーション (255) p. PE019
- ▶妊婦可能年齢の女性に対する抗てんかん薬…
バルプロ酸の大量投与
月刊薬事 61 (1) p.29
- ▶低用量ピルの有害事象(血栓症を中心に)
調剤と情報25 (1) p. 86

■その他■

- ▶スポーツファーマシストが教えるセルフメディケーションのピットフォール~女性アスリートをサポートする
調剤と情報 25 (1) p.99
- ▶対人業務の悩みをスッキリ「実践!患者考」…「強い薬ですか」と患者に聞かれたら
日経ドラッグインフォメーション (255) p. PE02
- ▶ヌックマム含有サプリメントの日本人成人男女における血圧降下作用
新薬と臨牀67 (12) p. 82

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

チアゾリジン薬と発がんリスク

医薬ジャーナル 1月号

チアゾリジン (TZD) 薬には複数の化合物があるが、わが国で唯一上市されているピオグリタゾンに焦点を絞り、概説した。TZD薬はインスリン抵抗性改善系の経口血糖降下薬に分類され、PPAR γ (peroxisome proliferator-activated receptor γ) のリガンドとして作用する。単独投与では低血糖は少なく、脂肪細胞分化の促進とそれに伴う脂肪細胞の形質回復によりインスリン抵抗性を改善すると考えられており、優れた血糖降下作用を有する。しかしながら、TZD薬に特徴的な副作用として、退役貯留に伴う浮腫があげられる。インスリン併用例、女性で発症頻度が高い。循環血漿量の増加により新機能を悪化させる可能性があるため、心不全患者及び既往歴のある患者には禁忌である。また、女性において骨折の発症頻度の上昇があげられる。また、わが国では投与前に膀胱がんのリスクについて説明し、定期的な尿検査などを行い、膀胱がん既往歴を有する患者についても慎重に投与の可否を判断する必要がある。

東京大学大学院医学系研究科
窪田直人・門脇孝

前立腺がん和イソフラボン摂取との関係は？

日本医事新報 4940年号

イソフラボンは、エストロゲンと化学構造が類似しているため、エストロゲン受容体に結合して作用することが知られています。その作用は、個体の性ホルモン濃度により異なり、エストロゲン高濃度では、本来結合するはずのエストロゲンの結合を妨げるために抗エストロゲン作用を示し、エストロゲン低濃度では、イソフラボンがエストロゲン受容体に結合するためにエストロゲン作用を示すと考えられています。男性では、イソフラボンのエストロゲン作用のほか、発がんに関わるチロシンキナーゼの作用や血管新生を阻害することなどにより前立腺がんを予防することが、多く報告されています。一方、日本人を対象とした多目的コホート研究では、イソフラボン摂取は限局前立腺がんには予防的でしたが、進行前立腺がんではむしろリスクが上がる、という結果となり、同様に日系米国人を対象とした研究や、欧州で行われた研究でも、類似の結果がみられています。今後の研究でのエビデンスの蓄積が必要です。

国立がん研究センター社会と健康 研究センター
澤田典絵・津金昌一郎

高齢者の転倒防止を念頭に置いた睡眠薬ラメルテオンとスボレキサントの使用法は？

日本医事新報 4938年号

高齢者では、睡眠構築の変化から不眠を感じやすく、睡眠薬を希望する人も多くなります。処方の際には、長期投与のリスク（耐性や常用量依存、認知機能障害など）や1回でも起こりうるリスク（転倒やせん妄の発症など）を念頭に置く必要があります。これらを考慮した場合、BZ受容体作動薬ではなく、新規の睡眠薬を選択することは有利に働く可能性があります。特にラメルテオンやスボレキサントでは耐性が生じにくく、長期使用しても効果は持続しやすいこと、せん妄発症の予防効果、筋弛緩作用や平衡感覚への影響も少ない。ラメルテオンについては、メラトニン分泌開始時刻が入眠時刻の2~3時間前にあり、低用量の場合にはDLM0の2~3時間前の服用で最も効果が期待できるため、一般的には普段の入眠時刻の4~5時間前の服用が勧められます。スボレキサントは一般的にTmaxは、空腹時で平均1.5時間（1~3時間）と比較的早いので、就寝1~2時間前には服用したほうがよい効果があると考えられます。

京都大学医学部附属病院緩和ケアセンター
谷向 仁
大阪回生病院睡眠医療センター
谷口 充孝

アプレミラストによる爪感染治療が奏功した2例

新薬と臨牀 12月号

爪乾癬は既存の外用療法や光線療法、内服療法では反応が乏しく高価な生物学的製剤でのみ治療できると考えられてきたが、アプレミラスト内服でも治療できる可能性が示されている。今回アプレミラストで爪乾癬が治癒した2例を報告している。1) 50代男性:5年前から両手指と外陰部、後頭部に紅斑・落屑が出現、近医で感染と診断されV.Dの配合剤外用及び光線療法でも変化なく、手指爪甲の変形もあり当科を受診。アプレミラスト内服により乾癬の面積と重症度の指標PASIスコアは3.0から内服24週後には0となり、手指の感染と爪乾癬は消失。両手親指爪甲の爪乾癬は爪の伸長と共に24週で治癒した。2) 40代男性。20年前から乾癬を外用療法にて加療中。半年前から両手指の爪甲変形が目立つようになり、アプレミラストを内服。PASIスコアは4.6から24週後には0となり、手指の感染は消失。両手親指爪甲の爪乾癬は爪の伸長と共に24週で治癒した。乾癬治療にかかる医療経済上のコストは生物学的製剤が突出して高いため、爪白癬の治療には比較的安価なアプレミラストが望ましいと考えられている。

関東労災病院
三尾 峻生・北島麻耶子他

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

★【日薬幹旋図書】治療薬ハンドブック 2019

【監修】高久 史麿 【発行】じほう 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B6変型判/1,566頁 【定価】4,752円(税込) 【幹旋価格】4,280円(税込)

- ・添付文書情報だけでなく、臨床の第一線で活躍する医師による「処方 Point」、薬剤師による「薬剤 Point」など独自の臨床情報が満載。
- ・「妊娠と薬」分野で日本をリードする、虎の門病院で集積した「妊婦への投薬情報」や、「錠剤・カプセル剤の粉碎可否情報」など、役立つ情報が充実!
- ・配合変化、適応外使用の情報や、妊婦・小児・腎機能低下患者などハイリスク患者への対応まで、すぐに役立つ情報を凝縮。

★【日薬幹旋図書】Pocket Drugs 2019

【監修】福井 次矢 【発行】医学書院 【発行日】2019年1月

【版型/頁】A6判/1,088頁 【定価】4,536円(税込) 【幹旋価格】4,210円(税込)

治療薬を薬効ごとに分類し、その冒頭に第一線で活躍する医師による「臨床解説」を掲載。「薬剤情報」では「選び方・使い方」、薬剤選択・使用時の「エビデンス」をコンパクトに解説。主要な薬剤は製剤写真も掲載。2019年版では、服薬による尿や便の色調変化、保存状態に注意する薬剤等を追加。

★【日薬幹旋図書】治療薬マニュアル 2019

【編著】高久 史麿、矢崎 義雄 【発行】医学書院 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B6判/2,784頁 【定価】5,400円(税込) 【幹旋価格】5,000円(税込)

- ・収録薬剤数は約2,300成分・18,000品目。2018年に掲載された新薬を含むほぼすべての医薬品情報を収載。
- ・添付文書に記載された情報を分かりやすく整理し、各領域の専門医による臨床解説を追加。
- ・医薬品レファレンスブックとして、医師・薬剤師・看護師ほかすべての医療職必携の1冊。

★【日薬幹旋図書】今日の治療薬 2019

【編集】浦部 晶夫、島田 和幸、川合 眞一 【発行】南江堂 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B6判/1,472頁 【定価】4,968円(税込) 【幹旋価格】4,470円(税込)

臨床で使われる医薬品を薬効群ごとに解説と便覧で構成したベストセラー。2019年版では、巻頭トピックスとして、話題の三つのテーマ(1.高額薬剤、2.バイオシミラー、3.慢性便秘症治療薬)を新設、便覧には新規項目として「RMP」を追加し、薬物動態欄も大幅に充実。主要薬剤の尿中未変化体排泄率などを追加。解説には「今後の薬物療法の展望」を新設し、近く承認が予想される新薬についての解説を追加

スタートアップ TDM

はじめての人もつまづいた人も理論より実践! バイコマイシンからはじめよう!

【編集】香川県病院薬剤師会 香川県TDM委員会 【発行】南山堂 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B5判/136頁 【定価】2,700円(税込)

TDMは薬剤師職能が発揮される大切な業務の1つだが、苦手意識を持つ方は少なくない。そんな薬剤師の道標となる入門書。著者は手探りでTDMに取り組んできた薬剤師。自らの経験や現場の声を基に、イラストや図を多用し丁寧に解説。さらに、即実践で活用できるよう、広くTDMが行われているバンコマイシンを例に解説した。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

実践！パーキンソン病治療薬をどう使いこなすか？

【著者】武田 篤、柏原 健一、織茂 智之 【発行】南江堂 【発行日】2018年12月

【版型/頁】A5判/168頁 【定価】3,456円(税込)

パーキンソン病領域の第一人者である著者らが、非専門医を対象に、パーキンソン病薬物治療のHow toを伝える。治療薬の基本事項から、治療の実際(運動症状、非運動症状への対応)、さらに問題症例の解説を加えた構成。『パーキンソン病診療ガイドライン2018』の内容を反映した上でガイドラインでは触れられない実践的な部分まで、具体的な処方例を交え解説。

臨床検査データブック 2019-2020

【監修】高久 史磨 【発行】医学書院 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B6判/1,154頁 【定価】5,184円(税込)

“考える検査”をサポートする検査値判読マニュアルの最新版。今改訂では検査法の感度・特異度、JCCLS 共用基準範囲、植物・サプリメントの影響を追加、ますます便利に。きめこまやかな構成により、「パニック値」「異常値のメカニズムと臨床的意義」「見逃してはならない異常値」「関連する検査」「薬剤の影響」「患者指導」など知りたいことがすぐひけ、情報量の多さでは他の追随を許さない、全医療者の必携書。

統計解析なんかこわくない

～データ整理から学会発表まで～

【著者】田久 浩志 【発行】医学書院 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B5判/224頁 【定価】2,592円(税込)

看護・医療関係者がよく使う統計解析の手法や考え方に的を絞った実践的参考書の第2版。「患者の満足度調査」など、臨床現場での身近な例を用いて、分かりやすく解説。さらに、データ収集のポイント、集めたデータをExcelを用いて効率的に入力する方法についても、実際の画面を示しながら丁寧に解説。

検査値を読むトレーニング

～ルーチン検査でここまでわかる～

【著者】本田 孝行 【発行】医学書院 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B5判/352頁 【定価】4,860円(税込)

検査値の推移と組み合わせから、「病態を読み解く力」を身につける本。「RCPC」の手法では、病歴や身体所見の情報なしで、検査所見のみから病態を推論。これに時間軸と複数検査値の組み合わせを加え、患者の病態を13の基本項目に分け、全39症例の検査値の推移から病態の変化を読み解いていく。

今日の治療指針 2019年版【デスク版】

【総編集】福井 次矢、高木 誠、小室 一成 【発行】医学書院 【発行日】2019年1月

【版型/頁】B5判/2,160頁 【定価】20,520円(税込)

今日の治療指針 2019年版【ポケット版】

【版型/頁】B6判/2,160頁 【定価】16,200円(税込)

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)
(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室及びドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の見学、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937
沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●50歳以上の成人における帯状疱疹ワクチンの有効性、効力、安全性:システムティックレビューとネットワークメタアナリシス (BMJ British Medical Journal/363(8173)k4029/(2018.10))

50歳以上の成人において、帯状疱疹弱毒化生ワクチンの有効性、効力および安全性を帯状疱疹アジュバント組換えサブユニットワクチンまたはプラセボと比較した。方法：バイズ統計によるメタアナリシスおよびネットワークメタアナリシスを用いたシステムティックレビュー。Medline, Embase および Cochrane Library (2017年1月～)等をデータ源とし、50歳以上の成人においてプラセボまたはワクチン接種なしと比較した実験的、準実験的および観察研究を適格とした。(関連報告18報を伴う患者2044504例を含む27研究) 主要転帰は、帯状疱疹の発生率とした。その結果、アジュバント組換えサブユニットワクチンは、弱毒化生ワクチンおよびプラセボのいずれと比較しても統計学的に優れていた。無作為化比較試験11試験のネットワークメタアナリシスからは、アジュバント組換えサブユニットワクチンが、弱毒化生ワクチンおよびプラセボと比較して注射部位の有害事象が有意に多く、無作為化比較試験9試験のネットワークメタアナリシスからは、全身性有害事象が有意に多いことが示された。

●女性の乳癌生存者における長期アジュバント内分泌療法と心血管疾患のリスク:システムティックレビュー (BMJ British Medical Journal/ 363(8172)k3845/(2018.10))

非転移乳癌の既往のある女性において、広範な特異的臨床的心血管疾患に対する内分泌療法の影響を検討した。方法：無作為化比較試験および観察研究のシステムティックレビューおよびメタアナリシスを行った。2018年6月までに報告された Medline および Embase を検索、非転移乳癌の既往のある女性において、tamoxifen またはアロマトラーゼ阻害薬のいずれかの使用に関連した特異的心血管疾患転帰のリスクを検討しているか、2治療を比較している試験を組み入れた。結果、7項目の特異的心血管疾患転帰(静脈血栓塞栓症、心筋梗塞、脳卒中、狭心症、心不全、不整脈および末梢血管疾患)の結果を伴う26試験を特定した。tamoxifen 使用患者は、非使用およびアロマトラーゼ阻害薬使用患者と比較して、静脈血栓塞栓症のリスク増加が示唆された。また、アロマトラーゼ阻害薬使用患者では血管疾患、心筋梗塞及び狭心症のリスクが tamoxifen 使用患者より高かった。これらの転帰に対して tamoxifen の保護作用が部分的に由来する可能性も示唆された。結論：アロマトラーゼ阻害薬か tamoxifen の選択は主に乳癌再発に対する有効性に基づくが、本レビューから、個々の患者の静脈または動脈血管疾患リスクを重要な2次的考察とすべきであることが示される。

2019年度のJADA認定スポーツファーマシスト募集のお知らせ

2019年度の募集は、4月～5月頃より申込開始を予定しております。2019年3月中旬に募集告知をしますので、ご希望の方は日本アンチドーピング機構(JADA)のホームページにてご確認ください。(基礎講習会・テキスト代：7,400円、認定料：20,500円(4年間有効))

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください!

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➔ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

➔ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

➔ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➔ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
<ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

第38回 暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ハロウィンの時期に北米に行く機会があり、中身を取り出し目鼻をくり抜くペポカボチャは、日本のカボチャとは全く違う種類だと実感しました。果肉より種を食べることが多いようです。

島カボチャ：ナンクワー：島南瓜

学名 C. moschata (ニホンカボチャ)
科名 ウリ科 Cucurbitaceae科
属名 カボチャ属 Cucurbita 属
使用部位 果実・花被・種子・種臍
有効成分 ビタミンA・K、カリウム・葉酸



<名称と特徴>

島カボチャは沖縄で古くから作られてきた在来種のカボチャで、ナンクワー、チンクアーと呼ばれている。表皮の色は緑色の地にクリーム色で、完熟すると全体に橙色になってくる。果肉は粘質で煮物に適している。菊カボチャなどと同じ日本カボチャに分類される。

カボチャは8千年以上前の南北アメリカ大陸の原産。日本での名称は、ポルトガル語由来であるとされ、カンボジアCambodia の転訛であるとされる。ほかに「唐茄子」「南京」などの名もある。漢字表記「南瓜」は中国語：南瓜(ナングア nánguā) によるもの。

英名は pumpkinパンプキンで、北米では、果皮がオレンジ色の種類のみが pumpkin であり、

その他のカボチャ類は squashと総称され、日本のカボチャは、kabocha squashカボチャ・スクウォッシュなどと呼ばれている。

葉は大きく突起を持ち、斑模様や裂片をつける。花は黄色や橙色であり、短命であるため受粉に人工授粉が施されることが多い。

- ・セイヨウカボチャ：甘みが強い。栗カボチャなど現在日本で広く栽培されている。
- ・ニホンカボチャ：菊カボチャ、バターナッツカボチャ、鶴首カボチャがある。
- ・ペポカボチャ：ハロウィンでおなじみ。ドングリカボチャ、金糸瓜、ズッキーニなどがある。

<果実・種子の特徴>

皮は硬いが長く煮ることで柔らかくできる。サツマイモと同様にデンプンを糖に変える酵素を含んでおり、貯蔵によってあるいは低温でゆっくり加熱することによって甘味が増す。収穫直後よりも収穫後、約1か月頃が糖化のピークで食べ頃となる。保存性に優れ、切らなければ常温で数か月の保存が可能である。

種子は炒って、ナッツとして食べたり、パンや洋菓子のトッピングとして使われる。また、種子から黒っぽい、濃い黄緑色のパンプキンシードオイルがとれる。

漢方ではカボチャ果実を南瓜(ナンカ)といい、気力増強、消炎・鎮痛効果があるとし、種子を南瓜仁(ナンカニン)といい、動脈硬化予防、低血圧の改善や条虫、回虫駆除に用いる。果臍を南瓜臍(ナンカテイ)と呼び湿疹などに用いる。

参考：旬の食材百科、澱粉の酵素分解、漢方薬のきぐすり.com

日本カボチャ 可食部100g当たり 廃棄率35% 第七訂日本食品標準成分表

| エネルギー | タンパク質 | 炭水化物 | 食物繊維 | 水分 | リン | マグネシウム | カリウム |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| 49kcal | 1.6g | 10.9g | 2.8g | 86.7g | 42mg | 15mg | 400mg |
| 鉄 | カルシウム | ビタミンE | ビタミンK | ビタミンA | パントテン酸 | 葉酸 | ビタミンC |
| 0.5mg | 20mg | 1.8mg | 26 μg | 60 μg | 0.5mg | 80 μg | 16mg |

＜カボチャの有効成分＞

緑黄色野菜カボチャは、βカロテンやビタミンC、E、K、食物繊維などが豊富に含まれていて、免疫力の向上や便秘解消、美肌効果が期待できる。種子には植物ステロールやリグナン類、ミネラル類が豊富に含まれる。ドイツでは薬用としても利用され、主に過活動膀胱や頻尿など、排尿トラブルに効果的であるとされる。ワタは食物繊維のかたまりで、カロテン、ビタミンKが多く含まれている。

＜女性の更年期障害・排尿障害を軽減＞

閉経後女性を対象に、カボチャ種子抽出物を摂取させたところ、閉経による血圧上昇とHDLの低下が抑制されたほか、ほてりや頭痛、関節の痛みといった更年期症状も緩和されたことから、カボチャ種子が更年期障害予防効果を持つことが示唆された。また女性の過活動膀胱や頻尿など排尿障害を軽減する効果もある。

＜前立腺肥大を抑制する効果＞

カボチャの種に含まれる植物ステロールやリグナン類は、前立腺肥大症を緩和するといわれている。種子エキスの継続的摂取が病気の予防に効果的である。

＜骨粗しょう症を予防する効果＞

リグナン類には女性ホルモンのバランスを整える作用があり、骨粗しょう症の予防効果がある。カボチャの種には骨づくりに重要なカルシウムなどのミネラルやたんぱく質が含まれており、丈夫な骨づくりにも有効である。

＜新陳代謝を活発にする効果＞

カボチャの種は、血流を良くし新陳代謝を促進させる。また、種に含まれる多量の良質なたんぱく質は、弾力があってしなやかな血管をつくり、血行の改善につながる。

＜抗肥満作用＞

リグナン成分ジハイドロコニフィアルコールは脂肪細胞に働きかけ、肝臓での脂肪合成と脂肪蓄積を抑制する働きを持つ。

＜心疾患予防効果＞

カボチャ種子油は一酸化窒素合成系に働きかけることで、高血圧予防作用を有する。また心電図でのRR間隔、P波持続及びST上昇を正常化することで、心疾患保護作用も有する。

参考：若さの秘密、旬の食材百科、PubMed

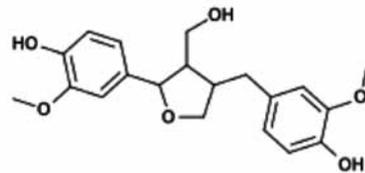
＜5αリダクターゼ阻害作用＞

フィナステリド(プロペシア)は2型5αリダクターゼを阻害してテストステロンがジヒドロテストステロンに転換されるのを抑制し抜け毛を予防する。

カボチャ種子オイルの添加濃度に比例して5αリダクターゼ阻害活性が増大するという実験結果から、カボチャ種子オイルは、5αリダクターゼ阻害活性を有することが示された。さらに東洋カボチャ種子オイル及び西洋カボチャ種子オイルは、ペポカボチャ種子オイルより、有意に高い、顕著な5αリダクターゼ阻害活性を有することが認められた。

参考：公開特許公報(A)発明者：佐藤博二 出願人：KKエス・ネット

＜リグナンlignan＞



真正リグナンの一種ラリシレンノールの構造

カボチャの種やアカゴマ(亜麻仁)、ゴマはリグナン源である。リグナンは、エストロゲン様作用を示し、抗酸化物質として働く植物エストロゲンの主要な分類の一つである。女性ホルモン様作用・脂質代謝改善作用がある。脂溶性リグナン類が生体内で酸化ストレス予防効果を示す。薄毛の原因となる物質の生成を阻害する働きがあり、育毛に効果的である。

参考：食品中リグナンの摂取と機能、リグナンの合成研究
リグナン類の立体異性体の合成と生物活性

リグナン「薬学用語解説」

フェニルプロパノイドの中で、C6-C3単位が2-4個縮合することにより生成する化合物群をいう。2分子のC6-C3単位からなるリグナン類は、側鎖のβ位同士が酸化的に縮合した骨格を持つ真正リグナンとそれ以外のネオリグナンに分類される。高等植物、特に木本植物の材に多く分布する。また瀉下、降圧、抗腫瘍、中枢神経抑制作用などの生理活性を有するものがあり、なかでもポドフィルム(メギ科の多年草)の根茎に含まれるポドフィロトキシン(リグナン系成分)の抗腫瘍作用は重要であり、この化合物由来の抗癌剤エトポシド(ペプシド・ラステッドS)が合成され臨床で使用されている。

薬連だより

本田あきこ全国キャラバン IN 沖縄



本田あきこ先生を囲んで～フォーラムディスカッション記念撮影

医療・福祉そして何より薬局・薬剤師のために来る7月の参議院議員選挙に出馬することを決意した薬剤師「本田あきこ先生」が全国キャラバンの一環として、12月10日～13日の4日間の日程で2度目の沖縄訪問をされました。

12月10日（月）の午前中に本田あきこ先生と秘書の堀内実穂さんが沖縄入りし（3日目から日本薬剤師連盟山本信夫会長が合流）、沖縄県薬剤師連盟役員と共に4日間で94薬局、4病院、5医薬品卸業社を訪問しました。薬局をはじめ各訪問先では、しっかりと笑顔の本田あきこ先生のポスターを貼って歓迎していました。秘書の堀内美保さんは、本田あきこ先生が握手した人数をカウントしており、沖縄訪問の4日間で900名近くの握手の数は、こ



沖縄県薬剤師連盟事務局
山城 英人

れまでの新記録とのことでした。

12月12日（水）の夜には、沖縄県薬剤師連盟・沖縄県病院薬剤師会・沖縄県薬業政治連盟沖縄支部の共催で「本田あきこ先生を囲んで～フォーラムディスカッション」を開催致しました。日本薬剤師連盟の山本信夫会長のあいさつの後の本田あきこ先生の特別講演では、本田先生は熊本県出身で平成27年の熊本地震では、薬剤師として災害支援に関わり、薬剤師職能の奥深さから、「薬剤師にはもっととできることがある。人として、薬剤師とし



熱弁！本田あきこ先生



声高らかに「がんばるぞ！コール」記念撮影



山本信夫 日本薬剤師会会長

て、日本国民のために全力を注ぎたい！」との熱い思いから政治の世界へと決意されたことを述べられていました。

最後に、沖縄県薬剤師連盟青年薬剤師部会の上原卓朗部会長が“がんばるぞコール”を高らかに叫び、閉会しました。

参加者数は、各地区薬剤師会会員、県病院薬剤師会員、医薬品卸業社の総勢130名余りで予想以上の皆様に集まって頂きました。厚く感謝申し上げます。

現在、医療系国会議員には医師21名、歯科医師6名、看護師6名がいる中、薬剤師は4名しかおりません。この人数では我々の要望を

実現するためには少な過ぎます。日本薬剤師会では、2020年、2022年の調剤報酬改定は非常に厳しいと予想しています。

薬剤師に不利な改定にならないようにするためにも、今年7月に行われる参議院議員選挙において、薬剤師の本田あきこ先生を応援していただきたいのです。

皆さんに度々お願いしております支援者名簿を提出していただきたいです。この支援者名簿こそが、本田あきこ先生を当選に導くための強力な武器となり、欠かすことができません。どうぞよろしくお願い致します。

薬連だより

国会レポート ～平成31年度政府予算案～

平成31年度予算の政府案は、昨年12月21日に閣議決定されました。

平成31年度一般会計の歳出総額は、前年度当初予算より4兆円弱増加して初めて100兆円を超え、101兆4564億円と過去最大規模となりました。このうち社会保障関係費は、消費税増税分を活用した幼児教育・保育の無償化及び社会保障の充実への経費を含め、3兆4587億円となり、前年度当初予算に比べて1兆704億円の増加となっています。

厚生労働省の一般会計予算総額は、前年度当初予算比9089億円増の3兆351億円となりました。このうち医療・介護等の社会保障関係費は3兆15930億円となっています。また、医薬品等の関連では新規の事業費として、革新的医薬品等の実用化促進のための審査体制の強化に1億800万円、医薬品等の申請・届出手続きのオンライン化のシステム整備に3億700万円、地域保活ケアシステムにおける薬剤師・薬局の機能を強化するため、薬局間・医療機関と

自由民主党組織運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井 もとゆき



の連携体制を構築するモデル事業の実施に2億1200万円等が計上されています。

概算要求時に示した高齢化等に伴う約6000億円の自然増に対しては、所得の多い会社員の介護保険料の引き上げで約600億円、消費税引上げに伴う薬価の改訂により約490億円など、約1200億を削減し、4800億円増となりました。

今通常国会では、予算案の審議に加え、薬機法等の改正法案の提出も予定されています。引き続き、医療や介護体制の整備・充実等、誰もが安心して暮らせる社会を築くために尽力して参りたいと思います。

藤井もとゆきホームページ

<http://mfujii.gr.jp/>

薬連だより

本田あきこ オレンジ日記 薬学生とのふれあい



日本薬剤師連盟
副会長 本田 あきこ

平成31年もあっという間に一か月が過ぎようとしています。支部訪問につきましては、残されている九州と四国ブロックの各県を訪問させていただく予定です。お邪魔させていただく薬剤師連盟の皆様には日常業務ご繁多の中、ご厄介をお掛けしますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、昨年の活動の一つとして、薬科大学・薬学部のご厚意での学生への講義がありました。教育の現場で政治団体の役員の肩書で、しかも講義をするなどという願いは無理ではないかと心配していましたが、7月に名城大学の薬学部で講義を行うことができたことを皮切りに、9月に崇城大学、10月に横浜薬科大学、12月に第一薬科大学、崇城大学薬学部、東京薬科大学（1年生）で講義を行う機会を頂戴しました。

講義のタイトルは「愛、希望、これからの医療と薬剤師」とし、内容は、医薬分業の始まりと歴史、薬剤師の任務、薬剤師の資格を持って働く職場、災害時の薬剤師の役割、これからの医療の中での薬剤師への期待等について、できるだけ分かりやすく話したつもりです。

- 1 本田あきこのホームページを開設しました。
右のQRコードから閲覧してください ⇒
- 2 Facebookページ「本田あきこの部屋」を公開しました。
右のQRコードから閲覧してください ⇒
- 3 本田あきこメールマガジンを開始しました。
右のQRコードから登録をお願いいたします ⇒

講義の最中には学生さんの反応はうまくつかめませんでしたが、講義終了後、医薬分業の歴史などについて、私自身もタジタジとなるような質問をぶつけてくる学生さんもあり、薬学生のまじめさと同時に、将来に大きな期待が持てる思いの経験でした。

本年も、東京薬科大学（3年生）、日本薬科大学、城西大学薬学部、就実大学薬学部での講義が予定されております。まだまだ現場の情報が薬学生にまで届いていない、そのような状況を改善し、薬剤師の在り様をしっかりと身に着けた、次世代を担う薬剤師のために、微力ながら頑張りたいと思います。



平成30年度 第7回理事会議事概要

日時：平成30年9月8日（土）19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌
副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子
理 事：川満直紀、笠原大吾、西川裕、山里勇、成川賢一、佐藤雅美、渡具知一枝、
新垣秀幸、下地仁、幸地良信、荒井千春、我喜屋美香、吉田洋史、上原卓朗
監 事：神谷朝雄
欠 席：村田美智子、吉富弓江
事 務 局：山城英人、大城喜仁、稲嶺有紀

議題

(1)「薬と健康の週間」について

<資料配付>

①地元紙論壇コーナーの執筆者・執筆内容について

(大城課長)

毎年、薬と健康の週間（10月17日～23日）中に地元2紙の論壇コーナーへ、県民に向けて薬と健康に関する啓発の投稿を行っている。今年度の執筆者と投稿内容を本理事会にて決定したい。

厚生労働省、日本薬剤師会が示した同週間の実施要綱には、①地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ薬剤師・薬局や健康サポート薬局などの薬剤師・薬局の役割についての理解を深める事項、②医薬品についての正しい知識を普及する事項、③電子版お薬手帳を活用することの有益性の周知、④医薬品副作用被害救済制度の周知、などを広く国民に周知することが記載されている。これらをテーマに執筆していただきたい。

また、執筆者については、配布している資料に過年度の執筆者と執筆内容が記載されているが、できれば執筆したことのない理事や部会長に執筆していただきたい。

以上をふまえ、まだ執筆したことのない理事数名が指名され、その中から成川理事と幸地理事が執筆することに決定した。執筆内容等については事務局の大城と調整することとした。

②くすり健康フェア新聞広告について

③琉球放送（RBC）テレビCM放送について

(大城課長)

薬と健康の週間中に開催される同フェアの広報として例年、地元2紙に広告を掲載している。一昨年度、広告を掲載しなかったことで同フェアへの参加者が少なかったとの意見が出され、昨年度より改めて理事会に諮った上で掲載するか否かを決定することになったことから、議案として提示している。新聞広告は各紙共に全5段カラーで1紙65万円の計130万円となっている。

また、琉球放送と共作の「かかりつけ薬剤師を持ちましょう」をテーマとした30秒CMも昨年同様に放送してはどうか。放送は10月1日から10月31日の月曜日から金曜日の平日16時50分から放送されるニュース番組「Nスタ」内で、番組終了時の提供カード（テロップ）も付けて60万円の

見積もりの提案がある。

両提案ともに当会事業としての予算は獲得している。

(亀谷会長)

一昨年度、広告を掲載しなかった理由は、同フェアが、沖縄県、那覇市との3社主催でありながら広告料の殆どを当会が支払っていること、当会が多く支払っているにもかかわらず、広告の3者連名の順番が沖縄県、那覇市、当会の順で、当会名は最後に記載するよう言われていることにある。

沖縄県が、当会以外の医療団体に同様の共催事業等を開催する場合に補助等を捻出しているか否かを事務局は調査しただろうか。

(山城次長)

この件については薬と健康の週間事業の3者会議において、これまでも討議してきた。各医療団体へ広告料の取り扱いを確認したところ、当会と同額の広告料を補助し、事業に関わる広告料以外の費用の補助は出していないことを確認した。当方でも、沖縄県歯科医師会と沖縄県看護協会に確認をとったが、同様の週間事業を沖縄県と共催しているものの、広告料以外の補助が無い。うえ、事業運営も沖縄県の協力は無く独自で開催していると確認している。新聞広告は、請け負った広告会社の営業で関係医療施設等から広告料を調達しているとのことで、このような方策もある。

(大城課長)

10年以上も前に遡るが、現在のくすりと健康フェアの前身は、薬事衛生大会であった。その頃の2紙への広告は1頁全面で350万円の料金で掲載していた。この広告料は請け負った広告会社の営業で薬局はもちろん関係医薬品会社等から広告料を調達していた。当時は、薬と健康の週間事業の全日程、県知事と当会会長の挨拶まで掲載していた。

ちなみに、現在の広告料の3者内訳は、2紙掲載130万円の内、沖縄県が9万2千5百円で、那覇市は拠出無しとなっている。

(我喜屋理事)

沖縄県や那覇市は、広報する媒体が多種多様にある。それを利用してはどうか。

(大城課長)

3者会議においても話し合われており、沖縄県と那覇市が管轄するあらゆる媒体を利用することになっている。

(江夏副会長)

昨年は2紙へ広告掲載したこともあり、一昨年度よりは来場者が多かったように思う。また、テレビ放送も開局時間と重なっていることから患者さんへの周知もできて大変良かったと記憶している。

(亀谷会長)

今回は期も迫っており、新聞広告およびCM放送を昨年通り行うこととしたい。

特に異議無く、了承された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について <資料配付>

(2) 地域ケア会議 8月8・22日(水)那覇市地域支援センター新都心・浦添市役所 <資料配付>
(笠原常務理事)

那覇市地域包括支援センター新都心より当会へ、地域ケア会議への薬剤師派遣依頼があり、病院前薬局の新垣慎太郎氏を派遣した。今年度4回開催される予定となっている。

また、浦添市地域包括支援センターみなとんからも8月22日開催の地域ケア会議への派遣依頼があり、みね薬局の大城博次氏を派遣した。

両氏からの会議報告書を配布しているので参照いただきたい。

また、報告書の様式を取り急ぎ作成している。

(3) 平成30年度 医薬分業対策会議（講演会） 8月12日(日) 県薬 <資料配付>
(西川常務理事)

医薬分業対策会議の前に平成30年度第1回医薬分業対策委員会主催研修会を開催した。講師は全国薬剤師・在宅療養支援連絡会副会長の川添哲嗣氏で、「薬薬&多職種連携で行う薬物療法の適正化～ポリファーマシーと残薬問題を中心に～」と題してご講演いただいた。当日は台風の影響で悪天候であったが75名の参加があった。薬局薬剤師、病院薬剤師にもアカデミック且つ実践的な内容の講話で、薬物療法の適正化をメインに「ポリファーマシーの問題点」や「実践的な減処方の手順」を分かり易く教えていただいた。「地域の多職種&薬薬連携の時、患者目標の共有を」と唱えられ、「それが、真の薬物療法適正化に繋がります」と締めくくった。

川添氏は講演会終了後の「平成30年度医薬分業対策会議」にも参加された。吉田理事が川添氏の講義から引き続き同会議の司会を務めた。今年度の会議のテーマは「ポリファーマシーについて」であった。最初に、実施した病院・開局アンケート結果の報告があり、沖縄県では、開局、病院ともにポリファーマシーに対する課題に取り組めていないことが分かった。次に、ディスカッションが行われた。ポリファーマシーに取り組むために、まずは服用中の薬の内容を全部把握する必要がある。施設に入所中の方がお薬手帳を活用していないケースが散見されるという意見もあり、保険薬局はしっかりと施設には調剤の場合も含め、薬をわたす際にはお薬手帳への記載を徹底していこうという方向性が示された。

また、病院側も忙しさなどを理由に入院時の持参薬や服用薬の確認が徹底されていないことから、お薬手帳を含め、服用薬の確認の徹底を実施していこうという方向性が示された。

(4) 翁長雄志沖縄県知事告別式へ参列 8月13日(月) 大典寺
(亀谷会長)

神村武之相談役と参列した。非常に多くの参列があり、マスコミも多かった。当会から供花をした。

(5) 宮崎政久氏と薬学部創設に関する打ち合わせ会議 8月13日(月) 弁護士法人那覇総合
(亀谷会長)

翁長雄志沖縄県知事告別式に参列したあと、宮崎政久氏が代表となっている弁護士法人那覇総合に大城課長と訪問した。琉球大学への薬学部創設に関する方策を検討した。

(6) 健康サポート薬局モデル化事業打ち合わせ（患者のための薬局ビジョン推進事業）

(笠原常務理事) 8月16日(木) 会営薬局うえはら

会営薬局うえはらを健康サポート薬局モデル化するための打ち合わせを行っている。既に4回目の打ち合わせであったが、現場とかみ合わないことも多々ある。今後も現場職員と密に打ち合

わせをしていく。

(7) 平成30年度第4回学校薬剤師部会役員会
(前濱副会長)

8月19日(日) 県薬

沖縄県学校保健功労者推薦の依頼があり、人選中である。3名の受賞枠がある。第18回沖縄県健康教育大会で表彰される予定になっている。

那覇市制功労者表彰推薦の依頼が那覇市学校教育課からある。これは5年に1度の那覇市制施行記念特別表彰受賞者の中から選定するものと規定されており、今回は2名の学校薬剤師が対象となっている。その内の1名を推薦した。

去る7月31日に福岡県で開催された厚生労働省主催薬物乱用防止指導員研修会へ学校薬剤師の新垣紀子氏を派遣。研修では模擬授業もあり、実践的な指導方法を学ぶことができたという報告がある。昨年度同様、伝達研修を実施する計画をしている。

(8) なごみ会主催第8回県民健康フェア2018 8月19日(日) 沖縄コンベンションセンター展示棟
(笠原常務理事) <資料配付>

同フェアにおける薬剤師会ブースでは、健康相談コーナーに約90名、調剤体験コーナーには約70名と計160名余名の来場があり、今年も他団体より多かった。昨年はこの多さのため行列ができ、隣のブースに迷惑をかけたが、今回はチケット配布等に工夫を凝らして効率的に行うことで、行列はできなかった。

(亀谷会長)

隣の看護協会のブースと比較して、当会ブースは温かみや華やかさに欠けていたように感じた。今回は、配色やデザイン等を考慮してはどうかと思った。

(9) 平成30年度第1回沖縄県公害審査会
(我喜屋理事)

8月20日(月) 県庁 <資料配付>

調停申請書の受理について、コンビニエンスストアからの悪臭被害防止請求事件が議題となった。コンビニエンスストアから揚げ物等による油臭が隣の家へ入り臭気が滞留し、外での物干しはできず、窓も開けられない。精神的にまいって健康被害の恐れがある。ダクトを取り付けたが改善していない。近隣の他の家庭からの苦情はない。土地高低差があり、この家は臭気が淀み易い場所にある。全国展開しているコンビニエンスストアだが、他の地域の店舗で同様の事例はあるが、ダクト設置などの対応で解決できている。このコンビニエンスストアは苦情申し立てにより揚げ物を早朝に変え、1日の回数も減らした。ダクトの再工事も行い、この家とは反対側に排気するように配管を延ばした等々の改善策をとったが、一向に解決しないため調停申請となった。調停申請書を受理することとなった。

(10) 平成30年度第1回健康づくり推進協議 8月21日(火) 全国健康保険協会沖縄支部 <資料配付>
(前濱副会長)

インセンティブ制度による報奨金で保険料率が決まる。評価される指標を、①特定健診等の受診率、②特定保健指導の実施率、③特定保健指導対象者の減少率、④医療機関への受診勧奨を受けた要治療者の医療機関受診率、⑤後発医薬品の使用割合、の5項目としている。各項目の沖縄の順位は、①30位、②7位、③13位、④46位、⑤1位となっている。①については扶養者の受診が低いことが原因、④については受診勧告のハガキを送付後、3ヶ月を過ぎてからの受診が多いので、実際にはもう少し上位であろうとのことであった。インセンティブ制度では、平成29年度から試行実施を行っていたが、この段階では保険料率への反映はしなかった。今年度から本格実施し、その結果を平成32年度の都道府県単位保険料率に反映することになっている。

特定健診事業に関して、国の定めた65%を沖縄支部でも目標値に設定。被扶養者の受診率が低いことから59.8%と目標が達成されていない。この対策として、被保険者に対し平成29年度は4,046の事業所に文書を送付し、300事業所より同意書を得た。平成29年度より事業所向けに新規で説明会を開催し、年金事務所との合同研修会も実施。被扶養者に対しては新規として県内40市町村と連携し受診を勧奨。医療機関受診中の検査結果をもって特定健診受診とみなす特定健診振替業務のモデル事業を、50人を対象として実施した。生活習慣病予防検診受診率65%を目標値とする。被保険者の受診率は70%で、被扶養者の受診率は30%である。受診率アップのための新規取り組みとして、協会けんぽ単独の「ナイト健診」を年4回、「早朝健診」を年2回で実施した。未受診者へ受診勧告ハガキを送付するほか、ショッピングセンター、公共施設での「まちかど健診（出張健診）」を実施する。平成29年度は11回実施され、受診者は862名であった。

特定保健指導事業の取り組み実績は、平成29年度は6か月プログラムの中断率が直営で11%、委託で38.6%となっている。原因は、直営分は保健指導担当者研修などで支援プログラムの見直しやロールプレイを実施し、中断を防ぐために力を注いでいる。委託分は実施期間ごとの中断率に差があるので、標準化できるように取り組むことが課題である。

重症化予防事業では、勧奨後の受診率を15%の目標値としている。勧奨文書送付後3ヶ月の受診者数は9.2%で、国平均の9.8%を下回っている。追跡を6カ月にすると受診率は16.3%となり、全国平均15.3%を上回っている。受診行動を起こすまでに時間がかかる。

福寿うちな一言企業は、平成29年度は100社。平成30年度目標は180社である。

その他の取り組みとして、低出生体重児の出生要因が、妊娠初期の栄養摂取状況が原因の一つと推測されるため、妊婦の食習慣栄養調査を那覇市と浦添市の協力のもと、両市在住の妊婦を対象に「食習慣に関する質問票」に回答してもらい、その結果を東京大学大学院との共同事業で統計処理し、低出生体重児の原因分析を行った。対象者15.5%が痩せ、11.6%が肥満。また5%が妊娠中の喫煙、14.4%が妊娠中の飲酒を報告した。低体重児と妊婦の身体生活習慣状況との関連については、「やせ」「喫煙」「高血圧の既往・現病」が関連している。

(11) 管理者会議

8月21日(火) 県薬

(山城次長)

各会営薬局、薬事情報センター、試験検査センター、事務局の現況報告を行った。会営薬局とよみは相変わらず薬剤師不足のうえ、8月の間、薬剤師職員の長期休暇と医療事務の産休が重なり、応援体制を強化しないといけない。

また、10月28日開催の当会学術大会への各部署からのスタッフ派遣を呼びかけた。

(12) 平成30年度健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会

8月22日(水) 県庁 <資料配付>

(笠原常務理事)

健康長寿おきなわ復活県民会議は、「健康長寿復活に向けたロードマップ」に基づき、2040年までに男女とも平均寿命日本一の達成に向けて種々の事業に取り組んでいる。同会議前の幹事会に出席した。議題では、平成30年度沖縄県健康づくり表彰（がんじゅうさびら表彰）に係る第一次選考結果の報告と、健康長寿復活に向けたロードマップの平成29年度における目標達成状況と各団体の取り組みの報告があった。

平成30年度沖縄県健康づくり表彰は、8月30日開催の健康長寿おきなわ復活県民会議において、最終選考が行われて、最も優良な取り組みをグランプリ、それ以外を準グランプリとして選出することになっている。同表彰の地域活動部門において、第一次選考に当会の他、2団体が選出された。当会は職能団体として初めて選出されている。

健康長寿復活に向けたロードマップの平成29年度における目標達成状況と各団体の取り組みについて、当会が所属する保健・医療・福祉関係団体は、健康関連イベント等の定期的な実施について、概ね順調に推移し、目標値に到達しているとされ、高く評価されている。

(13) 第2回研究倫理審査体制編成協議会 8月22日(水) 琉球大学医学部附属病院 <資料配付>
(外間副会長)

今回の同協議会では、主に、医学系研究に関する倫理指針の内容確認と、委員構成と規定・手順書案の作成について話し合われた。

最初に、本協議会が取り組むべき内容確認と委員相互の認識を共通化した。主に、設置者の責務、倫理審査委員会の役割、倫理審査委員会の構成と成立要件などを確認しあった。

次に、委員構成と規定・手順書案の作成について、各担当者から提案された意見や、倫理指針、他県の運用状況等を参考に案を作成した。研究倫理審査委員会の構成は、外間・中村両委員と大城課長が担当し、委員会構成や成立要件(外部委員を含む5名以上、男女両性、医学・自然科学の専門家、社会・法律の専門家、一般人、設置機関に所属しない者“部外者”を複数)をふまえて、次のとおり選出した。自然科学の有識者は、中村克徳(大学教授・琉球大学医学部附属病院)、外間惟夫・潮平英郎・山内裕子(いずれも琉球大学医学部附属病院)、中尾滋久(薬局薬剤師)の5氏。人文・社会科学の有識者は、当会の指導弁護士である照屋俊之氏。一般人として、大城課長と根間ひとみ氏(琉球大学医学部附属病院事務)の2氏。山内と根間の両氏は、当会に所属していないことから構成要件の“部外者”となる。以上の8名で構成した。

審査規定、手順書等の作成は、吉田委員と大城課長が担当した。倫理審査業務手順書について、委員の任期は2年、委員会事務職員は1名以上、委員会開催を原則年3回(1月、5月、9月)とし、申請が無い場合は流会とすること、判定は全員一致が原則だが委員長判断で出席の3分の2以上の賛成とし少数意見を議事録に記録することなどが確認された。その他、メールのセキュリティーに留意すること、記載年を西暦に統一することなどの意見が出た。手順書と規定は、①人を対象とする医学・薬学系研究の実施に関する手順書、②人を対象とする医学・薬学系研究の倫理審査業務手順書、③沖縄県薬剤師会の学術研究に係る利益相反規定、④倫理審査申請の手引き、となっている。今回、配布しているので、理事各位もご確認いただきたい。他、申請に必要な各種書類や様式等も吉田委員と大城課長が担当し作成した。

倫理審査委員会の運用については、審査対象を当会会員以外の非会員も含め、審査料を会員は10,000円、非会員は50,000円と差別化し設定した。委員の報酬と交通費は、弁護士に報酬10,000円、その他は無報酬とし別に交通費を支給することとした。審査件数の見込み、委員会の開催回数は、本審査は年1～2件、迅速審査は10件程度の見込みとし、本審査は申請後に近く開催される定期委員会で審査し、迅速は随時委員長指名で処理する。

倫理審査に関する会員への周知は、当会ホームページに掲載し、日本薬剤師会倫理審査情報をリンクする。他に、FAX一斉同報やおきなわ薬剤師会報にも掲載する。

(14) 平成30年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議伝達講習会

(我喜屋理事)

8月26日(日) 県薬 <資料配付>

伝達講習会はDVD放映で行われた。内容は、①「薬局実務実習指導の手引2018年版改訂モデル・コアカリキュラム対応」を用いた実習の進め方について、②改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習に向けて～今後取り組むべき事項～、③薬学実務実習に関わる最近の動向並びに受入施設と大学の連携について、である。DVD放映後は「今後の実務実習のあり方について」を薬学生実務実習受入委員会の佐藤雅美委員長から説明した。参加者は、指導薬剤師23名、その他5名

の計28名であった。

今回の伝達講習会は、次年度から始まる新コアカリキュラムに対応した実習を行うにあたっての必須の講習会であった。保険薬局の指導薬剤師の参加が36.5%（63名中23名の参加）であったため、次年度の実務実習開始前までに、あと1回、同講習会を開催する必要がある。

ちなみに、次年度の受入薬局（指導薬剤師）と実務実習薬学生のマッチングは既に済んでいる。

(15) 第159回健康とおくすり相談会 8月26日(日) サンエー那覇メインプレイス <資料配付>
(渡具知理事)

午後1時から午後4時までサンエー那覇メインプレイス4階駐車場出入り口にて行った。いつものように、血圧測定、体成分測定、動脈硬化度測定をし、それに基づいた健康およびお薬の相談を行った。相談員9名、訪れた相談者は35名であった。

(16) 平成30年度第2回おきなわ津梁ネットワーク運営実行委員会 8月27日(月) 沖縄県医師会
(吉田理事) <資料配付>

現在、同ネットワークに参加している施設は171施設で、その内、薬局は33施設。県民登録数は41,624名となっている。よく利用する医療施設とそれ以外の差ははっきりしている。

情報開示、緊急時モード運用等のシステム拡充に伴う利用者のアクセス制限について、施設のSE、ME、メディカルクラークなどにIDを発行してアクセス権を与えている。

琉球大学医学部附属病院に創設された沖縄県連携病理診断センターの吉見直己代表より、おきなわ津梁ネットワークとの連携について打診がある。同センターは、先島を含む沖縄県内での実施が困難な診断・検査を行うことで、地域完結型のがん治療への一助となる沖縄県がん診療連携拠点病院の一翼を目指しているとのこと。

東日本電信電話株式会社（NTT）より、医療等分野におけるネットワーク基盤利活用モデルに関する調査研究の請負事業に係る「PHRの普及に向けた医療機関等と個人の間の情報連携のあり方に関する調査」実施の協力依頼がある。NTTに情報を提供するだけで、メリットは特に無い。PHRへの方向性も決めていないので、条件付きで協力することになった。

(17) 平成30年度第1回医療保険委員会 8月29日(水) 県薬 <資料配付>
(吉田理事)

必ず実施されるということではないが、再来年に沖縄県で共同指導が実施されるかもしれない。これは、3～4年に1度の割合で実施されることによる想定。

大分県で開催される九州山口薬学大会の医療保険協議会での提出議題について話し合われた。荒井理事が出席し、議題を2つ提出している。

平成30年度「調剤報酬請求業務」及び「共同指導・個別指導における指摘事項」講習会の開催について、来年3月末頃に開催、会場は浦添市てだこホールの予定。「調剤報酬請求業務」は仲真良重委員長、「共同指導・個別指導における指摘事項」は宮城幸枝副委員長が講師となることが決定された。

(18) 平成30年度健康長寿おきなわ復活県民会議 8月30日(木) 県庁 <資料配付>
(亀谷会長)

平成30年度沖縄県健康づくり表彰（がんじゅうさびら表彰）は、8月30日に県庁で開催された健康長寿おきなわ復活県民会議において最終選考が行われた。最終選考会では、第一次審査で選ばれた2部門計6団体が健康づくりの取り組みを発表。参加した委員らの投票でグランプリが決まった。笠原理事が「“あたりまえ”と“あたりまえでない”がそこにある～薬局・薬剤師によるアウトリーチ型の介入～」と題して、当会のアウトリーチ型健康とおくすり相談会事業を発表。

地域活動部門で見事に準グランプリに輝いた。職能団体としては初めての受賞であり、当会の社会活動を多くの方に紹介できて良かった。

(19)九州厚生局沖縄事務所より来訪

8月30日(木) 県薬 <資料配付>

(川満常務理事)

九州厚生局沖縄事務所より、今年10月実施分からの個別指導・新規個別指導における薬局持参物の変更点についての説明のための来訪があった。変更点は下記のとおりである。(変更が無い箇所については省略)

<変更前>

- (1) 平成30年2月、3月調剤分の協会管掌健康保険、国民健康保険及び後期高齢者医療の調剤録
- (2) 平成30年2月、3月調剤分のすべての保険医療機関からの処方箋
- (4) 薬剤服用歴管理指導料等に伴う指導文書(薬剤情報提供文書)平成30年2月、3月分
- (14) かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料に関する資料(該当薬局のみ)
 - ①当該薬剤師の雇用契約書及び毎月の勤務時間の分かる資料(直近1年分)

<変更後>

- (1) 別途通知する患者の直近1年分の協会管掌健康保険、国民健康保険及び後期高齢者医療の調剤録
- (2) 別途通知する患者の直近1年のすべての保険医療機関からの処方箋
- (4) 薬剤服用歴管理指導料等に伴う指導文書(薬剤情報提供文書) 別途通知する患者の直近1年分
- (14) かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料に関する資料(該当薬局のみ)
 - ①当該薬剤師の雇用契約書及び毎月の勤務時間の分かる資料(直近1ヵ月分)

(20)平成30年度第3回医薬分業対策委員会

8月30日(木) 県薬 <資料配付>

(西川常務理事)

平成30年度医薬分業対策会議を終えて、今後のポリファーマシー対策について話し合った。薬薬連携やポリファーマシーを解決する手順を知ることや事例共有も大切だが、薬剤師が患者に不要な薬が出ていないかという視点を持つことから始め、そのための研修や連携が必要であるとの結論であった。

FAXコーナー担当者意見交換会について、今年はFAXコーナーの他に、保険薬局にもアンケートを実施した。保険薬局からの期待は、「かかりつけ薬局」、「健康サポート薬局」「訪問服薬指導」「電子お薬手帳」等に関しても、FAXコーナーの職員には知ってもらい、可能であれば、チラシなども配置して必要に応じて説明をしてほしいなどの意見があった。

電子版お薬手帳推進事業は、5社の業者と一緒に電子版お薬手帳についての説明会を10月24日に那覇・南部地区会員対象で薬剤師会館にて開催、翌日25日には北部・中部地区会員を対象に名護市のゆがふいん沖縄にて開催する。この会員向けの説明会には5社が説明をするが、県民向けに進める業者は1~2社程度に絞り込んでいく予定。そのプロセスとして説明会参加者にアンケートをとる。参加する会員らと当会が推奨する電子版お薬手帳を決定したい。また、電子版お薬手帳を啓発する広告媒体として現在のお薬手帳を考えている。お薬手帳の背表紙に電子版お薬手帳のメリットなどを伝える文言とQRコードなどを記載して、現在のお薬手帳から電子版お薬手帳に替えてもらう方策をとる。表紙には、アリカワコウヘイ氏にデザインを依頼しており、実現する方向で進んでいる。

認知症疾患医療連携協議会が11月10日に情報交換会を開催する。認知症に対する薬剤師会の取

り組みや活動について聞きたいとのこと。同協議会委員になっている中尾滋久氏が作成するアンケートを地区薬剤師会に回答を求めることになっているので、ご協力いただきたい。

健康サポート薬局事業について、昨年度の健康サポート薬局100軒実現に向けての研修会の中で、OTC医薬品導入に向けての研修会では、企業等への問い合わせ、交渉等は12件ぐらいあったとのこと。

(21) 健康サポート薬局取材

8月31日(金) <資料配付>

薬局えば一わーな～・すこやか薬局松島店・あかみち薬局・そうごう薬局新赤十字前店
(笠原常務理事)

現時点で健康サポート薬局になっている4薬局を、事務局の大城課長と宮城氏で訪問し、取材してきた。主に、OTC医薬品の導入設置や、どのような地域貢献事業を行っているのかなどを取材した。昨年度開催した健康サポート薬局100軒実現に向けての研修会を今年度も開催するが、この取材が研修会の良い材料となった。4薬局とも共通して「健康サポート薬局」が県民にまだ認知されていないと言っていた。当会としては、もっと健康サポート薬局が増えたら県民向けに啓発していきたいと返答した。

(大城課長)

以前から広報委員会で取材を計画していたが、健康サポート薬局に関する専門知識が高い笠原常務理事が、健康サポート薬局4薬局を訪問する計画を知り同行させていただいた。おきなわ薬剤師会報にも同取材記事を掲載する。

(22) 平成30年度第1回地区薬剤師会会長会議

9月1日(土) 県薬

(山城次長)

薬学部創設を求める活動について、6月13日に琉球大学学長に署名10万1,660筆を要望書とともに提出したこと、沖縄県知事候補者の佐喜真淳氏の選挙公約に琉球大学への薬学部創設が記載されたことを報告。

今年の薬と健康の週間の事業予定を伝えた。

10月28日に開催される第32回沖縄県薬剤師会学術大会への会員発表演題が現時点で10演題(病薬6演題、開局4演題)と少ない。地区薬剤師会からも積極的な出題を依頼した。

協議事項は、北部地区薬剤師会から、①医薬品小分けの際の譲渡譲受書について、②緊急災害用携帯電話について、の2質問の提示があった。①は、記載内容が各薬局で多種多様なもので、最低限必要項目を統一して県薬より案内してほしいとのこと。これについては、医薬分業対策委員会で検討していく。②は、緊急災害用携帯電話を活用した運用フローはあるのか、災害対策委員会ではどのような位置づけで考えているのか、月額1,000円未満の経費であるため、災害時の各地区薬剤師会との連絡網として県薬負担で各地区薬剤師会に持たせてはどうか、との質問。これについて、緊急災害用携帯電話は、災害時にかける時は制限がかからない回線が利用できる位置づけとなっている。特別に運用フローは準備していないが、定期的に通話が可能なのか、バッテリーは正常か等の確認をしていただきたい。携帯電話の電話帳を北部地区薬剤師会にも提供する。経費負担については検討していく。

那覇地区薬剤師会から、①会営薬局とよみの移転について問われ、現在の進捗状況について説明した。②沖縄県薬剤師会と沖縄県病院薬剤師会の大量加入について問われ、去る6月の定時総会で説明したとおり、現在は、病薬会員の理解が深まらなないと受入れがたいと判断し、機が熟するのを待っている状態である、と回答。③行政薬剤師の入会状況について問われ、現時点で新規入会者はいないこと、日薬会費が半額になる10月以降、そして入会金免除期限の10月末を見計らっ

て入会者が増えると思われる、と回答した。

(亀谷会長)

充実した会議の後の懇親会は、普段できない交流ができ有意義であった。

(23) 第13回沖縄県薬剤師会青年薬剤師部会総会 9月1日(土) 北谷町内 <資料配付>

(上原理事)

総会の参加者は26名であった。平成29年度事業報告並びに決算報告、平成30年度事業計画並びに予算について、特に問題無く承認された。総会終了後は情報交換会が開催され、今年は実務実習薬学生、病院薬剤師も多く参加し、有意義な情報交換ができた。情報交換会の出席者は32名であった。

(24) 沖縄県医療審議会(法人部会) 9月4日(火) 県庁

(亀谷会長)

医療審議会は、医療法で規定された各都道府県に設置する附属機関。医療法の規定により、その権限に属させられた事項を調査審議するほか、県知事の諮問に応じ、医療を提供する体制の確保に関する重要事項を調査審議している。今回の同審議会法人部会では診療所6施設の法人化について審議し、全てが了承された。

また、初めて病院の吸収合併の件があり、要件は全て満たしているとのことで了承された。次回からは審議会では審議せず、県保健医療部にて検討後、知事に上程する。

(25) 社会保険診療報酬支払基金幹事会 9月5日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(亀谷会長)

毎回同様の審査状況や事業状況の報告の他に、今回は審査委員の改選があった。当方は、幹事会の参与で調剤担当者という役割を担っている。

(26) 沖縄県医薬品卸業協会公正取引協議会から来訪 9月6日(木) <資料配付>

(山城次長)

医療用医薬品卸売業協会では、公正取引委員会及び消費者庁長官の認定を受けた「医療用医薬品卸売業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約」に基づき、取引を不当に誘引する手段としての景品類の提供を制限している。公正競争規約運用体系をより具体的に解り易くするために再整備を行い、施行規則と運用基準の変更を施行した。その変更の中で、医療用医薬品卸売業公正取引協議会沖縄県地区会として、注力して改善したい項目は公正競争規約運用基準第6条となっている。同条文の項目を会員薬局へFAX一斉同報にて周知する。

(27) 第32回沖縄県薬剤師会学術大会演題申込状況について <資料配付>

(大城課長)

10月28日開催の第32回沖縄県薬剤師会学術大会の発表演題が演題申込締切日の8月31日時点で少なかつたため、改めて、例年出題している保険薬局や地区薬剤師会、病院薬剤師会に確認をしたところ17演題となり、例年通りのプログラムとなる。発表内訳は、保険薬局8演題、病院8演題、部会1演題である。週明けに開催される学術研修委員会にてプログラムが決定し、会員へ案内する。

(28) 沖縄県奨学金返還助成制度助成候補者について <資料配付>

(大城課長)

沖縄県は今年度より、県内の薬剤師不足を解消するため、県内の薬局または病院に一定期間就業したのちに、奨学金の返還額の一部を助成する制度を創設した。当会は同制度の事務事業を委託され、広く啓発し助成候補者を募った。平成30年度の助成候補者の募集を4月より開始し8月31日で締め切った。申請者は23名いたが、対象外となった方が8名いた。候補者15名の内訳は、新

卒者は10名で、薬局勤務6名、病院勤務4名となっている。既卒者は5名で、薬局勤務3名、病院勤務2名となっており、いずれも県外から沖縄県に転入してきている。募集人数が20名程度と定められているが、広報期間が短かったにもかかわらず、初年度の募集としては多くの候補者を獲得できて良かった。

(29) 平成30年7月西日本豪雨への義援金募集について (結果報告)

(山城次長)

標記義援金の募集について、期間を8月1日から8月31日までとし、FAX一斉同報にて会員に募ったところ、332,096円が集まった。

(30) その他

(新垣理事)

去る9月2日にサンエー西原シティにて南部保健所主催の健康展が開催された。南部地区保健所から「禁煙と受動喫煙防止コーナー」での相談員の要請があり、松本圭五氏と2名で対応した。南部保健所が設置した肺年齢測定器で肺活量等を測定し、その後同コーナーで相談を受け、37名の相談者が訪れた。

前回理事会にて同相談事業を9月2日に予定していることを伝えたが、今回の理事会の報告事項に無いことから、この場で報告させていただいた。

(亀谷会長)

地区薬剤師会の事業は、地区薬剤師会でデータ化して保存し、多目的に利用できるようにしてほしい。

(大城課長)

理事会議事概要の作成について、これまでは理事会に出席した事務局職員が当番制で議事概要を作成していたが、作成後の理事各位への確認までに大変な遅れをとっていた。このことで、理事から速やかに会報に掲載するようとの指摘を受けている。また、作成文にも個人差がある。そこで、専任の議事概要の作成担当者を設置することで改善を図ることとする。私、大城が担当することになった。理事各位には、理事会での発言要旨をメールで送信していただく等のご協力をいただきたい。

報告 (薬連)

(1) 那覇市の未来をひらく市民の会設立総会及び事務所開き

8月15日(水) パシフィックホテル沖縄

亀谷会長が同設立総会と事務所開きに参加した。

(2) 本田あきこ支援依頼のために医薬品卸会社を訪問

8月20日(月) 株式会社琉薬・株式会社ダイコー沖縄・8月23日(木) 株式会社スズケン沖縄薬品

(山城次長)

本田あきこ支援依頼のため、亀谷会長と卸各社を訪問した。後日、残りの卸会社を訪問する予定。

(3) 本田あきこ支援依頼のために県病院薬剤師会役員会訪問

8月24日(金) 琉球大学医学部附属病院

(山城次長)

日本病院薬剤師会も本田あきこ氏を支援することになっていることから、沖縄県病院薬剤師会の役員会の場をお借りして亀谷会長が支援依頼をした。

(4) 佐喜眞淳を支える県民の会 設立総会及び同事務所開き

8月24日(金) ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城

亀谷会長が同設立総会と事務所開きに出席した。

(5) 沖縄県知事選挙に関する意見交換会

8月30日(木) 沖縄県医師会館

(亀谷会長)

意見交換会にはなごみ会に所属する各医療団体が参加した。9月13日にパシフィックホテルにおいて、佐喜真アツシ県知事候補総決起大会を沖縄県医師連盟主催で開催する。医師連盟から各団体に積極的な参加依頼があった。安里哲好医師連盟会長は佐喜真アツシ後援会会長である。

(6) 県知事選挙における薬局等訪問

9月3・4日(月・火)

(山城次長)

9月3日に、渡嘉敷奈緒美環境副大臣が佐喜真アツシ県知事候補の応援のため来沖し、前濱総務と共に会員薬局を訪問。その際に、沖縄県薬剤師連盟から佐喜真アツシ県知事候補と松川正則宜野湾市長候補に推薦状を交付した。

9月4日には、藤井基之参議院議員と安藤哲也日本薬剤師連盟副会長が来沖し、亀谷会長が神村顧問と共に会員薬局を訪問。その際に、日本薬剤師連盟からも両候補者に推薦状を交付した。また、南部地区薬剤師会青年部として名嘉紀勝氏が本田あきこ支援依頼も含め、南部地区の薬局を訪問した。

(上原理事)

9月13日の沖縄県医師連盟主催「佐喜真アツシ県知事候補総決起大会」は全体で1,000名の参加目標を掲げているとのことだが、今までもこのような決起大会では駐車が困難で、結局、会場入りできないことがあった。バスを手配して乗り合わせる等を検討してはどうか。

(山城次長)

バスなどの手配は難しい。当会からは公共交通機関を利用して、多くの会員が参加するよう既にFAX一斉同報でよびかけた。

(7) その他

(大城課長)

沖縄県薬剤師連盟ホームページを作成中である。先に、同連盟フェイスブックを立ち上げた。

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

- | | | | |
|--------------|--------------|---|--------|
| ○管理薬剤師業務日報 | 1年分 1冊 600円 | ○薬歴カード | 各1枚 5円 |
| ○処方せん | 100枚 1冊 160円 | （国保（本人・家族）青色） （社保（本人） 白色） （社保（家族） 桃色） | |
| ○お薬手帳カバー | 1枚 22円 | | |
| ○お薬手帳 | | | |
| 薄青色 14ページ | 1冊 12円 | | |
| 薄黄色 34ページ | 1冊 22円 | | |
| ○“マッシュ君”お薬手帳 | 1冊 22円 | | |

※薄青色、薄黄色の2色ありますが、同内容・同頁です。

※表示価格は税抜きです。

平成30年12月

- 2日○第165回健康とおくすり相談会 久米島ホテルドーム 担当：那覇地区薬剤師会
平成30年度高度管理医療機器継続研修会（宮古地区開催） シモジ薬局 講師：吉田理事
- 3月○平成30年度第2回沖縄県薬業連合会代表者会議 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 亀谷会長、山城次長
- 4火○平成30年度第11回幹事会 県薬会議室
○保険指導スキルアップ研修会 がねこ薬局 主催：一般社団法人ぎのわん健康支援センター
○第9回沖縄代謝病と血管病診療フォーラム ロワジールホテル那覇 主催：バイエル薬品株式会社
- 5水○社会保険診療報酬支払基金幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
○平成30年度第3回地域保健委員会 県薬研修室
○平成30年度第2回災害対策委員会 県薬会議室
- 6木○個別指導 宮古合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・古謝真己氏
○会報取材 宮盛薬局 前濱副会長、大城課長
○平成30年度第2回琉球大学漢方医学研究会 琉球大学医学部クリニカルシュミレーションセンター 主催：株式会社ツムラ
○BLS（一次救命処置）アドバンス講習会 県薬研修室 講師：中尾滋久
- 7金○集团的個別指導 宮古合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・下地睦夫宮古地区会長
○那覇警察署来訪 県薬会議室 大城課長
○平成30年度第1回薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議 ANAクラウンプラザホテル福岡 亀谷会長、佐藤理事
○Care AF P's SQUARE 主催：バイエル薬品株式会社
- 8土○職業人講話 沖縄尚学高等学校附属中学校 講師：伊集智英
○平成30年度グジョブスクールinなは 沖縄産業支援センター 島袋さゆり、勝連貴子、伊差川サヤカ、新垣梓、上里美矢子、大城課長、事務局宮城
○平成30年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座 浦添市てだこホール パネリスト：笠原常務理事
○平成30年度入退院支援連携デザイン事業 在宅医療・介護連携に係る事例検討意見交換会 P's SQUARE 土田寛子
○平成30年度第10回理事会 県薬研修室
- 9日○平成30年度第8回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
○沖縄県歯科医師会主催 糖尿病と歯周病に関する意見交換会 沖縄県口腔保健医療センター 沖山尚美氏
- 10月○学術講演会 おきなわクリニカルシミュレーションセンター 主催：アストラゼネカ株式会社
- 11火○メトホルミンセミナー in沖縄 ダブルツリー Byヒルトン那覇首里城 主催：大日本住友製薬株式会社
- 12水○地域ケアマネジメント支援会議 那覇市地域包括支援センター新都心 新垣慎太郎氏
- 13木○平成30年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会 スクワール麹町 吉富理事
○個別指導・新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏

- 13木○平成30年度第3回地域医療支援病院運営委員会 豊見城中央病院 亀谷会長
○腸管機能改善を考える会 in 沖縄 株式会社スズケン沖縄薬品 主催：株式会社三和化学研究所
○平成30年度地域ケア個別会議の助言者研修会 県薬ホール
- 14金○試験検査センター委員会 県薬会議室
○第2回宮古地区抗凝固療法研究会 宮古地区医師会館 主催：バイエル薬品株式会社
- 15土○独立行政法人 国立病院機構 琉球病院 病棟等建替整備完成記念式典・記念講演 独立行政法人国立病院機構琉球病院 山城次長
○第11回あじまあの会 沖縄県教職員共済八汐荘 主催：サノフィ株式会社
- 16日○平成30年度女性薬剤師部会主催 第26回漢方講座 県薬研修室
- 17月○株式会社沖縄健康企画来訪 県薬会長室 亀谷会長
○上期監事監査 県薬会議室 亀谷会長、山里常務理事、山城次長、事務局上原・前原
○電子お薬手帳導入説明会 沖縄市民会館
- 18火○電子お薬手帳導入説明会 県薬ホール
- 19水○リカバリーを目指した統合失調症治療 ヒルトン沖縄北谷 主催：大塚製薬株式会社
○薬剤師が知っておくべき衛生害虫の知識についての研修会 県薬ホール
○平成30年度第1回感染症ケースカンファレンス 中頭病院 主催：豊見城中央病院・中頭病院
- 20木○平成30年度第1回沖縄県国民健康保険運営協議会 県庁 宮城幸枝氏
○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・新江裕貴氏
○株式会社じほうから取材 県薬会長室 亀谷会長、笠原常務理事、大城課長
○第88回那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室 主催：杏林製薬株式会社
○第38回薬タッチャーの会 中頭病院 主催：アストラゼネカ株式会社
- 21金○沖縄県国民健康保険課ならびに沖縄県国民健康保険連合会より来訪 県薬会議室 亀谷会長
○保険指導スキルアップ研修会 がねこ薬局 主催：一般社団法人ぎのわん健康支援センター
○Diabetes Awareness Program in 石垣島 沖縄県立八重山病院 主催：ノバルティスファーマ株式会社
- 24月○多職種コンソーシアム実践研修会 沖縄コンベンションセンター 笠原・西川・村田各常務理事、比嘉浩一氏
- 26水○社会保険診療報酬支払基金来訪 県薬会長室 亀谷会長
○第1回沖縄県医療費適正化計画検討委員会 沖縄県総務部自治研修所 亀谷会長
- 27木○平成30年度第5回医薬分業対策委員会 県薬研修室
- 28金○宮崎政久議員との面会（薬学部創設について） 宮崎政久事務所 亀谷会長、新城衛生薬務課室長、中村衛生薬務課主幹、山城次長

平成31年1月

- 4金○平成31年沖縄県小児保健協会新年会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 亀谷会長
- 5土○沖縄県看護協会受賞祝賀会・新年会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 前濱副会長
○平成31年沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 亀谷会長

- 6日○平成30年度第9回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
- 7月○月次会計監査 県薬会議室 仲程税理士、事務局上原・前原
- 健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会についての打ち合わせ 県薬会議室 笠原・西川両常務理事、盛本直也、松本圭五、大城課長、事務局宮城
- 8火○薬剤師確保対策に係る調査業務委託について教育庁訪問 教育庁 笠原常務理事、中村衛生薬務課主幹、山城次長
- 保健指導スキルアップ研修会 がねこ薬局 主催：一般社団法人ぎのわん健康支援センター
 - 平成30年度第12回幹事会 県薬会議室
- 9水○薬剤師確保対策に係る調査業務委託について尚学院（予備校）訪問 尚学院 山城次長
- 社会保険診療報酬支払基金 幹事会 ホテルサンパレス球陽館 亀谷会長
- 10木○新規個別指導 那覇市第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・川上善久氏
- 沖縄県歯科医師会新年会並びに叙勲・大臣表彰等受賞合同祝賀会 ザ・ナハテラス 亀谷会長
 - 平成30年度第4回在宅医療委員会 県薬研修室
 - 平成30年度第3回おきなわ津梁ネットワーク運営実行委員会 沖縄県医師会 吉田理事
 - 第2回スポーツファーマシスト連絡会議 県薬会議室 吉田典子（DI）、笠原大吾、平良恭子、西平勝子、小島進、南雲翔太、喜久川有子
- 11金○行政薬剤師部会総会 陽より（那覇市）
- 行政薬剤師部会との情報交換会 陽より（那覇市） 亀谷会長、前濱副会長、大城課長
- 12土○平成30年度第11回理事会 県薬研修室
- 13日○平成30年度第2回健康サポート薬局に係る研修～健康サポートのための多職種連携研修会 A～ 県薬ホール
- 平成30年度第2回健康サポート薬局に係る研修～健康サポートのための薬剤師の対応研修会 B～ 県薬ホール
- 16水○平成30年度第4回都道府県会長会議 日本薬剤師会 亀谷会長
- 日本薬剤師会 新年賀詞交換会 明治記念館 亀谷会長
 - 第5回吸入支援OkinaWa 沖縄県立宮古病院 主催：グラクソ・スミスクライン株式会社
- 17木○平成30年度第5回患者のための薬局ビジョン推進協議会 県薬会議室
- 臨床薬剤師育成研究会 株式会社琉薬 主催：株式会社薬正堂
- 18金○北部地区医師会学術講演会 ホテルゆがふいんおきなわ 主催：大日本住友製薬株式会社
- 第15回OHPAM ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 主催：武田薬品工業株式会社
- 19土○平成30年度ジュニアゴルファー講習会 沖縄県体協スポーツ会館 講師：笠原大吾、吉田典子
- 沖縄県放射線技師会 新年祝賀会 パシフィックホテル沖縄 江夏副会長
 - 株式会社沖縄健康企画創立20周年記念祝賀会 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 亀谷会長
 - 一般社団法人沖縄県臨床検査技師会 受賞祝賀会・新年会 ロワジュールホテル那覇 山里常務理事
- 20日○日薬九州ブロック会議 ホテル日航福岡 前濱副会長
- 平成30年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城

- 21月○平成30年度沖縄県自殺対策連絡協議会 県庁 村田常務理事
- 22火○真栄田篤彦沖縄県政策参与を訪問 沖縄県政策参与室 亀谷会長、新城衛生薬務課室長、大城課長
- 第1回沖縄県地域包括ケアシステム推進会議 沖縄県教職員共済会館八汐荘 荒井理事
 - 保健指導スキルアップ研修会 がねこ薬局 主催：一般社団法人ぎのわん健康支援センター
- 23水○有限会社プロジェクトゼンコ来訪 県薬会長室 亀谷会長、大城課長
- 平成30年度中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会第4回勉強会 中部地区医師会 主催：中部地区医師会
- 24木○八重山の脳を守る～てんかんと脳卒中 ANAインターコンチネンタル石垣リゾート 主催：第一三共株式会社
- 平成30年度第4回広報委員会 県薬会議室
- 26土○第2回認知症疾患医療連携に関する情報交換会 P's SQUARE 中尾滋久氏
- 27日○平成30年度第2回薬剤師認知症対応力向上研修会 県薬ホール 講師：中尾滋久氏
- 平成30年度くすり教育研修会 スクワール麹町（東京都） 平良恭子・新垣紀子両学校薬剤師部会副部長
- 28月○平成30年度入退院支援連携デザイン事業 在宅医療・介護医療に係るモデル事業＜第2回事例検討研修会＞ 沖縄協同病院 土田寛子氏
- 九州山口各県薬代表者会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱副会長
 - 九州ブロック日薬代議員予備会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱副会長
 - 平成30年度第3回医療安全対策委員会 県薬研修室
- 30水○平成30年度那覇市学校保健事務連絡会 那覇市役所
- 糖尿病カレントフォーラム in 沖縄 ラグナガーデンホテル 主催：株式会社三和化学研究所
- 31木○曙小学校ありがとう集会 曙小学校 亀谷会長
- 平成30年度第2回医療保険委員会 県薬会議室
 - 第19回沖縄「全人的医療」研究会 ロワジュールホテル那覇 主催：株式会社ツムラ
 - 平成30年度第2回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議 沖縄県南部保健所 新垣理事

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

佐久間 長昭 先生（享年78歳） 平成31年1月4日ご逝去



会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしく申し上げます。

【連絡先】 県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成30年12月

- 5水○ 本田あきこ支援依頼のため沖縄県医薬品配置協議会講習会訪問 那覇市地域職業訓練センター 山城次長
- 9日○ 自民党総務会 パシフィックホテル沖縄 亀谷会長
- 10月○ 本田あきこ先生支援依頼のため薬局訪問 薬局訪問(那覇地区) 本田あきこ、前濱副会長、山城次長、事務局花城
- 11火○ 本田あきこ先生支援依頼のため薬局訪問 薬局訪問(中部地区) 本田あきこ、江夏副会長、大城課長、事務局宮城
- 12水○ 本田あきこ先生支援依頼のため薬局等訪問 各薬局、各卸業者、各病院 本田あきこ、亀谷会長、姫野副幹事長、大城課長、事務局長嶺
 - 本田あきこさんを囲んで～沖縄県薬剤連盟フォーラムディスカッション～・懇親会 県薬ホール・研修室 本田あきこ、山本日薬連会長
- 13木○ 本田あきこ先生支援依頼のため薬局等訪問 各薬局、各卸業者 本田あきこ、山本日薬連会長、亀谷会長、山城次長、事務局花城
- 16日○ 本田あきこさんを国会へ送ろう会(女性薬剤師部会) 県薬研修室 前濱・与儀両総務、山城次長

平成31年1月

- 5土○ 衆議院議員自由民主党副幹事長ニシメ恒三郎2019年新春の集い 豊見城市立中央公民館 吉田久子幹事長、山城次長
 - 島尻あい子2019年新春の集い 浦添市産業復興センター 神村顧問、吉田久子幹事長、山城次長
- 8火○ 自由民主党沖縄県支部連合会新春の集い ロワジールホテル那覇 亀谷会長、山城次長
- 9水○ 組織強化対策についての打ち合わせ 県薬会議室 石川副幹事長、山城次長、大城課長
- 12土○ 平成31年衆議院議員宮崎政久 新春の集い P's SQUARE 新城総務、山城次長
 - 沖縄県薬剤師連盟各地区薬・部会定例会議 県薬研修室
- 20日○ 日薬連盟九州ブロック協議会 ホテル日航福岡 石川副幹事長、前濱・新城両総務
 - 日薬連盟九州ブロック女性の集い ホテル日航福岡 前濱・新城両総務
 - 本田あきこを励ます会 ホテル日航福岡 石川副幹事長、前濱・新城両総務
 - 日薬連盟九州ブロック懇談会 ホテル日航福岡 石川副幹事長
 - 島尻あい子氏来訪 県薬会長室 亀谷会長

人生って…

「門松や 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」この頃、これが納得出来てうなづくような年齢になってきた。毎月の同級生の集まりでも終活真最中と言うのが数名いて、人生の終わりを如何に家族や周りの人達の迷惑を減らして出来れば静かに閉じたいものだと真剣に話すのである。

平成31年、平成最後の年の正月である。元号の変わる年、色々な事がありそうな予感がするのである。正月明けの早々にこんなニュースが全国を駆け巡った。市原悦子さんが亡くなったのである。多くの映画に出演し名作も多数世に送っている。

また「マンガ日本昔ばなし」では一話の中で15人の声色を使い分けた事があると言う。独特なナレーションは人をひきつける魅力がいっぱいだ。言葉の天才である。この日本昔ばなしを聞いて成長した子供達は実に多いのだ。小生も市原悦子朗読のCDを持っている。井伏鱒二の「山椒魚」である。谷川の岩屋を住家とする山椒魚は体が成長し外へ出られなくなってしまう。一生涯、岩屋に閉じ込められてしまう。山椒魚は小さな穴から外の景色を見ると、そこはメダカ・水スマシなどの生き物が生を謳歌している姿を見て、自分の置かれた立場と比べて悲しくなり、だんだんと根性が悪くなってゆく。作者の鱒二は彼を岩屋から解放するべきか、そのままにして置るか50年間も考え続けたそうである。市原悦子の朗読は山椒魚の気持ち、やるせなさが伝わってくる。小生はなかなか文章が浮かんでこない時は、これを聞いてキッカケをつくっている。小生も心情的には山椒魚なのである。小生のバイブルである。市原悦子は沢山の名作を残し、夢を与え、惜しまれながら一生を終えた。我が人生に悔いは無いでしょう。

人生の終わり方には幾つかのパターンがあるようだ。ひとつは寿命を全うする、老衰。

また、病気になり治療の甲斐が無く亡くなってゆく。これはいずれも家族や医療スタッフに看取られながらである。一番多いパターンである。もう一つは自然災害・戦争・事件・事故など外力により理不尽にも生命を絶たれるケースである。今の時代、こんな事が余りにも多く周りの人達を悲しみのどん底に落とし入れている。自然災害は別として、人間の心の荒廃の時代を表しているようである。もうひとつは自分自身の人生に夢や希望をなくして、自ら命を絶つことである。年間3万人近くの自殺者がいると言う。それはチョット待って！1時間待って！1日考えて！1週間待ってごらんと言いたくなる。ゲートキーパーの活動が大事であろう。人間にとって人生は必ず終わるものだから……

霊園の墓造り、長くて古いお墓の墓終い、まだ元気のあるうちからの終活をご相談下さい。とのコマーシャルが流れる。柳卓さんだったかな？違和感を覚えながらも、つい耳を傾けるのである。振り返ると平成30年に小生の周りでも多くの親戚、友人、知人が他界した。心から御冥福を祈りたい。中でも心の中にエピソードを残して下さった人達のことが思い出される。全体像でなくチョットした数行の文章なので失礼ながらイニシアルにしたいと思います。

まず、Kさんである。昭和37年だった。那覇病院で実習した時に指導を受けたのである。粉薬を乳鉢で混和してから乳棒を無造作に調剤台にポンと置いたら、すぐに声がかかる。

「君、君、乳棒をこんな風に置くとどうなるか？グルッと回って台から落ちるだろう、どんな小さい事にも理屈はあるものだよ。」すべからくどんな小さい事にも気を配ることが大事だと教えてもらった。当時、沖縄は薬局、薬店の絶対数が少なく地域住民への医薬

品の供給が不十分で保険衛生上問題もありとされ、特例で公務員薬剤師の時間外の薬局開業を認めていた。Kさんもそれを実践していた。やがて、この制度は廃止された。Kさんは開局薬剤師の道を選んだのである。晩年は詩吟を楽しんでいた。亡くなる3日前まで患者さん対応をしていたとのことだから生涯現役を貫いたのである。御冥福を祈ります。(享年82歳 平成30年4月30日ご逝去)

Oさんである。OさんとはJPSと言うグループで長くお付き合いさせてもらった。真面目を地で行くタイプで数学が得意で高校の数学の先生もしたことがあると言う。数十年前に発行した自分史を見ると大変熱心なクリスチャンである。また、駄じゃれも大好きで小生ともよくやり取りしたものである。長男のお嫁さんがアメリカ人であるからか、よく英語も口にする。熟年の会でのことである。かぎやで風の節にのせて英語の歌詞をつけて朗々と歌い上げる。賛美歌で鍛えた喉であるから堂々たる声量である。やんやの拍手で席に戻ってくる小生の隣である。小生の悪い癖が始まった。「先生はライフ イズ ビューティフルですが、私はライフ イズ ビールフルです。」と言うと、「エエー、君は人生、ビールフル ワタヌ ミッチャカーン^{※1}と言う訳か！ワッハハ」と解説までしてくれたのである。御冥福をお祈りします。(享年87歳 平成30年5月2日ご逝去)

K・Yさんである。大学の大先輩であり沖縄戦後の薬業界をリードして来た。混乱の時代に病院薬局を経てコザで開局し薬業界の実情を体験して歴史を作って来た人物だとも言える。当時、ベトナム戦争の前後で米軍の兵隊達はいつ前線に送られるかも知れないと心がずさんで薬物の乱用などが蔓延していた。こんな事情もあってか「統制薬品令」が高等弁務官令^{※2}として出された。ところが日常生

活に欠かせない風邪薬・頭痛薬なども、ひとからげにされたものだから薬業界が大反発して抗議集会を持った。そのリーダーがK・Yさん達の年代の薬剤師さん達だった。勿論、この布令はまもなく廃止された。そのような活動で信望を集め、ついには、薬剤師会会長も務め後進の育成にも尽くされた。

また、桜坂かんびん大学^{※3}教養学部を教えてくれたのもK・Yさんで遊び心もありダンディな方だった。小生のエッセーも良く読んでくれて、ある日「MEMO」とか“雑感”なんて面白味がないから“一包一話”はどうかね！」と言われた。以来、一包一話になったのである。ネーミング有難うございました。感謝です。長年書き溜めた原稿をまとめた一包一話の製本が刷り上がったので、早速、お届けしたところ手に取りパラパラとめくりタイトルを拾い読みしてから「よく出来たね。」と言って頂いたのが嬉しかった。御冥福をお祈り致します。(享年94歳 平成30年6月6日ご逝去)

このような心に残るエピソードを残してくれたのは私達の事を忘れるな！と言っているように思える。忘れません、絶対に！

橋の下

※1 フル ワタヌ ミッチャカーン：お腹いっぱい

※2 高等弁務官令：当時沖縄を統治していたアメリカから派遣された施政官である高等弁務官が発した住民に対して効力をもつ立法的性格をもつ規定。

※3 桜坂かんびん大学：那覇の繁華街の桜坂には多くの飲み屋があり、缶や瓶のアルコールを飲みながら人生を学ぶことから筆者が好んで使う造語。



誌上ギャラリー（裏表紙）について

平成30年 誌上ギャラリー大賞



第293号（平成30年6・7・8月号）掲載 成川 玲子氏の撮影写真「スイスのマッターホルンを眺めて」

平成30年 誌上ギャラリー優秀賞



第292号（平成30年3・4・5月号）掲載 山里 美恵子氏の撮影写真「熊野詣」

第294号（平成30年9・10・11月号）掲載 亀谷 浩昌氏の撮影写真「どこかしら秋の気配」

おめでとうございます！ これからも会員の皆様からの多くの作品をお待ちしております！！

編 集 後 記

新年おめでとうございます。あるワイン会で「今年の抱負を一文字にしたため、ごあいさつする」という一興に、参加者全員が盛り上がりました。美味しいワインをいただきながらワインレクチャーを受け、美味しい料理と美味しい会話・・・最高です。今年はワインを究めようかな。。ちなみに私の一文字は「乗」。流れに乗る、チャンスに乗る、そして馬に乗る、です！ 今年もよろしくお願い致します。（クララ）

長い間、編集後記を書くのを遠慮していた。会長になってからは顧問みたいな形で編集委員会に出て、あーでもない、こうでもない勝手な意見を言っているだけであったからである。そうしている内に、委員の中で事情により活動中止状態になる人も出てきた。少なくなった委員の皆さんの負担を少しでも減らすべく、年長の私が向いているであろう「一包一話」の校正を引き受けることにしたのである。なので、書いても良いかなと判断した次第である。（亀）

あけましておめでとうございます。今年も本会員皆様、関係者各位の皆様、どうぞよろしくお願い致します。今年の抱負として、昨年、一昨年ともにおろそかにしがちだった薬剤師会の仕事を今年こそはしっかり邁進していきたい所存であります。…と書いていますが、早くも編集後記が遅れがちです。日々の仕事もそうですが、どうしても追い詰められないと前に進まない悪癖をまずは治したいと思っています。当面の目標は来年の年賀状を元旦に届くようにすることでしょうか…。（松）

あけましておめでとうございます。平成最後の年末には異常な暑さだ、台風だと騒いでいたものの、年が明ければしっかり沖縄も寒くなり、布団の暖かさに囚われる日々が続いています。隙あらば10時間でも12時間でも寝る日々に、ふと平安時代に「冬はつとめて」、冬の美しさは早朝にあると言い切った彼の文学人の感性にビビってます。雪も降る本州で、その生活… 感性だけは負けずに、しっかり休む自分を素晴らしいと思える。そんな1年にしたい、平成、そして20代最後の年。あなをか。今年もよろしくお願い致します。（dash）

整形外科分野では最もポピュラーな「変形性膝関節症」になってしまった。人よりは運動しているという自負があったので、「まさか私が！」という気持ちではあったが、実はそれは大きな勘違いで「運動による膝の使いすぎ」+「加齢による軟骨の摩耗」が原因であろう。医者にかかるのはあまり好きではないが、膝が腫れて象の足のようになり、さらに膝の裏がぼっこり腫れてしまったので、「我が身で体験すれば服薬指導に役立つだろう」と思い直し、整形クリニックに通うことにした。「関節水腫」のためこれまでに4回水抜きしているが、水抜きした翌日には又もとのように腫れてくるので、不安な気持ちになったが、理学療法士の「痛む膝をかばって大腿部の筋肉に過重な負担がかかり硬直して堅くなっている、もみほぐしてあげないといけない」と言う言葉はまさに「目から鱗！」であった。痛みの大きな原因の一つが「筋肉の硬直」とわかったことで目標が出来た。勿論これだけで簡単に治るとは思えないがゴールを目指して現在奮闘中である。(ピアナ)

大坂なおみ選手、世界一！映像と一緒にガッツポーズをする。素晴らしいのはそのプレーだけではなく、ユーモアを忘れないコメントと、相手選手への敬意。私も相手をくすりときせるだけの心の余裕をもっていきたいなと思います。(いさ吉)

福岡出張でのとある出来事。。帰沖するために空港へ向かう途中、福岡大学薬学部の教授を訪ねた時のこと。キャリアバッグから土産を取り出そうとした際、あれっ？な、無い！周囲を見渡したが、キャリアバッグがどこにも無い。頭が真っ白になりながらも記憶を辿り・・・おっ、思い出した—————っ！タクシーのトランクに乗せっぱなしではないか！！慣れない土地ということもあり、タクシー会社はおろかどの地域から乗車したのかも分からずじまいである。教授との共同作業で、福岡市内のタクシー会社数か所に手あたり次第に電話をかけまくったが、これといった情報は無し。呆然としていたその時、ちょっとまてよ？ 支払いはカードだったよな、確か。レシートにタクシー会社名乗ってるかも!? すぐさま財布やポケットを探すも見つからず、、そりゃそうだよ、いつもの癖でレシートは要らないですって断っているんだもの。結局、カード会社からの情報提供のおかげでタクシー会社を割り出すことができ、無事にキャリアバッグは戻って土産も渡すことができたのであった。帰宅後、嫁に一部始終を話した後の冷やかな視線ときたら、、懸賞等でこまめにレシートを取っている嫁に対し、日頃から難癖を付けていた代償でしょうね、、(ごり)

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
 ■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
 ■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
 ■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
 ■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第296号 平成31年2月22日発行

◇次号は、平成31年4月下旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 亀谷浩昌

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／池間記世・前濱朋子・鈴木一徳・石川恵市・伊敷松太郎
 伊差川サヤカ・座覇里奈・安次富大 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／金城智史 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 Skill

平成30年 誌上ギャラリー大賞



「スイスのマッターホルンを眺めて」 photo by 成川 玲子
第293号(平成30年6・7・8月号)掲載

平成30年 誌上ギャラリー優秀賞



「熊野詣」 photo by 山里 美恵子
第292号(平成30年3・4・5月号)掲載



「どこかしら秋の気配」 photo by 亀谷 浩昌
第294号(平成30年9・10・11月号)掲載